建学の精神

人それぞれに天職に生きる

芦屋大学創立者、福山重一博士によって定められたもので、人は誰でも天から与えられた能力・才能を持っている。その能力に気づかせ、これを伸ばすのを手助けするのが教育である。そしてその具体的手法が「職業指導学」である。

芦屋大学は、このような考えに基づいて教育を行うことにより、一人ひとりをやりがいのある仕事に就けるよう日々研鑽している。一人ひとりの学生たちが、豊かな人生を送れるようにすることは、単にその学生を個人として生かすことになるだけでなく、社会にとっても大きな貢献をすることになるのである。

Ashiya University の頭文字「A」と「U」
をデザインしています。

実践綱領

独立と自由・創造と奉仕・遵法と敬愛

【独立と自由】自由の本質をわきまえ、独立の心を養う

【創造と奉仕】創造力を培い、すすんで社会に奉仕する

【遵法と敬愛】規律を守り、互いに敬愛する心を育てる

沿　　革（略）

1964（昭和 39）年	4 月	芦屋大学（教育学部・教育学科）創立 初代学長に創立者福山重一博士が就任
1966（昭和 41）年	4 月	産業教育学科増設
1968（昭和 43）年	4 月	芦屋大学大学院教育学研究科教育学専攻 博士前期課程・博士後期課程開設
	6 月	芦屋学園理事長に芦屋大学長福山重一博士が就任
1972（昭和 47）年	4 月	英語英文学教育科増設
1973（昭和 48）年	4 月	児童教育学科増設
1985（昭和 60）年	4 月	芦屋大学大学院教育学研究科英語英文学教育専攻修士課程開設
1986（昭和 61）年	4 月	芦屋大学大学院教育学研究科技術教育専攻修士課程開設
	11 月	芦屋学園創立 50 周年記念式典挙行
1988（昭和 63）年	11 月	芦屋大学創立 25 周年記念式典挙行
2003（平成 15）年	12 月	芦屋大学創立 40 周年記念式典挙行
2006（平成 18）年	4 月	英語英文学教育科を国際コミュニケーション教育科に名称変更
2007（平成 19）年	4 月	2 学部（臨床教育学部・経営教育学部）4 学科に改組
	4 月	産業教育学科を経営教育学科に名称変更
2013（平成 25）年	4 月	国際コミュニケーション教育科を教育学科に統合
2014（平成 26）年	11 月	芦屋大学創立 50 周年

目　次

建学の精神・実践綱領……1

沿　　革……2

2019 年度大学院学事 ……4

芦屋大学大学院学則（抄）……5

別表　授業科目及び単位数 ……13

専攻の概要・履修方法 ……21

学生生活の手引き ……27

科目別授業概要 ……39
　１．教育学専攻　２．技術教育専攻　……40
　３．英語英文学教育専攻　……71
特別研究概要　……75

キャンパスマップ ……81

索　　引 ……91

2019年度 大学院 学事

学　　事	日　　時	備　考
［前期開始］	4月 1日（月）	
在院生　オリエンテーション	3月25日（月）　14時30分	本館4Ｆ 第1会議室
入　学　式	4月 2日（火）　10時	福山記念館 1階
新入生　オリエンテーション	4月 8日（月）　10時	本館4Ｆ 第1会議室
新入生　履修登録・確認	4月 9日（火）　10時～16時	教務課
前期授業開始	4月13日（土）	
健康診断	4月19日（金）・20日（土）	授業休講　掲示確認
祝日授業開講日	4月29日（月）・7月15日（月）	通常授業
学部　新入生スポーツ交流会	5月21日（火）	授業休講
前期授業終了	8月 3日（土）	
夏季休業日	8月 5日（月）～9月16日（月）	
前期終了	9月16日（月）	
［後期開始］	9月17日（火）	
全学生　履修質問・登録日	9月17日（火）　10時～16時	教務課
授業開始	9月24日（火）	
祝日授業開講日	10月14日（月）・11月4日（月）	通常授業
芦屋学園祭準備期間	10月21日（月）・23日(水)・24日(木)・25日(金)	授業休講
芦屋学園祭	10月26日（土）・27日(日)・28日(月)	
芦屋学園祭代休	10月29日（火）	休校
芦屋学園祭後片付け	10月30日（水）	授業休講
芦屋学園祭明け授業開始	10月31日（木）	
芦屋学園創立記念日	11月 1日（金）	
冬季休業前授業終了	12月25日（水）	
冬季休業日	12月28日（土）　～　1月 5日(日)	
冬期休暇明け授業開始	1月 6日（月）	
修士論文提出日	1月15日（水）　10時～16時	教務課（12時～13時を除く）
後期授業終了	2月 3日（月）	
修士論文発表会	2月 8日（土）	詳細別途
学位記授与式・謝恩会	3月 7日（土）	詳細別途

芦屋大学大学院学則（抄）

大学院学則（抄）

第１章　総　　則

第１条　芦屋大学大学院（以下「本大学院」という。）は、教育基本法に則り、学校教育法の定めるところに従い、「人それぞれに天職に生きる」の建学の精神のもとで、学術の理論及び応用を教授研究し、その深奥をきわめ、文化の進展に寄与することを目的とする。

第２条　本大学院に博士課程及び修士課程を置く。

２　博士課程の標準修業年限は５年とする。

３　博士課程は、これを前期２年の課程（以下「前期課程」という）及び後期３年の課程（以下「後期課程」という）に区分し、前期課程を修士課程として取り扱うものとする。

４　博士課程は、専攻分野について、研究者として自立して研究活動を行い、又はその他の高度に専門的な業務に従事するに必要な高度の研究能力及びその基礎となる豊かな学識を養うことを目的とする。

５　修士課程の標準修業年限は、２年とする。

６　修士課程は、広い視野にたって精深な学識を授け、専攻分野における研究能力又は高度の専門性を要する職業等に必要な高度の能力を養うことを目的とする。

第３条　本大学院に次の使命・目的をもつ研究科及び専攻・課程を置く。

教育学研究科

教育の本質を探究し、現代社会が内包する教育課題を明らかにするとともに、教育理論及び方法論を教育・研究することを目的とする。

教育学専攻（博士課程）

教育学研究科の目的・使命とともに、併せて企業経営に関する教育の課題及び方法論を教育・研究することを目的とする。

英語英文学教育専攻（修士課程）

特に英語、英文学に関する教育について、課題及び方法論を研究することを目的とする。

技術教育専攻（修士課程）

特に技術教育に関する課題及び方法論を研究することを目的とする。

第４条　本大学院の収容定員は次のとおりとする。

研究科名	専攻名	博士前期課程		博士後期課程	
		入学定員	収容定員	入学定員	収容定員
教育学研究科	教育学専攻	１０	２０	５	１５

研究科名	専攻名	修士課程	
		入学定員	収容定員
教育学研究科	英語英文学教育専攻	５	１０
	技術教育専攻	５	１０

第２章　機　　関

第５条　本大学院の運営のために大学院委員会及び専攻別委員会を置く。

第６条　大学院委員会は、次に掲げる委員をもって組織する。

(1) 学　長

(2) 専任教員

第７条　学長は、大学院委員会を招集しその委員長となる。

第８条　大学院委員会は、定員の３分の２以上の出席がなければ開くことができない。議決には３分の２以上の賛成があることを要する。

第９条　大学院委員会は、次に掲げる事項を審議する。

(1) 大学院の組織及び運営に関する事項

(2) 大学院に関する諸規則の制定・改廃に関する事項

(3) 学位論文の審査に関する事項

(4) 教育課程に関する事項

(5) 学生の入学・休学・退学・転学及び懲戒に関する事項

(6) 教員組織に関する事項

(7) 学位授与に関する事項

(8) その他大学院に関する重要なる事項

第１０条　専攻別委員会は、次に掲げる委員をもって組織する。

(1) 専攻代表

(2) 当該専攻の専任教員

第１１条　専攻代表は、専攻別委員会を招集し、その委員長となる。

第１２条　専攻別委員会は、定員の３分の２以上の出席がないと開くことができない。議決の方法は、出席者の３分の２以上の賛成があることを要する。

第１３条　専攻別委員会は、次に掲げる事項を審議する。

(1) 当該専攻の組織及び運営に関する事項

(2) 当該専攻の諸規則の制定・改廃に関する事項

(3) 学位論文の審査に関する事項

(4) その他当該専攻に関する重要事項

第 3 章　課程・専攻、履修方法等

第１４条　本大学院の教育課程・専攻別開講科目は、別表のとおりとする。

第１５条　修士課程又は博士前期課程の修了の要件は、２年以上在学し、所定の授業科目について30 単位以上を修得し、かつ必要な研究指導を受けた上で修士論文の審査及び最終試験に合格しなければならない。ただし、在学期間に関しては、優れた業績を上げた者については、１年以上在学すれば足りるものとする。また、定められた修業年限では大学院の教育課程の履修が困難な者については標準修業年限を超えて課程の修学を行うことができる。

２　前項の場合において当該課程の目的に応じ適当と認められるときは特定の課題についての研究の成果の審査をもって修士論文の審査に代えることができる。

３　教育職員免許状を得ようとするものは、第１項の規定に依るものの外教育職員免許法及び同施行規則に定める単位を修得しなければならない。本大学院で取得できる免許状は次のとおりとする。

専攻等名	免許状の種類	免許教科
教育学専攻	高等学校教諭専修免許状	地理歴史 公　　民 職業指導 情　　報
	中学校教諭専修免許状	社　　会 職業指導
	小学校教諭専修免許状	
	幼稚園教諭専修免許状	
英語英文学教育専攻	高等学校教諭専修免許状	英　　語
	中学校教諭専修免許状	英　　語
技術教育専攻	中学校教諭専修免許状	技　　術

4　修士課程（博士前期課程）の在学年限は5年、博士後期課程の在学年限は6年とし、これを超えることはできない。

5　修士課程（博士前期課程）に入学を希望する者が、職業を有している等の事情により、第2条に定める標準修業年限を超えて一定の期間にわたり計画的に教育課程を履修し修了することを希望する旨を申し出たときは、大学院委員会の議を経て、長期履修学生として、委員長はその計画的な履修を認めることができる。
長期履修学生に関する必要な事項は別に定める。

第１６条　博士課程の修了の要件は、5年（前期課程に2年以上在学し、当該課程を修了した者にあっては、当該課程における2年の在学期間を含む）以上在学し、所定の授業科目について30単位以上を修得し、かつ必要な研究指導を受けた上、博士論文の審査及び最終試験に合格しなければならない。ただし在学期間に関しては優れた研究業績を上げた者については専攻別委員会が認めた場合に限り、この課程に3年（前期課程に2年以上在学し、当該課程修了者にあっては当該課程における2年の在学期間を含む）以上在学すれば足りるものとする。

2　前条第1項ただし書前半の規定による在学期間をもって修士課程又は博士前期課程を修了した者の博士課程の修了の要件については、前項中「5年（前期課程に2年以上在学し、当該課程を修了した者にあっては、当該課程における2年の在学期間を含む。）」とあるのは、「前期課程における在学期間に3年を加えた期間」と、「3年（前期課程に2年以上在学し、当該課程を修了した者にあっては、当該課程における2年の在学期間を含む。）」とあるのは「3年（前期課程における在学期間を含む。）」と読み替えて、前項の規定を適用する。

3　第1項及び前項の規定にかかわらず、学校教育法施行規則（昭和22年文部省令第11号）第70条の2の規定により、大学院への入学資格に関し修士の学位を有する者と同等以上の学力があると認められた者が、博士課程の後期3年の課程に入学した場合の博士課程の修了の要件は、大学院に3年以上在学し、必要な研究指導を受けた上、博士論文の審査及び最終試験に合格しなければならない。ただし在学期間に関しては優れ

た研究業績を上げた者については専攻別委員会が認めた場合に限り、大学院に１年以上在学すれば足りるものとする。

第１７条　学生は、その履修しようとする授業科目を指定の期日までに指導教員を通じ学長に届出なければならない。

第１８条　試験・審査は、科目試験、学位論文審査及び最終試験とする。

２　科目試験は、その授業科目の講義の終了した学期末に行う。

第１９条　学位論文又は所定の研究成果の審査は、専攻別委員会が選出した学位論文審査委員がこれを行う。

２　学位論文又は所定の研究成果提出の時期は、その都度公示する。

第２０条　最終試験は、所定の単位を修得し学位論文又は所定の研究成果を提出した者につき、その論文又は研究成果を中心として筆記又は口頭をもって、前条の学位論文審査委員がこれを行う。

第２１条　単位の修得、学位論文又は所定の研究成果及び最終試験の合格又は不合格は、大学院委員会において決定する。

第２２条　所定の単位を修得し、かつ必要な研究指導を受けた上、学位論文又は所定の研究成果の審査及び最終試験に合格した者に対しては、その課程に応じ修士又は博士の学位を授与する。

第４章　入学・転入学・休学・退学・復学及び再入学

第２３条　入学、転入学及び再入学の時期は 各期のはじめとする。

第２４条　修士課程又は博士前期課程に入学することのできる者は、次の各号の一に該当する者でなければならない。

(1) 大学を卒業した者

(2) 外国において学校教育における 16 年の課程を修了した者

(3) 文部科学大臣の指定した者

(4) 大学に 3 年以上在学し、所定の単位を優れた成績をもって修得したものと本学大学院が認めた者

(5) 短期大学を卒業した者で入学時に満 22 歳を超え、本学において社会経験等を加味して大学卒業と同等以上の学力があると認めた者

(6) 本学において大学を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者

第２５条　博士後期課程に入学することのできる者は、次の各号の一に該当する者でなければならない。

(1) 本研究科又は他の大学院で修士の学位を得た者

(2) 外国において修士の学位に相当する学位を授与された者

(3) 文部科学大臣の指定した者

(4) 本学において修士の学位を有する者と同等以上の学力があると認めた者

第２６条　入学志願者は、所定の書類に入学検定料を添えて、指定の期日までに提出しなければならない。

第２７条　入学志願者に対しては、学力、健康その他について選考の上、入学を許可する。

２　選考の方法、期日等についてはその都度これを定める。

第２８条　他の大学院に在学している者が、その大学院の許可を受けて、本大学院に転入学を願い出たときは、欠員のある場合に限り選考の上、入学を許可することがある。

第２９条　入学又は転入学を許可された者は、指定の期日までに保証人連署の上、在学誓書に入学

金を添えて提出しなければならない。

2　入学を許可された者が、前項の手続を行わないときは入学の許可を取消す。

第３０条　前条の保証人は、父母又は近親者とし、学納金及び学生の在学中における一切の事項に関し連帯の責任を負うことのできる者とする。

第３１条　病気その他やむを得ない事由により就学できないときは、保証人連署の上、願い出て許可を受けて休学することができる。

2　休学の期間は、修士課程（博士前期課程）の場合１年、博士課程の場合は前期後期課程合わせて２年以内とする。ただし特別な理由がある場合はそれぞれ１年を限度として休学期間の延長を認めることができる。

3　休学は在学年数に算入しない。

4　休学を願い出た者は、各期あたり 6,000 円の学籍管理費を所定の期日までに納付しなければならない。

学籍管理費納入期限　(1) 前期　　４月末日
　　(2) 後期　１０月末日

5　休学の事由がなくなったときは、学長の許可を得て復学することができる。ただし、病気による休学の場合は、復学願書に医師の診断書を添付しなければならない。

第３２条　病気その他やむを得ない事由により退学しようとする者は、保証人連署の上、願い出て許可を受けなければならない。

第３３条　退学した者が保証人連署の上再入学を願い出たときは、選考の上再入学を許可することがある。

第５章　学年・各期及び休業日

第３４条　学年は、4 月 1 日に始まり翌年 3 月 31 日に終る。

第３５条　学年を次の 2 期にわける。

前　期　　4 月 1 日から 9 月 30 日まで
後　期　　10 月 1 日から翌年 3 月 31 日まで

ただし、学長は各期の授業日数を勘案して、前期の終期及び後期の始期を変更することができる。

第３６条　休業日は、次のとおりとする。

(1) 日曜日、国民の祝日に関する法律に規定する休日
(2) 創立記念日　（11 月 1 日）
(3) 夏季休業日
(4) 冬季休業日
(5) 春季休業日

2　前項の休業日は学年のはじめに学長が定める。

3　必要がある場合学長は、第 1 項の休業日を臨時に変更し、又は臨時に休業日を定めることができる。

第６章　学　　費

第３７条　入学検定料、入学金、授業料及び施設費（以下、「学納金」という。）は次のとおりとする。

○博士前期課程・修士課程

(1) 入学検定料	35,000 円
(2) 入　学　金	350,000 円
(3) 授　業　料	
１年目	600,000 円
２年目	600,000 円
(4) 施　設　費	年額　450,000 円

○博士後期課程

(1) 入学検定料	35,000 円
(2) 入　学　金	350,000 円
(3) 授　業　料	
１年目	550,000 円
２年目	550,000 円
３年目	550,000 円
(4) 施　設　費	年額　450,000 円

２　入学検定料は出願時に、学納金は所定の期日内に納付しなければならない。
３　授業料その他の納付金を滞納している者は、試験を受けることができない。
４　本学修士課程（博士前期課程）から後期課程に進学する場合は入学金を免除する。
５　成績優秀者には奨学金の支給又は学納金の減免奨学金を認める場合がある。
６　長期履修学生の学納金は、芦屋大学大学院長期履修学生に関する規程に定める。
７　外国人留学生の学納金は、芦屋大学大学院外国人留学生規程に定める。
８　学納金納入期限
　前期　　４月末日
　後期　１０月末日
９　前項にかかわらず、経済的な理由等により、納付期日までに学納金納付が困難であると学長が認めた場合、分納又は延納を許可することがある。ただし、詳細については別に定める。

第３８条　既に納めた入学検定料、入学金及び学納金は、特別の場合を除き返却しない。

第７章　科目等履修生

第３９条　本学の授業科目の一部を選んで履修を希望するものがあるときは、学生の学習を妨げない場合に限り、選考の上科目等履修生として入学を許可することがある。ただし履修を希望することのできるものは、第 24 条の各号の一に該当するものとする。
２　科目等履修生として修得出来る単位数は最大 18 単位とする。

第４０条　前条の科目等履修希望者は、科目等履修願書に詮衡料 20,000 円を添えて提出しなければならない。科目等履修料は、1 単位につき 10,000 円とする。

第４１条　科目等履修生は、履修した授業科目の修了試験を受けることが出来る。試験に合格した場合には、申出により修了証明書を授与することがある。
２　科目等履修生としての在学期間及び取得単位のみを以って正規の課程の在学期間及び取得単位に代え、本大学院の修了資格を取得することはできない。

第４２条　科目等履修生には、第 4 条、第 15 条、第 16 条、第 22 条、第 26 条ないし第 37 条、第 38 条を除き本学則を準用する。

第８章　懲　　戒

第４３条　本大学院学則又は本大学院の諸規則に違反し、その他学生の本分に反する行為があったと認められた者は、所定の手続きにより学長が懲戒する。

２　懲戒は、本大学学則の規定を準用する。

第９章　除　　籍

第４４条　除籍は次の各号の一に該当する者に対して行なう。

(1)　在籍年限を越えた者

(2)　学納金納付を怠り、督促及び警告を受けても、なお納付しない者

(3)　長期にわたり連絡のとれない者

(4)　第 31 条 2 項に定める休学期間を超えた者

第１０章　留　　学

第４５条　国内外の大学院で学修することを志願する者が留学を願い出たときは、選考の上留学を許可することがある。

２　留学先で履修した授業科目の修得単位は大学院委員会の認定により、修了に必要な単位に算入することができる。

３　留学期間は在学年数に算入する。だたし学費は納入しなくて良い。

第１１章　自己点検評価等

第４６条　本大学院は、教育研究水準の向上を図り、第 2 条 4 項及び 6 項の目的を達成するため教育研究活動等について自己点検及び評価を行う。

２　授業及び研究指導の内容・方法の改善を図るための組織的な研修(FD)を実施する。FD に関する規定は別途定める。

別表　授業科目及び単位数

別表　授業科目及び単位数

教育学研究科　教育学専攻　博士前期課程（修士課程）　授業科目及び単位数　(1)

分野	授業科目	単位数	備　　考
教育学	教育学基礎研究Ⅰ①	2	隔年開講
	教育学基礎研究Ⅰ②	2	隔年開講
	西洋教育思想・思想史Ⅰ	2	
	西洋教育思想・思想史Ⅱ	2	
	生徒指導・進路指導特論Ⅰ	2	
	生徒指導・進路指導特論Ⅱ	2	
	教育哲学研究	2	
	人間関係論研究	2	
	日本教育思想史Ⅰ	2	隔年開講
	日本教育思想史Ⅱ	2	隔年開講
	教育学演習Ⅰ	2	隔年開講
	教育学演習Ⅱ	2	隔年開講
	健康スポーツ教育学研究Ⅰ	2	
	健康スポーツ教育学研究Ⅱ	2	
教育文化学	教育経営論研究	2	
	教育行政学Ⅰ	2	隔年開講
	教育行政学Ⅱ	2	隔年開講
	比較教育学研究	2	
	教育社会学Ⅰ	2	
	教育社会学Ⅱ	2	
	生涯教育学Ⅰ	2	
	生涯教育学Ⅱ	2	
	教育文化学演習	4	
教育心理学	教育心理学	2	
	発達心理学	2	
	教育評価	2	
	臨床心理学	2	
	心理検査法	2	
	学校カウンセリングⅠ	2	
	学校カウンセリングⅡ	2	
	社会心理学研究	2	
	臨床心理学特論	2	
	教育心理学演習	4	

教育学研究科　教育学専攻　博士前期課程（修士課程）　授業科目及び単位数　(2)

分野	授業科目	単位数	備　　考
人間環境	人間環境研究	2	
	環境教育研究	2	
	健康教育研究	2	
	環境保健学研究	2	
	産業衛生学演習	4	
	健康学研究	2	
	環境生物学研究	2	
	都市環境研究	2	
	都市環境演習	2	
	環境技術研究	2	
	国際文化研究	2	
	地域文化研究	2	
	環境政策研究	2	
	NPO 研究	2	
	福祉行政研究	2	
	国際開発教育研究	2	
産業技術	科学技術研究	2	
	技術と人間形成	2	
	計算科学研究	2	
	現代産業技術	2	
	情報システム論	2	
	情報数理研究	2	
	マルチメディア研究	2	
	機械工学研究	2	
	情報教育研究	4	
	CG/CAD 研究	2	
	自動車技術研究	2	
	都市環境研究	2	
	都市環境演習	2	
	環境技術研究	2	

教育学研究科　教育学専攻　博士前期課程（修士課程）　授業科目及び単位数　(3)

分野	授業科目	単位数	備　　考
特別支援教育（その他）	授業の臨床研究	2	
	精神医学研究Ⅰ	2	
	家庭教育研究	2	
	脳科学研究	2	
	司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開	2	
	心理アセスメントに関する理論と実践	2	
	心の健康教育に関する理論と実践	2	
	精神医学演習	2	
	臨床心理学特論	2	
	障害児福祉論	2	
	特別支援教育研究（制度と歴史）	2	
	特別支援教育研究（コミュニケーションと人間関係）	2	
	障害心理学研究	2	
	障害心理学演習	2	
	障害生理学研究	2	
	障害生理学演習	2	
	障害病理学研究	2	
	障害病理学演習	2	
	障害教育課程論	2	
	障害教育指導法	2	
	特別支援教育演習	4	
	特別支援カウンセリング	2	

特別研究	特別研究	4	必修 1年 特別研究Ⅰ 2単位，2年特別研究Ⅱ 2単位

※論文指導教員の指導をもとに、最低８科目（特別研究Ⅰ・Ⅱを含む）の履修科目を決定する。

教育学研究科　英語英文学教育専攻（修士課程）　授業科目及び単位数

分野	授業科目	単位数	備　　考
共通科目	教育学基礎研究Ⅰ①	2	
	教育学基礎研究Ⅰ②	2	
	西洋教育思想・思想史Ⅰ	2	
	西洋教育思想・思想史Ⅱ	2	
	生徒指導・進路指導特論Ⅰ	2	
	生徒指導・進路指導特論Ⅱ	2	
	日本教育思想史Ⅰ	2	
	日本教育思想史Ⅱ	2	
	教育学演習Ⅰ	2	
	教育学演習Ⅱ	2	
	教育行政学Ⅰ	2	
	教育行政学Ⅱ	2	
	教育社会学Ⅰ	2	
	教育社会学Ⅱ	2	
	生涯教育学Ⅰ	2	
	生涯教育学Ⅱ	2	
	臨床心理学特論	2	
	学校カウンセリング1	2	
英語学・英語教育	外国語としての英語教材教育	2	
	英語科教授法の実践的研究	2	
	英米における言語教育の実際	2	
	英語教育と英語の成り立ち	2	
	新しい英語科教授法	2	
	日本における英語教育の実際	2	
	各種英語検定試験と英語教育	2	
	マスメディアと英語教育	2	
	言語学の成り立ち	2	
	世界語としての英語	2	
	言語学と英語教育	2	
国際文化	国際福祉論	2	
	国際文化論	2	
	西欧文化論	2	
	国際関係論	2	
	アジア文化論	2	
	ロシア・東欧文化論	2	
英米文学・文化	英文学とリーディング教育	2	
	文学教材を活かす英語教育	2	
	米文学とリーディング教育	2	
	英米文学と映像教育	2	
	英文科研究	2	
	英語圏文化と異文化理解	2	
	英米会話実践研究	2	
特別研究	特別研究	4	必修 1年 特別研究Ⅰ 2単位，2年 特別研究Ⅱ 2単位

※論文指導教員の指導をもとに、最低８科目（特別研究Ⅰ・Ⅱを含む）の履修科目を決定する。

教育学研究科　技術教育専攻（修士課程）　授業科目及び単位数　(1)

分野	授業科目	単位数	備　　考
共通科目	教育学基礎研究Ⅰ①	2	
	教育学基礎研究Ⅰ②	2	
	西洋教育思想・思想史Ⅰ	2	
	西洋教育思想・思想史Ⅱ	2	
	生徒指導・進路指導特論Ⅰ	2	
	生徒指導・進路指導特論Ⅱ	2	
	日本教育思想史Ⅰ	2	
	日本教育思想史Ⅱ	2	
	教育学演習Ⅰ	2	
	教育学演習Ⅱ	2	
	教育行政学Ⅰ	2	
	教育行政学Ⅱ	2	
	教育社会学Ⅰ	2	
	教育社会学Ⅱ	2	
	生涯教育学Ⅰ	2	
	生涯教育学Ⅱ	2	
	臨床心理学特論	2	
	学校カウンセリング1	2	
技術教育	技術科教育課程論Ⅰ	2	
	技術科教育課程論Ⅱ	2	
	技術科教育研究	2	
	技術科教育研究演習	2	
	技術科教材研究Ⅰ	2	隔年開講
	技術科教材研究Ⅱ	2	
	技術と人間形成	2	隔年開講
	技術科と情報教育	2	
	技術科と情報教育演習	2	
	環境教育研究	2	
	自動車技術研究	2	
	諸外国における技術教育の現状	2	
	教育メディア研究	2	
	情報倫理研究	2	
産業技術	科学技術研究	2	
	計算科学研究	2	
	現代産業技術	2	
	情報システム論	2	
	情報数理研究	2	
	マルチメディア研究	2	
	機械工学特論	2	
	情報教育研究	2	
	CG/CAD 研究	2	
	都市環境研究	2	
	都市環境演習	2	
	環境技術研究	2	

教育学研究科　技術教育専攻（修士課程）　授業科目及び単位数　(2)

分野	授業科目	単位数	備　　考
キャリア開発	職業指導学研究	2	
	キャリア教育研究	2	
	職業選択研究Ⅰ	2	
	職業選択研究Ⅱ	2	
	産業心理学研究	2	
	組織心理学研究	2	
	キャリア・カウンセリング研究	2	
	キャリア・マネジメント研究	2	
	人材育成研究	2	
	経営組織研究	2	
	経営戦略研究	2	
	事業開発研究	2	隔年開講
	商品開発研究	2	
	経営研究	2	
	経営管理研究	2	
	企業診断研究	2	隔年開講
	経営情報処理研究	2	
	マーケティング研究	2	
	企業財務研究	2	
	企業金融研究	2	
	非営利組織研究	2	
	人的資源管理研究	2	隔年開講
	技術戦略研究	2	
	国際経営研究	2	隔年開講

人間環境	人間環境研究	2	
	健康教育研究	2	
	環境保健学研究	2	
	産業衛生学演習	4	
	健康学研究	2	
	環境生物学研究	2	
	都市環境研究	2	
	都市環境演習	2	
	環境技術研究	2	
	国際文化研究	2	
	地域文化研究	2	
	環境政策研究	2	
	NPO 研究	2	
	福祉行政研究	2	
	国際開発教育研究	2	

特別研究	特別研究	4	必修 1年 特別研究Ⅰ 2単位，2年 特別研究Ⅱ 2単位

※論文指導教員の指導をもとに、最低８科目（特別研究Ⅰ・Ⅱを含む）の履修科目を決定する。

特別研究一覧表

特　別　研　究　名	50音順 担当教員	掲載頁
特別研究〔事業開発〕	今　岡　重　男	77
特別研究〔教育学演習〕	三　羽　光　彦	76
特別研究〔心理臨床演習〕	林　　知　代	79
特別研究〔教育方法学〕	藤　本　光　司	77
特別研究〔教育心理学演習〕	三　浦　正　樹	77
特別研究〔技術科教材開発〕	盛　谷　　亨	78
特別研究〔環境生物学〕	渡　　康　彦	76

特別研究は１年次前期より２年次において、修士論文に係る内容を履修するものであって、論文指導の教員が担当する。

専攻の概要
履 修 方 法

専攻の概要

１．修士課程（博士前期課程）

本大学院の研究科名は教育学であり、その中に３つの専攻がある。このうち教育学専攻の前期課程は修士課程として扱っているので、ここでは修士課程について概要を示す。

教育学専攻

教育学専攻には教育学関連と経営教育学関連の２つの分野がある。

⑴教育学関連分野：教育学的・教育文化学的・教育心理学的研究を目標とし、教育学の理論と実践およびその教授法・指導法を学問的に研究する。特に学校教育現場の具体的諸問題を臨床教育学的立場から研究し学校教育に生かすことを重視している。また本学発達障害教育研究所と連携し、発達障害者の理解と教育に向けて教育学、心理学、脳科学等の異分野から総合的に研究するカリキュラムを編成し独創的取り組みも行っている。

⑵経営教育学関連分野：本学の経営教育学部の上に位置し、リーダーとしての資質を有し、産業能力を身につけた高度専門職業人育成をめざしている。産業技術や心理および人間環境など幅広い学識を身につけキャリア開発に関する先進的な研究を行う。

技術教育専攻

学校教育における「技術教育」のあり方に関する演習を軸に、広く一般普通教育の中にそれをどう位置づけるべきかを研究する。また「現在の産業・情報技術」に関する高度な知識と応用力を身につけ、さらに「入間と環境のあり方」を考察し、「企業」や「教育現場」など実用化できる能力を培う。

研究領域としては次の４分野があり、総合的な能力開発を目指している。

⑴技術教育：学校教育における技術科教育の在り方に関する演習を中核に据え、広く一般普通教育の中にどう位置づけるべきかについて研究する。

⑵キャリア開発：技術と経営の面から産業能力の向上を図り、キャリア開発分野の研究課題に先進的に取り組むための能力を育てる。

⑶産業技術：現代の産業・情報技術に関する高度な知識と応用力を身につけ、企業や教育現場等において実際に展開していくことのできる能力を高める。

⑷人間環境：人間を取り巻く環境を自然・社会・文化を基本に据え、人間と環境のあり方を深く考究していくための研究能力を育成する。

英語英文学教育専攻

「英語」が有する本来の意味の追求のみならず、言語使用の場の持つ意味（社会的コンテクスト）や広がり（国際性）、また他言語・他文学・他文化との相互関係と比較も研究対象としている。本専攻の研究領域には、次の３分野がある。

⑴英語学・英語教育分野：国内外の多様な英語教育の方法論と種々の実践的技能の研究によって、優れた英語指導者を育成する。

⑵国際文化分野：実践的な英語力と国際的な感性を磨き、未来の国際社会で活躍できる人材を輩出する。

⑶英米文学・文化分野：英米文学・文化の研究を通して、「英語圏文化」を包括的に環解し、さらに高度な研究をめざす人材を育てる。

以上のように、各専攻内にはいくつかの分野が設定され、院生の適性、志望に沿った研究テーマの選定、遂行が可能なようになっている。

2. 博士後期課程

博士後期課程は教育学専攻に属するが、技術教育専攻、英語英文学専攻の履修者も博士後期課程に進学できる。後期課程では、学則にあるように「専攻分野について、研究者として自立して研究活動を行い、又はその他の高度に専門的な業務に従事するに必要な高度の研究能力及びその基礎となる豊かな学識を養うこと」を目的としており、計画した研究テーマに対して、担当教員の指導の下に研究を進め、博士論文をまとめる。履修に必要な 30 単位は修士課程で修得しているので本課程では研究を進め、学会発表等を行い、博士論文を仕上げることが求められる。論文審査及び試験に合格すると教育学博士又は学術博士の学位が与えられる。

なお、後期課程では研究遂行、成果の学会発表などのプロセスを経て博士論文を作成することになるが、限られた時間で論文を仕上げることは容易ではない。修士課程での研究、あるいは社会人としての今までの研究蓄積を生かした適切なテーマの選定、研究推進が望ましい。入学後は担当教員が研究及び論文の指導を行なうが、テーマの内容や研究の進め方について事前によく相談しておくのが良い。

但し、研究を進めるにあたり、指導教員と相談し、必要とされる博士前期（修士）課程開設科目の履修を推奨する。

履修方法等について

修士課程（博士前期課程）：

1．指導教員及び履修科目の決定

(1)自己の研究科目、研究テーマの選定に合わせて、修士論文作成等の指導を受ける指導教員が決定される。

(2)履修科目に関し、院生は専攻の開講科目の中から 30 単位以上を登録し、修得しなければならない。（特別研究を含む）

(3)履修科目の選択に際しては、指導教員の指示を受け、研究テーマに添って関連の科目を履修すること。特に指導教員の特別研究は必ず履修しなければならない。

(4)開設授業科目及び担当教員名は別表第 1、第 2、第 3 の通りである。

2．履修科目の登録

(1)履修登録は、所定の期日までに手続きを完了すること。

(2)履修登録完了後の変更、及び取り消しは、原則として認めない。

(3)一度単位を修得した同一教員による同一科目は、再度履修することが出来ない。

3．試験及び成績評価

(1)定期試験は、前期・後期においてそれぞれの科目について実施する。

(2)成績は、試験・論文・レポート・平常の成績を総合して行う。評価は、優・良・可・不可の 4 段階とし、100 点満点の得点を次のように区分する。
優…100～80、良…79～70、可…69～60、不可…59 点以下。

(3)単位認定は各科目とも原則として、半期ごとに行う（ただし、シラバス履修条件に注意すること）。

4．修了要件

(1)修了要件は、修士課程に 2 年以上在学し、所定の科目について 30 単位以上修得し、かつ、指導教員の指導を受けた上、修士論文を提出してその審査及び最終試験に合格すること。

(2)研究科において適当と認めたときは、特定の課題についての研究の成果の審査をもって前項の修士論文の審査に代えることができる。

(3)特に優れた研究業績を上げた者の在学期間は、修士課程に 1 年以上在学すれば足りるものとする。

(4)第 1 学年は大学院で履修し、第 2 学年は所定の指導に従い学外で研修することが認められる場合がある。

(5)修士課程の在学期間は、５年を越えてはならない。

5．専修免許状授与の所要資格

専修免許状を取得するには下記の基礎資格を有し、教科及び教職に関する科目の単位を取得すること。なお、平成３０年度３月学部卒業者より適用する。

（教育職員免許法　別表第１）

免許状の種類	基礎資格	大学院における最低取得単位数
		教科及び教職に関する科目
幼稚園教諭専修免許状	幼稚園教諭一種免許状を有すること。	75
小学校教諭専修免許状	小学校教諭一種免許状を有すること。	83
中学校教諭専修免許状	中学校教諭一種免許状を有すること。	83
高等学校教諭専修免許状	高等学校教諭一種免許状を有すること。	83

6．修士論文について

1. 学位論文（修士）を提出しうる期間は、所定の単位を修得した日から 5 年以内とする。
2. 学位論文（修士）は審査・保存用に 5 部作成し指導教員を通じて提出する。

7．修士論文の提出日程および注意事項

修士論文題目提出：1 年次 10 月末日

特に様式は指定しないが、研究題目、目的および方法を A4 版ワープロ横書き 2000 字(2 枚)程度で記述し、指導教員の署名捺印を得て教務課に提出する。

修了予定年度に論文を提出しないものはその旨明記し、指導教員の署名捺印を得て教務課に提出すること。

中間発表会：1 年次 2 月中旬

レジュメを用意し、研究進展状況を報告する。

仮審査用論文提出：2 年次 10 月末日

コピー 3 部提出(製本の必要なし)

P26 の様式を参照しながら作成すること。

修士論文提出：2 年次 1 月 15 日 10 時～16 時（15 日が日祝日の場合は翌日とする）

本論 4 部(正本 1 部、副本 3 部)を本学所定の方法で製本し、教務課に提出する。

期限厳守(期限を越えて提出したものは受け付けない)。

P26 の様式を参照しながら作成すること。

修士論文発表会：2 年次 2 月中旬

発表時間は質疑応答を含め一人 20 分。レジュメを用意する。

※日時等の詳細は、論文指導教員及び教務課より追って連絡する。

博士後期課程：

１．履修方法

(1)入学時には論文指導教員が決定されるので、その教員のもとで、研究を進める。研究内容は前期課程に準じ、修了後に課程博士の学位申請ができるよう、指導教員が研究および論文の指導を行なう。

(2)本課程在学中に、指導教員の指導のもと、学会発表、学術誌論文の執筆などを行なう。

(3)学会発表、学術誌投稿論文を含む研究成果を博士論文として仕上げる。
なお、社会人を対象とした場合などでは、本課程においても、柔軟な教育・研究指導の実施に配慮している。

(4)博士論文の様式は、修士論文に準ずる。P26 の様式を参照すること。

２．注意事項

(1)博士後期課程の在学期間は、６年を越えてはならない。

(2)学位論文（博士）を提出しうる期間は、博士課程において所定の単位を修得した日から７年以内とする。

(3)学位授与後出版の手続きを行い、保存用として出版物を３部提出する。

(4)論文提出時に審査料 20 万円を納入すること。

(5)博士後期課程において３年以上在学し、博士の学位取得の条件のうち博士論文を除き所定の研究課程を修了した者に対しては別記の証明書を授与する。

3. 博士論文提出について

論文受理の要件

(1)申請資格

・本学大学院博士課程を終了した者及び修了見込みの者。

・終了後の有効期間については「芦屋大学学位規程」に示すとおり。

(2)研究業績

・申請論文に関連した十分な研究業績を持つこと。

(3)公開発表等

・論文審査に当該論文の公開発表の評価を加える。

・審査委員会は、大学院委員会の同意を得て、公開発表の方法等を決定する。

申請の手順

(1)書類審査

・学位申請希望者は、指導教員を通して、下記の書類を芦屋大学大学院委員会へ提出すること。
①研究業績書　②申請論文の概要 ３部　③審査論文 ３部

・申請時期：７月末と１２月末の２回とする。

(2)審査

・審査委員会を設けて審査する。

・９月末と２月末にそれぞれ結果を通知する。

・審査初期において再申請が必要と判断した時は、速やかに申請者に通知する。

(3)学位の授与

(4)学位論文の公表

・博士の学位を受けた者は、学位論文の出版など所定の手続きをすること。
なお、詳細については芦屋大学学位規程及び芦屋大学大学院内規程集を参照されたい。

博士論文・修士論文様式

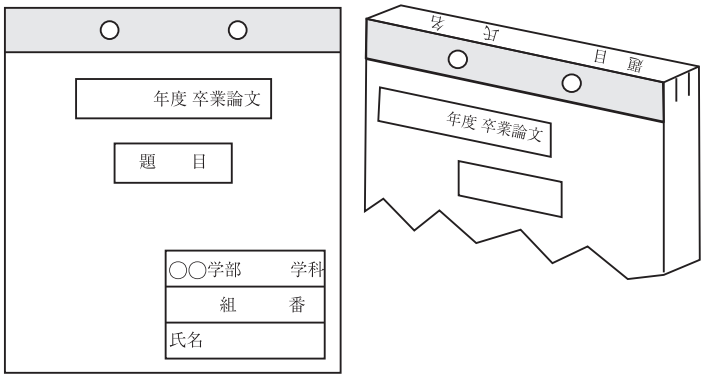
仮審査用論文（博士前期課程、修士課程のみ提出）

提　出　日　　2 年次　10 月末日に教務課へ提出
用　　紙　　指定なし
部　　数　　3 部
　　製本の必要はないが、提出する論文をホッチキス止めや紙ファイル等で綴じること。
文 章 構 成　　下記の本論文の論文構成と同様で作成すること。

本論文（博士論文、修士論文共通）

提　出　日　　毎年 1 月 15 日 10 時～16 時（15 日が日祝日の場合は翌日とする。）
論 文 指 導　　担当教員の指導を経ずに提出された論文は評価の対象とならない。
用　　紙　　大学制定の論文専用用紙 25 枚以上とする。（パソコン・ワープロ等で作成する。）
文　字　数　　2 万 5 千字以上とする。
部　　数　　4 部
論 文 構 成　　黒表紙（表裏）、背表紙、中表紙、目次、序論、本論、結論、参考文献の形式とする。
　　規定の枚数の対象は、序論、本論、結論、参考文献とする。
　　中表紙、目次を除く序論、本論、結論、参考文献のすべてにページ付けをする。（下中央部が望ましい。）
　　参考文献については、本文で引用又は言及した文献はもちろん、Ｗｅｂ上の文献についても全て記載すること。（サイトやＵＲＬやサイト名称も含む。）
書式・製本等　(1) 大学制定のＡ4 論文用紙を使用すること
　　(2) 黒表紙はＡ4 を使用する。
　　(3) 横書きの上綴じとする。
　　(4) 上部余白は 50mm 程度とする。（左右及び下部余白は適宜設定）
　　(5) フォントは明朝体とする。
　　(6) フォントは 12 ポイントとする。
　　(7) 1 頁 40 字×30 行とする。
　　(8) 本文の文字色は黒色とする。（但し図表などはこの限りではない。）
　　(9) 表紙の書き方は下図を参照に、卒業年度、題目、研究科、専攻、学籍番号、氏名、論文指導教員名を白紙に記載した物を添付すること。
　　(10) 背表紙に用いる部分は白厚紙とし、題目と氏名を記載する。
　　(11) 黒ひもで綴じる。

パソコン・ワープロ等で作成の様式図（A4）



大学院生生活の手引き

授業時間、休講等について

1．授業時間

授業時間は、１時限を 90 分として、１日４時限を次のように区分する。

1　時　限	2　時　限	3　時　限	4　時　限
10：00 〜 11：30	12：10 〜 13：40	13：50 〜 15：20	15：30 〜 17：00

2．掲　示

院生への公示、連絡、呼び出し等は全て掲示をもって行う。登・下校の際には、必ず８号館３階入口の掲示板を見る習慣をつけ、見落としのないようにすること。なお、掲示物は原則として１週間掲示するが、いったん掲示した内容については、周知徹底されたものとして取り扱うので十分に注意すること。

3．休　講

特別な理由による臨時の全学休校または教員の都合による休講については、その都度、掲示板にて連絡する。なんら休講掲示がなく 30 分経過しても授業が行われない場合は、教務課まで連絡し、必ず確認すること。

4．警報発令時

(1) 兵庫県阪神地区（神戸市・尼崎市・西宮市・芦屋市・伊丹市・宝塚市・川西市・三田市・猪名川町）に、大雨警報・洪水警報・暴風警報又は大雪警報が午前７時現在発令されている場合、１時限目を休講とします。

※大学周辺が悪天候（積雪、凍結等）のため休講になる場合もあります。

○午前７時以降に解除された場合、下記のとおり措置を講じます。

警報解除時刻	授業開始時限
午前９時 30 分までに解除	２限目から実施
午前９時 31 分以降に解除	終日休講

(2) 登学途中で上記警報が発令された場合、直ちに帰宅待機し、上記の解除時刻による措置に従ってください。

(3) 兵庫県阪神地区以外の地域で上記の何れかの警報が発令され、登学できない者は欠席届を次の登学日に教務課へ提出すること。

(4) 災害等により避難した場合は、学部事務室又は論文指導教員まで連絡してください。

(5) 緊急時は大学発行の院生個人メールアドレスに連絡します。

院生証について

院生証は、入学後交付する。

院生証の提示を求められた時は、直ぐに対応できるよう常に携帯しておくこと。また、他人に貸与したり譲渡することはできない。

学割証の交付、各種証明書の発行を申請する場合等は必ず院生証を提示しなければならない。

（1） 院生証の裏側の注意事項をよく読むこと。

（2） 院生証には、学長の公印ならびに写真には本学の刻印がなければ無効とする。

（3） 院生証の有効期間は、在籍期間とする。

（4） 院生証を紛失した場合、または住所変更の場合は届出用紙に再発行願を添付のうえ学生部に提出して再交付を受けること。

（5） 院生証の写真は、上半身・無背景、正面向きで、大学で撮影した写真とする。

通学証明書（定期券購入用）並びに
学生旅客運賃割引証（学割証）の交付について

1. 通学証明書（定期券購入用）

（1） 年度始めに、毎回提出する「乗車区間登録書」に基づいて通学証明書を交付する。通学乗車区間に止むを得ない理由により変更が生じた場合は学部事務室（学生部）に申し出て「乗車区間登録書」の変更を行うこと。

（2） 申請は、学生部にて「通学証明書発行願」に必要事項を記入し、証明願用の書類入れに入れること。交付は翌日以降に院生証を提示し受け取ること。尚、証明書の在籍確認期間内に発行欄が新たに必要となった時は、使用中の通学証明書のみを直接書類入れに入れること。

（3） 通学証明書は、院生証とともに常に携帯しなければならない。但し、次の場合は、証明書を直ちに返却すること。

（イ）証明書の在籍確認期間が過ぎた時

（期間は 4 月 1 日から翌年の 3 月 31 日までとする。）

（ロ）証明書の発行欄が新たに必要な時

（ハ）証明書の記載内容に変更が生じた時

（必要に応じて院生証再発行及び住所変更等の手続きを同時に行うこと。）

（ニ）（イ）、（ハ）の場合は項目 1.を完了し、新たに「通学証明書発行願」を提出すること。

（4） 証明書を紛失した時は直ちに届けること。

（5） 通学証明書の裏面の注意事項をよく読むこと。

2. 学生旅客運賃割引証（学割証）

（1） 学割証は、学生個人の自由な権限として使用するものではなく、修学上の経済的負担を軽減し、学校教育の振興に寄与することを目的としたもので、以下の使用目的の範囲に限定して使用することができる制度です。

また、授業・試験・大学行事等を欠席して学割証を使用することはできません。

使用目的の範囲

1. 休暇、所用による帰省
2. 実験実習並びに通信による教育を行う学校の面接授業及び試験などの正課の教育活動

3. 学校が認めた特別教育活動又は体育・文化に関する正課外の教育活動
4. 就職又は進学のための受験等
5. 学校が修学上適当と認めた見学又は行事への参加
6. 傷病の治療その他修学上支障となる問題の処理
7. 保護者の旅行への随行

(2) 学割証を申し込むときは、「学割発行申込書」に必要事項を記入のうえ学生部へ提出すること。原則、「学割発行申込書」の提出より 2 日後でなければ交付できないので注意すること。
また、受け取る時は院生証を提示すること。

(3) 学割証は、他人に貸与または譲渡してはいけない。(不正使用が発覚すれば、3 倍の運賃が追徴され、その後は本学の学割利用の特典が取消される。)

(4) 学割証は、片道の営業キロが 101 キロ以上の区間がある場合に、普通乗車券を 20%割引きで利用できます。
また、周遊きっぷなどの一部のトクトクきっぷにも適用があります。
学割証の有効期間は、発行の日より 3ヶ月。(但し年度の有効期間は 3 月 31 日とする)

3. 団体割引証

(1) 団体割引証を申し込むときは、引率の教職員に申し出ること。

(2) 団体割引(ＪＲ学生団体割引乗車券)は学生 8 名以上で、かつ教職員の引率者 1 名以上同行のある団体で利用ができます。(全て同一の行程が原則)距離の制限は無く(100 キロ以下でも利用可)学生は 50%引き・引率者は 30%引きとなります。
なお、乗車する電車を特定する必要があります。
また、ＪＲバスは 20%引き(学生 15 名以上 + 教職員の引率者 1 名全て同一の行程が原則)となります。(割引きが適用されない路線もあります)
大学の証明を受けた団体旅行申込書によって使用日 14 日前までに乗車券を購入のこと。

自家用車による通学規定

自家用車通学について

(イ) 安全講習を受講し、所定の手続きを完了し、自家用車通学許可証を取得した学生のみ無料にて本学駐車場を利用することができる。但し、学内及び大学周辺路上においては特に安全運転を励行し、且つ駐車場内の美化及び環境維持につとめること。

(ロ) 改造車輌、自動二輪(オートバイ)等許可対象以外の車輌による通学並びに駐車場利用を厳禁する。

(1) 自家用車通学を希望する大学院生は、自家用車通学説明会及び安全講習会に出席し、指定された期間に所定の手続を行い、許可証の交付を受けること。

(2)「駐車許可証」は駐車時に車外より見えるところに必ず表示しておくこと。

(3) 自家用車通学を認められた大学院生であっても、指示・指定された日、期間(式典、学園祭等)については自家用車通学を禁止する。

(4) 第 1～第 4 駐車場に整然と駐車すること。

(5) 許可車は必ず本人が運転し、他人に貸与してはならない。また、登録は 1 人 1 台とする。

(6) 大学玄関前・福山記念館玄関前・附置技術研究棟前・芦屋学園体育館前・8 号館前・短期大学駐車場への乗り入れを無断で行わないこと。

(7) 大学・短大周辺での路上駐車は理由の如何を問わず厳禁する。大学周辺での違法または迷惑駐車発覚の場合は、学則に従い処分する。
(8) 登録できる自家用車の種別は、普通乗用車・普通小型乗用車及び軽乗用車とする。
(トラック等は乗り入れ禁止)
(9) 法令違反車両・本学が許可できないと判断した事柄については登録できない。登録後発見したときには登録を取り消します。
(10) 何らかの理由により、代車で通学する場合は事前に駐車許可を受け代車に許可証を積み替えて通学すること。(代車の場合も「8・9」の規定に準ずる。)
(11) 大学・短大周辺及び敷地内では減速・徐行し安全運転に留意すること。
(12) 学外においても安全運転を励行し、交通法規を遵守すること。
(13) 駐車場内における物損事故・盗難等その他について、大学は一切責任を負わない。
(14) 駐車場内及び周辺路上にゴミを捨てたり、騒音をたてるなどの迷惑行為を厳禁する。

以上の遵守事項に違反した場合、自家用車通学の許可を取り消しますので充分注意すること。

大学院生研究室利用について

本学大学院では、論文作成や専門分野の研究を効率よく進めることを目的に、大学院生研究室を設けています。院生は自由に使用できますので、下記の使用方法を遵守しながら、利用してください。

1．場　　所

福山記念館新館2階(図書館2階)

2．開館時間

月曜日～金曜日　　9：00～17：00(鍵返却最終時間)
土曜日・長期休暇中　9：00～17：00(鍵返却最終時間)
※時間外に使用する場合は、図書館に申し出て使用の許可の確認をしてください。
使用できる場合は、図書館に最終閉館時間を確認してください。

3．使用方法

①院生研究室を使用する際は、図書館事務室で院生証を提示し、貸出しリストに借用者氏名、時間を記入のうえ鍵を受取ってください。鍵の使用は、院生のみとし関係のない者への貸出しは禁止します。
②在室中は、研究室の鍵は決められたところに置いておき、開錠、施錠以外での使用は禁止します。
③2名以上在室している場合は、最後に退出する人が施錠してください。先に退出する場合は、必ず声を掛け、施錠と鍵の返却を依頼してください。依頼された人は、図書館事務室で、貸し出しリストの引き継ぎ欄に依頼した人の氏名と時間を記入してください。
④最後に退出する場合は、必ず窓及び出入口の施錠、消灯、エアコン及びパソコンの電源の確認をしてください。
⑤鍵の返却がない場合は、防犯上、大学側で施錠したうえ、鍵が返却されるまで、使用できません。
⑥院生研究室にパソコンを2台設置しています。使用に関しては、パソコンデスクに掲示してある「大学院生研究室パソコン使用について」を参照してください。
⑦その他
○研究室内での喫煙は、禁止とします。

○貴重品は自己で管理してください。また関係のない物品の持ち込みは禁止とします。
○研究室以外の施設、教室の無断での立ち入りは禁止します。
○機器の故障やトラブルがあった場合は、学部事務室に申し出てください。
○研究室内の設備に異常や故障、トラブルがあった場合は、図書館事務室に申してください。

図書館利用について

図書館では授業関連の参考文献や参考図書、学生が希望する一般図書を所蔵し、閲覧できるようにしています。授業のための利用に限らず、幅広い教養を身につける場として、積極的に図書館を利用してください。卒業後も利用できますので、希望者はカウンターへ申し出てください。

1．場　　所

福山記念館新館１階・４号館２階

2．開館時間

月曜日～金曜日　　9：00～17：30
土曜日および休暇期間中　　9：00～17：00

3．休館日

日曜、祝日、年末年始、特別休暇期間
その他、全学休業となった場合、図書館の工事などにより開館できない状態のとき。
（開館時間の変更、臨時休館などは事前に掲示します）

4．利用方法

①閲覧
閲覧室にある図書は、本学図書館が所蔵する図書の約３分の１で、他の図書は書庫にあります。閲覧室以外の図書については、職員に問い合わせてください。

②2 階閲覧自習室（開室時間 9 時～17 時）
グループ学習、談話学習、音読学習が可能です。利用の際はカウンターに申し出てください。

③貸出
希望図書と一緒に学生証を提示してください。
・　貸出冊数　　5 冊以内
・　貸出期間　　2 週間（レポート、卒業研究、教育実習等で使用する場合はその旨を申し出てください。）
・　貸出期間の延長を希望する場合は、貸出期限内に連絡してください。

④返却
カウンターの職員に返却するか、返却ボックスに投函してください。
・　図書館内で読んだ本は、書架でなく返却台に必ずもどしてください。
・　期限後長期間返却されない場合は、教務を通して督促することになります。

⑤利用相談
探しているテーマに関する図書の案内や本学図書館での所蔵の有無など、相談したい場合は職員に申し出てください。

⑥検索
所蔵図書は検索システムOPACを使って検索できます。館内設置のコンピュータにタイトル、著者名、キーワードを入力すると図書の検索ができます。学内コンピュータからは内部ホームページよりアクセスできます。詳しくはカウンター職員まで問い合わせてください。

⑦コピー

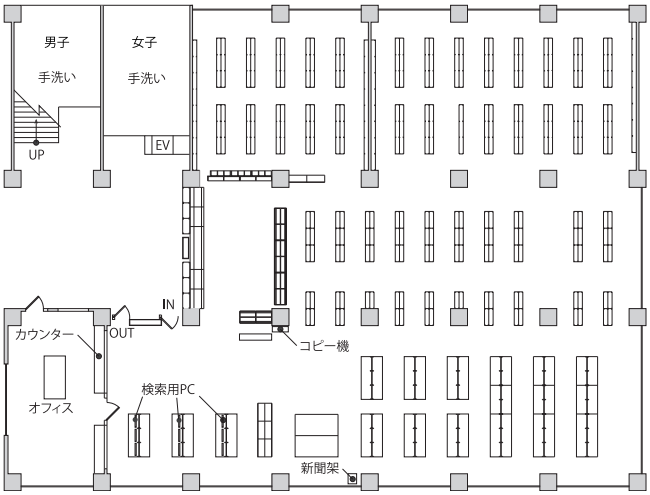
セルフサービスでコピー機を利用できます。料金は１枚につき 10 円。両面は 20 円。

Ｂ5 からＡ3 まで。

5．注意事項

図書館内での雑談・飲食など他の利用者の迷惑になる行為は禁止です。館内での迷惑行為や図書の無断持ち出しが発覚した場合は、図書館の利用を制限します。

6. 図書館平面図



COMMUNICATION SPACE／CONCENTRATION SPACE 使用について

(1) 個人用パスワードが必要です。パスワードは、学内 LAN 講習会を受講しなければ発行しません。(1 年生オリエンテーションにて講習をしていますが、未受講者は随時講習会の受講を受け付けいています)

(2) パスワードを紛失もしくはパスワードを他の人に覚えられた場合は、すぐにパスワード紛失届を提出して下さい。

(3) 飲食は厳禁です。

(4) コンピュータを使用しない院生の入室はなるべく控えて下さい。

(5) 著作権の問題があるので、ソフトウェアのインストールは禁止します。

(6) コンピュータの故障があった場合またプリンターのトナーがなくなった場合は、直ちに学部事務室まで連絡して下さい。

(7) マイドキュメントなどにデーターを保存した場合、次にコンピュータを起動するとデータは消えます。(メモリースティックなどの保存装置に保存して下さい)

(8) 気持ちよく、有意義に利用できるように心がけてください。

(9) 長時間の独占はひかえて下さい。

健康管理センター

健康管理センター（セミナーセンター２階）

充実した院生生活をおくるためには、健康を保つことが大切です。大学院ではその健康面をサポートするために健康管理センターを設置しています。

健康管理センターでは看護師が交代で対応し下記のようなサービスを提供しています。皆さんの個人情報については秘密と保護を約束します。どうぞ安心してご利用ください。積極的に利用して大学院生生活を快適に過ごしましょう。

1　応急手当

- 大学院内で発生した病気やけがの応急手当てをします。病状に応じて医療機関を紹介することもあります。
- 病状によっては動かさないほうがよい場合があります。まずは連絡してください。看護師がその場に向かいます。
- 健康管理センターが不在の場合は学部事務室に連絡し指示を受けてください。

2　定期健康診断と証明書の発行

- ４月に定期健康診断を実施します。これは病気の早期発見と予防のために行うもので、学校保健安全法にて義務付けられていますので必ず受診してください。二次検診などが必要な場合は個人的に通知します。
- 定期健康診断を受診できない場合は、他の医療機関（費用は自己負担）の健康診断を受け診断書を提出する必要があります。本学の診断書様式は健康管理センターにありますので必ず申し出てください。
- なお、健康診断未受診者には、就職活動や教育実習、介護等体験に必要な「健康診断証明書」の発行ができません。自分自身の健康管理のため必ず受診してください。

3　健康相談

- 看護師が心身の健康上の悩みや心配事について話を聞きアドバイスなどを行います。
  カウンセリングルームがあり、カウンセラーに悩みを相談することもできます。
  （健康管理センターで予約してください。）
- 学校医に相談することが出来ます。まずは来室してください。
- 希望者には医療機関を紹介します。

4　健康に関する情報提供と健康教育

- 喫煙、飲酒、薬物での健康被害や流行している感染症の予防法等について学生ホールに掲示します。

5　その他

- 身長、体重、体脂肪率の測定と血圧測定を行っています。

遠隔地被扶養者保険者証について（一人暮らしの院生必見）

親元から離れて生活している学生で、保険証が１世帯に１枚しか発行されていない場合は、遠隔地被扶養者保険証が必要となりますので必ず発行してもらってください。

〔手続き方法〕扶養者の保険証発行先（市区町村役場、勤務先等）に在学証明書を添えて申請する。

健康診断について

健康診断は、学校保健安全法に定められているものです。指示された日に必ず受診して下さい。病気等止むを得ない事由により検診日に受診できなかった場合は後日速やかに医療関係にて健康診断を受け、診断書を教務課に提出して下さい。

国際交流課

（１）設置場所：　本館１階
（２）利用時間：　月曜日～土曜日　９：００～１７：００

海外留学・語学研修、外国語学習支援と外国人留学生の支援を行っています。
主な業務
①海外留学・語学研修支援
a.海外提携大学との交換留学
・セントマーティンズ大学（Saint Martin's University 米国ワシントン州レイシー市）での正規学部留学や大学付属の語学学校（ESL）での語学研修
・聖潔大学校（Sungkyul University 大韓民国京畿道安養市）での正規学部留学
・湖西大学校（Hoseo University 大韓民国忠清南道牙山市）での正規学部留学
・寧波大学（Ningbo University 中華人民共和国浙江省寧波市）での正規学部留学
・短期文化研修（聖潔大学校、湖西大学校、ハワイ州立大学）
b.大学コンソーシアムひょうご神戸 学生派遣プログラム
c.個人留学、語学研修
外部の留学やボランティアプログラム・セミナーの情報や資料の提供、留学についての相談。
d.TOEIC、日本語能力試験など、各種検定の掲示による実施についての告知およびアドバイス。
②外国語学習支援
a.チャットランチ
昼休みを利用して、曜日ごとに留学生と外国語で気軽にフリートークできる「チャットランチ」を行っています。留学生との交換レッスンやグループ単位での学習会を希望する学生は相談してください。
b.自主英語補習授業
本学の教職員により、基礎から学びなおす英語の補習授業を行っています。
c.語学・留学関連図書の閲覧と貸し出し
TOEIC や日本語能力試験対策関連書籍、留学雑誌、英字新聞等の閲覧と貸出ができます。
③セミナー・シンポジウム、日本語スピーチ大会の開催
④外国人留学生向け支援
日本で充実した留学生活をおくるために必要な情報の提供や、在留期間更新・留学生向け奨学金の手続きなどを行っています。

外国人留学生への諸注意
１．在留資格、パスポート、在留カードの期限が切れないよう注意し、在留カードと学生証は常

に携帯する。
２．急な事故や入院に備え、国民健康保険に必ず加入し、毎月の保険料を怠らずに納入する。
３．帰省その他で母国や外国へ出国するときは、必ず「出国届」を国際交流課に提出する。
４．留学生は限られた時間だけ、定められた業種でしかアルバイトができないので、資格外活動許可違反にならないよう注意する。
５．入学時に配布した「留学生ガイドブック」に以上のことを含め詳細が記してあるので、よく読んでおくこと。わからないことがあれば、国際交流課で相談する。
６．大学からの重要な情報は大学発行の個人メールアドレスに送信されるので、必ずよく読み、メールを確認したら必ず返信すること。

就　職　部

（１）設置場所：　本館１階
（２）利用時間：　月曜日～土曜日　９：００～１７：００

就職部は、就職・進学など卒業後の進路選択の支援を行っています。
主な業務
①就職や進学に関する情報の提供
＊就職や進学に関連する書籍・各種資料の収集と、その貸し出しや閲覧
②就職進路相談
＊キャリアカウンセラーによる就職相談（月曜日～金曜日）　リアルタイムサポートシステムを活用した進路相談
③就職指導
＊就職ガイダンス・セミナーの開催　求人情報の探し方や就職サイト活用方法の指導、応募書類（履歴書等）の添削指導、筆記試験の対策、模擬面接
④インターンシップのサポート
＊インターンシップの実施　参加への事前研修と参加後のフォローアップ
⑤求人情報の収集と公開
＊民間企業や公務員求人情報の収集、「求人票」の掲示
⑥家業継承、起業を目指す学生への指導・助言

教職支援課

（１）設置場所：　本館１階
（２）利用時間：　月曜日～土曜日　９：００～１７：００

教職教育支援課では、教職への就職を希望する学生が、その目標を達成するために必要な支援を行っています。
主な業務
①教員免許取得に必要な実習等のサポート
＊教育実習・介護等体験の申込み等の手続きをしています。
＊社会福祉協議会から介護等体験担当者を招き、オリエンテーションを行っています。

②教育関連機関等の就職情報の提供
＊公立学校教員採用試験願書の書き方等の指導を行っています。
＊教員採用試験対策講座の開講（面接指導等含む）と模擬試験実施（年５回）しています。
③各種ボランティアの紹介
＊連携小学校での教育ボランティア、教育委員会・NPO 法人主催等の、各種ボランティア・地域交流会等の参加希望者を募り、手続きを行っています。
④私立幼稚園でのインターンシップ等の参加希望者を募り、申込み手続きを行なう。
⑤教職関連への就職希望者に対して講演会を開催。
＊教育現場で活躍されている卒業生を招き、講演会を開催しています。

地域連携推進・スポーツ振興室

（１）設置場所：芦屋学園　第二体育館
（２）利用時間：月曜日～土曜日　9:00～17:00
地域連携推進・スポーツ振興室では、スポーツ振興の推進・貢献をはじめ、スポーツ教育と体育系クラブの活性化を目指して新設されました。充実した設備環境で、スポーツを通じた社会に貢献できる人材の育成を行っています。
主な業務
①　スポーツを通じた学生指導
・実力、実績のある専門のコーチ陣によるクラブ指導
・専門家への身体のコンディショニングやトレーニング方法等の相談
②　スポーツ関連の仕事に就きたい学生への支援
・スポーツ系の資格取得のサポート
【取得可能な教員免許・資格・修了認定】
●中学校・高等学校教諭一種免許状（保健体育）
●日本体育協会公認スポーツ指導者
●日本障害者スポーツ協会公認 初級障害者スポーツ指導員
・スポーツ関連企業等への就職のサポート

諸願・届類一覧

書　　類	提　出・届出先	提　出・届出期限	備　　考
欠　　席　　届	学部事務室	—	市販便箋 保証人署名・捺印
休　　学　　願	〃	—	所定用紙あり 保証人自筆捺印
復　　学　　願	〃	—	〃
退　　学　　願	〃	—	〃

(1) 身上に関する届け

各　　変　　更　　届	〃	—	所定用紙あり 住所・TEL
改　　名　　届	〃	—	所定用紙あり 戸籍抄本添付の事
保　証　人　変　更　届	〃	—	所定用紙なし

(2) その他

学納金納入延期･分納願	〃	—	所定用紙あり
施設使用許可願書	〃	—	所定用紙あり
院生証再発行願	〃	—	市販便箋
学　割　申　込　書	〃	—	所定用紙あり
紛　　失　　届	〃	—	〃
自動車通学許可願	〃	—	〃

証　明　書	取　扱　先	料　　金	そ　の　他
在　学　証　明　書	学部事務室	100 円	
修了見込証明書	〃	〃	
修　了　証　明　書	〃	〃	英　文　500 円
学業成績証明書	〃	〃	〃　500 円
単位修得証明書	〃	〃	
単位修得見込証明書	〃	〃	
免許状取得見込証明書	〃	〃	
人　物　証　明　書	〃	〃	
健康診断証明書	〃	〃	
推　　薦　　書	〃	〃	
学力に関する証明書	〃	〃	

科目別授業概要

１．教育学専攻

２．技術教育専攻

科目名	学校カウンセリング			英字表記	School Counseling Study				
担当教員名	林　知代	開講年次	1	期間	前　期	単位数	2	学習方法	講　義

●授業の概要（目的）

概要：講義では、個の持つ特性と学校という集団の力動に焦点を当てながら、事例を通して心理臨床的視点から問題を抱えている子どもたちへの関わりを考える。自己発達を基軸にした視点から学校における支援の在り方を探究する。

目的：子どもは一日の多くの時間を学校で過ごしている。家庭で穏やかに過ごしている子どもが、学校では不適応を起こすことも多々ある。子どもと親・同胞との相互性を背景に、学校という場が持つ特徴と子どもとの相互性をどう捉え関わっていくかについて把握できることを目標とする。

●授業計画

1．開講に当たって
　授業の目的、授業の予定、評価方法、参考文献・資料の紹介
2．学校現場といま
　学校で生じているさまざまな臨床的問題を提示し、論じる。
3．子どもの心理　Ⅰ
　見過ごされている子どもの心理について事例を基に考える。
4．子どもの心理　Ⅱ
　見過ごされている子ども真理について事例を基に考える。
5．子どもの心理　Ⅲ
　見過ごされている子ども真理について事例を基に考える。
6．学校におけるカウンセリングマインドとは　Ⅰ
　学校で生じている臨床的問題をカウンセリングの視点からどのように考えていけばよいか、具体的に検討する。
7．学校におけるカウンセリングマインドとは　Ⅱ
　学校で生じている臨床的問題をカウンセリングの視点からどのように考えていけばよいか、具体的に検討する。
8．学校におけるカウンセリングマインドとは　Ⅲ
　学校で生じている臨床的問題をカウンセリングの視点からどのように考えていけばよいか、具体的に検討する。
9．英国の学校における臨床的問題　Ⅰ
　日本と英国行政の姿勢の共通点と相違点について考える。
10．英国の学校における臨床的問題　Ⅱ
　心理臨床の視点からの具体的な英国の対応を検討する。
11．米国の学校における問題に対する心理臨床的対応
　米国の2Ｅ教育（The Twice-Exceptional Education）の実践を学び、これからの日本の教育の在り方を考える。
12．これからの学校教育課題
　子どもを取り巻く教師や親はニーズを必要としている子どもにどのように対応すべきかについて検討する。
13．子どもへの対応再考　Ⅰ
14．学校カウンセリングの発展
　学校における子どもの問題について学校、家庭の相互的かかわりのこれからを考える。
15．講義のまとめ
　講義で学んだことを再度振り返る。

●履修上の注意（参考文献・資料等）

「学校の崩壊－学校という空間の病理」　高岡健著　メンタルヘルスライブラリー
「先生!ぼくの心知ってる?お母さん！わたしの気持ちわかってる？」　林知代著　明治図書
授業で適宜配布

●成績評価の方法と基準等

授業での発表姿勢およびその内容。レポート。

科目名	環境教育研究			英字表記	Environmental Education				
担当教員名	林　圭一	開講年次	1	期間	後期	単位数	2	学習方法	講義

●授業の概要（目的）

概要：人類が持続可能に発展して行くためには環境問題への対応が必須であり、行政や企業の取り組みに加えて、私たち一人ひとりのライフスタイルの変革が求められてくる。自分自身が自然や社会とどのようにかかわって生活しているのかを知り、さらに循環型社会の在り方について考えることにより、個人の取組の重要性を理解する。

目的：環境を大切にし、自発的に環境保全に取り組むなど、具体的に行動できる人材を育成することの重要性を理解する。

●授業計画

1.　地球環境問題とは
2.　産業公害から地球環境破壊へ
3.　人間の活動と環境の変化
4.　化石エネルギーの利用技術と環境問題
5.　原子力エネルギーの利用技術と環境問題
6.　新エネルギー、未利用エネルギーの将来展望①
7.　新エネルギー、未利用エネルギーの将来展望②
8.　省エネルギーと環境ビジネス
9.　廃棄物から見た環境問題
10.　廃棄物処理の概要
11.　リサイクルの必要性と問題点
12.　リサイクル技術の現状と法規制
13.　廃棄物処理と環境保全
14.　循環型社会を目指した取組とエコビジネス
15.　環境教育等による環境保全の取組の促進（環境教育等促進法）

●履修上の注意（参考文献・資料等）

●成績評価の方法と基準等

期末に提出するレポートおよび授業中に作成する課題にて評価する。

科目名	環境生物学研究			英字表記	Environmental Biology Ⅰ				
担当教員名	渡　康彦	開講年次	1	期間	後期	単位数	2	学習方法	講義

●授業の概要（目的）

概要：種とは固有の適応様式を持つものである。種によって、暑さに対する適応、寒さに対する適応、水に対する適応、乾燥に対する適応などは千差万別である。様々な環境に対する生物の適応様式を読み解くとともに、現在進行中の地球温暖化による環境の激変に対して、生物はどうなっていくのか、我々ヒトは何をなすべきかなどについて考えていく。

目的：生物の適応様式を学ぶことによって、現在進行している環境問題を広範に考える力をつける。

●授業計画

１．はじめに
２．寒さに対する適応①
３．寒さに対する適応②
４．寒さに対する適応③
５．暑さに対する適応①
６．暑さに対する適応②
７．暑さに対する適応③
８．水に対する適応①
９．水に対する適応②
１０．　乾燥に対する適応①
１１．　乾燥に対する適応②
１２．　酸素濃度に対する適応
１３．　地球温暖化の現状
１４．　地球温暖化による生物への影響
　地球温暖化対策

●履修上の注意（参考文献・資料等）

●成績評価の方法と基準等

出席を重視。随時レポートなどを提出してもらい、総合的に評価する。出席点 50%、レポート 50%。

科目名	機械工学特論			英字表記	Mechanical Engineering				
担当教員	林　圭一	開講年次	1	期間	前期	単位数	2	学習方法	講義

●授業の概要（目的）

概要：　産業の発展、ものづくりを支えるのは機械技術であり、教育系、経営系の学生にとっても機械の知識を学ぶ意義は大きい。
　　機械工学の対象とする範囲は広いが、その全体像を理解してもらえるように、機械技術の基礎と応用を講義する。

目的：　機械技術を通じて、現代産業社会を理解する。

●授業計画

1. 機械とは何か、機械工学とは何か
2. 機械技術、機械工学の発展の歴史
3. 設計のプロセス
4. 現代の機械および機械システム1（エネルギー変換機器）
5. 現代の機械および機械システム2（自動車）
6. 現代の機械および機械システム3（ロボット）
7. 現代の機械および機械システム4（情報機器）
8. 現代の機械および機械システム5（マイクロマシン）
9. 現代の機械および機械システム6（医療・福祉機器）
10. 機械工学の基礎体系1（材料と機械の力学）
11. 機械工学の基礎体系2（熱・流体工学）
12. 機械工学の基礎体系3（材料加工）
13. 機械工学の基礎体系4（制御・情報）
14. 機械工学の基礎体系5（バイオエンジニアリング）
15. 技術者と社会のかかわり

●履修上の注意（参考文献・資料等）

・使用テキスト：JSME テキストシリーズ　機械工学総論、日本機械学会編、日本機械学会発行
・履修上の注意：一部の授業では、コンピュータ演習を併用する。基本的なコンピュータ操作を習得していることを前提として授業を行う。

●成績評価の方法と基準等

期末に提出するレポートおよび授業中に作成する課題にて評価する。

科目名	企業診断研究（隔年）			英字表記	Study for Enterprise Diagnosis				
担当教員名	政岡　勝治	開講年次	1	期間	後　期	単位数	2	学習方法	講　義

●授業の概要（目的）

日本経済の根幹を担うさまざまな企業について、経営状況を分析する診断力を有することは、将来の企業経営や起業の際にも大いに役立つ。

授業ではこういった診断力を身につけるために、実務的な視点から必要な知識を講義し、演習を加えて進めていく。

●授業計画

1.　講義の全体説明と経営学について
2.　会社の形態　その１（合同会社、合資会社、合名会社）
3.　会社の形態　その２（株式会社）
4.　企業診断の業界（中小企業診断士の活動を中心に）
5.　定量的診断と財務諸表の知識
6.　財務諸表分析　その１（貸借対照表の分析）
7.　財務諸表分析　その２（損益計算書の分析）
8.　財務諸表分析　その３（資本移動表、資金繰り表の分析）
9.　財務諸表分析　その４（経営指標の演習）
10.　財務諸表分析　その５（レイダーチャートの作成と活用）
11.　定性的診断のための企業の構成組織ごとの診断項目
12.　定性的診断　その１（面接による聞き取り）
13.　定性的診断　その２（企業のさまざまな現場の観察）
14.　定性的診断　その３（定量的診断との組み合わせ）
15.　最近の診断技法と講義のまとめ

●履修上の注意（参考文献・資料等）

・テキスト　内山力『コンサルティングセオリー』同友館
・参考文献・資料については適宜紹介、配布する

●成績評価の方法と基準等

授業での参加姿勢、課題レポートを総合評価する

科目名	技術科教育課程論Ⅰ			英字表記	Curriculum of Industrial Arts Education				
担当教員名	藤本　光司	開講年次	1	期間	前　期	単位数	2	学習方法	講義・演習

●授業の概要（目的）

「技術科」という言葉は、中学校の技術科の授業を意味する。その教育内容は、学習指導要領や教科書の変遷とともに変化してきた。本科目では、単なる技術科教育法ではなく技術を学ぶことの普遍的価値について探求する。特に、技術を学ぶことが、なぜ子どもたちに必要なのか？技術を学ぶことが、どうして人間形成に資するのか？この問いは、技術教育の原点である。

前期では、実際に用いられている「技術」を対象とする科学を技術学として探究する。

●授業計画

1．開講にあたって　　授業の目的、授業の予定
2．技術論（定義、生産の三要素）
3．労働手段体系
4．技術科教育としての技術論
5．人類の誕生と技術（手と仕事、手と脳、脳と発達）
6．生産と労働
7．経済格差と社会
8．社会発展と技術科
9．生産から見た歴史
10．社会発展の法則
11．自明性の崩壊と技術教育
12．情報と技術
13．情報化社会の発達と学習過程
14．内面発達の欠落
15．技術教育の意義

●履修上の注意（参考文献・資料等）

学部　技術教職課程を履修していること。
教科書　「技術教育学序説」合同出版　を使用する。

●成績評価の方法と基準等

授業での参加姿勢と課題レポートを総合評価する

科目名	技術科教育課程論Ⅱ			英字表記	Curriculum of Industrial Arts Education				
担当教員名	藤本　光司	開講年次	1	期間	後　期	単位数	2	学習方法	講義・演習

●授業の概要（目的）

「技術科」という言葉は、中学校の技術科の授業を意味する。その教育内容は、学習指導要領や教科書の変遷とともに変化してきた。本科目では、単なる技術科教育法ではなく技術を学ぶことの普遍的価値について探求する。特に、技術を学ぶことが、なぜ子どもたちに必要なのか？技術を学ぶことが、どうして人間形成に資するのか？この問いは、技術教育の原点である。

後期では、子どもの理解や発達を抜きにして技術科の授業は実践できない。よって、教育哲学の実践の場として、技術教育のあり方を探求する。

●授業計画

1．開講にあたって　　授業の目的、授業の予定
2．古代社会と学校教育
3．公教育のはじまり
4．学校制度のはじまりと手工科
5．戦後の技術科教育としての職業科
6．高度経済成長と理工学教育
7．ゆとりの教育と技術科教育
8．学校教育の構造
9．教科・教材と学習指導要領
10．教材研究と学習指導
11．生徒指導から見た教科観
12．競争から協力へ
13．自然科学と技術学
14．ものづくりと問題解決学習
15．教育と職業

●履修上の注意（参考文献・資料等）

学部　技術教職課程を履修していること。
教科書　「技術教育学序説」合同出版を使用する。

●成績評価の方法と基準等

授業での参加姿勢と課題レポートを総合評価する

科目名	技術科教育研究			英字表記	Study of Technology Education				
担当教員	安 東　茂 樹	開講年次	1	期間	前期	単位数	2	学習方法	講義

●授業の概要（目的）

概要・目的：

技術科教育に関する理念、教育目的論から内容論・方法論・教材論および指導方法、評価などについて、実践例を踏まえて具体的に考究する。

●授業計画

1．　オリエンテーション、「技術科教育研究」のねらいと計画
2．「技術教育」に関する４つのリーフレット、「２１世紀の技術教育」の読解
3．　技術科教育の「能力」の論文２件、「有用性」の論文より考察
4．　技術科教育の目的・目標（技術科教育の目的と今日的課題）
5．　技術科教育の目的･目標（技術科教育の系譜）
6．　技術科教育の目的･目標（子どもの発達との関わり）
7．　技術科教育の目的･目標（教育課程について）
8．　技術科教育の目的･目標（他教科との関連、比較教育研究の観点か
9．　技術科教育の教育課程（意義と編成）
10．　技術科教育の教育課程（展開）
11．　技術科教育の教育課程（評価）
12．　技術科教育の教育課程（行政）
13．　技術科教育の学習と評価（指導計画と授業設計）
14．　技術科教育の学習と評価（学習指導と題材選定及び教材･教具）
15．　技術科教育の学習と評価（学習評価と安全管理指導）

●履修上の注意（参考文献・資料等）

上記内容について、「新技術科教育総論」をテキストとしてその読解及びまとめを行う。
毎回、意見交換（ディスカッション）を取り入れる。
※後期開講の「技術科教育研究演習」で具体的な題材開発や技術的能力について取り扱う。

●成績評価の方法と基準等

授業中の発表 30%・最終レポート 40%・授業への取り組み 30%で評価する。

科目名	技術科教育研究演習			英字表記	Seminar in Study of Technology Education				
担当教員	安東　茂樹	開講年次	1	期間	後期	単位数	2	学習方法	講義

●授業の概要（目的）

概要・目的：技術科教育の指導法を関連する教材に視点を当てる。具体的な教材（題材）を取り上げ、その指導計画並びに学習過程を分析する。
そして、教材開発上、必要不可欠な観点や要素を探求する。
その結果、授業実践による、目標や内容と学習効果との関連について検討する。

●授業計画

1. 技術科教育研究演習の内容と今後の計画
　講話：「技術科教育の昨今の状況について」
2. 教材の検討と「興味・関心を高める題材の開発」
3. 教材の検討と「家庭科との連携を考えた題材」
4. 実習題材の製作と「家庭で役立つ題材」
　※実習題材は「セパレートトーチの製作」を予定している。
5. 実習題材の製作と「実験を通して見方や考え方を育てる題材」
6. 実習題材の製作と「生活を豊かにする題材」
7. 教材の検討と「中学生の生活技術についての分析」
8. 教材の検討と「技術的能力と学校適応・基礎学力の関係」
9. 教材の検討と「技術的問題解決場面における自己評価能力の構造とその発達」
10. 教材の検討と「授業過程における技術的能力の変化」
11. 教材の検討と「震災時における有用な技術の分析」
12. 教材の検討と「技術科教育における技能習得の分析
13. 教材の検討と「技術科教育における感情の分析」
14. 教材の検討とその評価（チェックリスト作成）
15. 授業のまとめ、ディスカッション、総括的なテスト

●履修上の注意（参考文献・資料等）

ものづくりを並行して取り入れる。
　参考文献は、授業中に紹介する。

●成績評価の方法と基準等

　授業中の発表 30%・最終レポート 40%・授業への取り組み 30%で評価する。

科目名	技術科教材研究 I			英字表記	Study on Teaching Materials in Industrial Arts				
担当教員名	藤本　光司	開講年次	1	期間	前　期	単位数	2	学習方法	講義・演習

●授業の概要（目的）

　中学校技術科における指導領域に視点を当て、具体的に各領域で取り扱われる教材について分析研究する。

●授業計画

1．開講にあたって　　授業の目的、授業の予定
2．技術科のカリキュラム
3．学習指導の方法
4．題材、教材、教具の定義
5．題材選定の観点
6．チェックリスト法
7．チェックリスト演習
8．教材研究の視点
9．教材と題材
10．教材研究の手順と実際
11．加工教育の意義と教育適時性
12．教材のしくみ
13．エネルギー領域教育の意義と教育目標
14．教材のしくみ
15．教材・教具の活用

●履修上の注意（参考文献・資料等）

学部　技術科教職課程を履修していること。
教科書　学会誌などの研究論文を使用する。

●成績評価の方法と基準等

各自の課題研究によるレポートを評価する。

科目名	技術科教材研究 Ⅱ			英字表記	Study on Teaching Materials in Industrial Arts				
担当教員名	盛谷　亨	開講年次	1	期間	後　期	単位数	2	学習方法	講義・演習

●授業の概要（目的）

中学校技術・家庭科「情報に関する技術」領域の既存の教材を吟味し、この具体例をもとに自作教材を実際に設計・製作する過程で、教材開発上の問題点や学習指導上の留意点などを討議、検討する。

●授業計画

1．ガイダンス（授業の目的と予定）
2．「情報に関する技術」領域の教材
3．市販教材の吟味
4．市販教材の製作
5．市販教材の検討
6．市販教材の活用
7．教材の題材を選定するための視点
8．教材の構成と授業の組み立て
9．コンピュータを活用した教材の開発
10．ハードウェアの設計
11．ソフトウェアの設計
12．ハードウェアの製作
13．ソフトウェアの製作
14．学習計画の立案
15．授業の支援と評価の在り方

●履修上の注意（参考文献・資料等）

・学部 技術科教職課程を履修していること。

●成績評価の方法と基準等

・取り組み課題に対するレポートにて評価する。

科目名	技術科と情報教育			英字表記	Information Education in Industrial Arts				
担当教員名	盛谷　亨	開講年次	1	期間	前　期	単位数	2	学習方法	講　義

●授業の概要（目的）

中学校技術科としての情報教育におけるコンピュータの学習、および中学校内でのコンピュータとそれに係わる設備の活用について理解を深め、技術科における情報教育が単にアプリケーションソフトウェアの利用法に留まるのではないことを理解し、その指導・学習法は如何にあるべきかを考察する。

●授業計画

1．ガイダンス（授業の目的と予定）
2．技術科における情報教育の目的
3．情報教育におけるコンピュータの位置づけ
4．授業におけるコンピュータの役割
5．技術教室とコンピュータ教室
6．コンピュータの利用法についての理解
7．コンピュータの働き
8．マルチメディアとネットワーク
9．情報モラルとセキュリティー
10．学内 LAN とその活用
11．コンピュータの仕組みについての理解
12．コンピュータの構成要素
13．ハードウェアとソフトウェア
14．コンピュータ言語
15．プログラミングと計測・制御

●履修上の注意（参考文献・資料等）

・学部 技術科教職課程を履修していること。

●成績評価の方法と基準等

・課題に対するレポートにて評価する。

科目名	技術科と情報教育 演習			英字表記	Practice on Information Education in Industrial Arts				
担当教員名	盛谷　亨	開講年次	1	期間	後　期	単位数	2	学習方法	演　習

●授業の概要（目的）

概要：

目的：

技術科と情報教育（講義）をふまえ、技術科における情報教育が単にアプリケーションソフトウェアの利用法に留まるのではなく、技術科本来のものづくりと如何に結びつけていくのか、「プログラムによる計測・制御」に係わる内容をテーマに、中学校技術科で利用できるコンピュータ言語の吟味とその言語を習得するためのプログラミング、活用法についての演習を行う。

●授業計画

1．ガイダンス（授業の目的と予定）
2．情報教育におけるものづくり
3．コンピュータ言語の吟味
4．コンピュータ言語の選択
5．プログラミング環境の構築
6．基本プログラム作成演習１
7．基本プログラム作成演習２
8．基本プログラム作成演習３
9．制御対象とインタフェースの検討
10．制御対象物の製作１
11．制御対象物の製作２
12．制御プログラム作成演習１
13．制御プログラム作成演習２
14．制御プログラム作成演習３
15．まとめ

●履修上の注意（参考文献・資料等）

・学部 技術科教職課程を履修していること。

●成績評価の方法と基準等

・取り組み課題に対するレポートにて評価する。

科目名	技術と人間形成			英字表記	Technology and Human Development				
担当教員名	藤本　光司	開講年次	1	期間	後　期	単位数	2	学習方法	講義・演習

●授業の概要（目的）

人間形成上、教育は人格の完成を目指して行われるものであり、その中の普通教育における技術教育は、技術的素養を持った人格を形成するという役割を持って国民の生活と我が国の社会を支えている。技術的要素とは、技術に関する知識や技能を活用し、創意・工夫を凝らして合理的に課題を解決することができる能力および技術に対する適切な理解力のことを意味する。ものを作るという行動は人間特有のものであり、その種々な技術的行動力が人格形成上いかなる役割を果たしているのかについて考える。

●授業計画

1．開講にあたって（授業の目的、授業の予定、学びの準備）
2．知識基盤社会に必要な情報力と技術力
3．ものごとの本質を見極めるための演習
4．技術教育における課題解決方法１（問題発見と課題設定）
5．技術教育における課題解決方法２（仮説設定と情報収集）
6．技術教育における課題解決方法３（考察と評価）
7．教授・説得・伝承（ピグマリオン効果とメラビアンの法則）
8．人間形成上のコミュニケーション（シャノン、シュラム）
9．人間形成上の論理的思考（MECE）
10．人間形成上のスキーマ（レディネス把握、強制連結法、KJ法）
11．論理関係と因果関係を見極める方法（ロジックツリー）
12．学校における学習理論（行動主義、構成主義）
13．主体的な学び（学習ピラミッド、アクティブラーニング）
14．学びを支援する教育技術
15．人間形成上の技術教育の役割

●履修上の注意（参考文献・資料等）

学部　教職課程を履修していること。

教科書　「元気が出る学び力　－世の中の本質が見えてくる学びのヒント－」　ぎょうせい　を使用する。

●成績評価の方法と基準等

授業への取り組み姿勢とレポート内容にて評価する。

科目名	キャリア教育研究			英字表記	Advanced Studies: Career Education				
担当教員名	中　村　隆　司	開講年次	1	期間	前　期	単位数	2	学習方法	講　義

●授業の概要（目的）

米国におけるキャリア教育（Career Education）の概念の形成過程と、その概念の枠組み及び構成要素を主なテーマとして取り上げる。

●授業計画

１．講義概要、評価方法、受講に関する注意事項
２．キャリア教育提唱の経緯
３．連邦政府の先導
４．キャリア教育推進の社会的・教育的要因
５．教育思想的・原理的根拠
６．キャリアの意味
７．諸定義の内容と類型
８．キャリア教育と職業教育との相違性
９．概念規定に関する連邦教育当局の基本姿勢
１０．連邦教育当局による概念規定（１）
１１．連邦教育当局による概念規定（２）
１２．キャリア教育概念の核心的構成要素
１３．キャリア教育関係法における規定内容（１）：
　　１９７４年・１９７６年教育改正法
１４．キャリア教育関係法における規定内容（２）：
　　キャリア教育奨励法
１５．後期授業のまとめ、後期試験について

●履修上の注意（参考文献・資料等）

授業中に参考書を適宜指示し、資料等を配付する。

●成績評価の方法と基準等

平常点（学習態度・意欲）と学期末試験（レポート）の成績を総合して評価する。

科目名	教育学演習Ⅰ			英字表記	Seminar of Pedagogy Ⅰ				
担当教員名	三羽　光彦	開講年次	1	期間	前期	単位数	2	学習方法	講義及び演習

●授業の概要（目的）

テーマ：「近代教育思想の研究」：近代の教育思想は、今日、「近代」そのものへの問い直しとともに批判の眼にさらされている。しかしながら、依然として現代の公教育は近代教育思想をその原理的基礎にしているといわざるを得ない。近代教育思想を現代的に発展させるにしろ、否定しつつ乗り越えるにしろ、近代教育思想の正確な理解が不可欠であることはいうまでもない。いうまでもなく近代教育思想は、ヨーロッパの「近代」という時代が生みだした教育思想である。現在では南北アメリカ大陸のみならず日本を含むアジアにおいても決定的な影響力をもつ思想である。この授業では、近代の教育と教育学の基礎となった近代教育思想にみられる教育観や教育に関する概念を、教育家の思想にそくして考察することとしたい。

●授業計画

1．教育の変容と教育思想の成立――――前近代から近代へ、教育思想成立の条件
2．近代教育思想の特徴――西欧近代に固有の思想、近代教育の思想的葛藤
3．トーマス・モア―――「＜ユートピア＞と教育」：教育思想としてのユートピア、ユートピアとしての教育
4．コメニウス―――「万人にすべての事柄を」：『大教授学』の理論、コメニウス理論の影響力
5．ジョン・ロック―――「＜タブラ・ラサ＞とハビトゥス」：近代人としてのエートス、よき習慣の形成と人間の自立
6．ジャン・ジャック・ルソー―――「＜子ども＞の発見」：近代的個人と社会、『エミール』における子どもと大人
7．コンドルセ―――「人間精神進歩の歴史」：進歩主義的歴史観と教育、フランス革命の公教育計画
8. ペスタロッチ―――「＜メトーデ＞としての教育」：技術としての教育学、貧民のための教育
9．ヘルバルト―――「学問としての教授学」：教育学の大系化、品性と陶冶可能性、段階教授説
10. フレーベル―――「＜遊び＞と認識の幼児教育」：遊びが世界認識を開く、「恩物」の思想、幼児教育学の出発
11. トーマス・マン―――「コモン・スクール」：コモン・スクールの思想、近代学校教育の内在的矛盾
12. ジョン・デューイ―――「児童中心主義とプラグマティズム」：生活・労働と教育、経験と思考、実験学校
13. トルストイ―――「ヤースナヤ・ポリャーナの農民学校」：自由と自主性の尊重
14. 陶行知―――「生活は教育、社会は学校」：中国のデューイ、生活教育論、小先生制
15. まとめにかえて―――教育思想の近代と現代―――近代の帰結としての現代、モダンからポスト・モダンへ

●　履修上の注意（参考文献・資料等）

授業は受講生各自が基本文献を読んで、レジュメを作成して授業中に報告してもらう形で進める。

●成績評価の方法と基準等

評価は試験（50点）とレポート（50点）によって決定する。

科目名	教育学演習Ⅱ			英字表記	Seminar of Pedagogy Ⅱ				
担当教員名	三羽　光彦	開講年次	1	期間	後期	単位数	2	学習方法	講義及び演習

●授業の概要（目的）

テーマ：「現代思想と教育」：教育学演習Ⅰの続編としてこの授業では現代の教育思想を対象とする。哲学、社会学、歴史学、法学、心理学、医学などの学問分野では、20 世紀後半以降大きな問題提起がなされ続けている、そうした問題提起は教育学のあり方にも重要な問いかけをもたらしており、こうした諸学問の問題提起を受けた現代思想のさまざまな潮流は現代教育学に関しても理論上の基礎を提供してきている。そこでこの授業では、現代の教育問題との関係で現代思想の諸潮流の概要と特徴について考察することとした。

●授業計画

1．カール・マルクスの資本主義批判------『共産党宣言』『経済学批判』『資本論』を読む。
2．フリードリヒ・ニーチェの「ニヒリズム」------『悲劇の誕生』『道徳の系譜』を読む。
3．ジークムント・フロイトの深層心理分析------『夢判断』『精神分析入門』を読む。
4．レヴィ・ストロースの文化人類学----『悲しき熱帯』『野生の思考』『親族の基本構造』を読む。
5．フェルディナン・ド・ソシュールの構造主義言語学------『一般言語学講義』を読む。
6．ミッシェル・フーコーの権力論-------『言葉と物』『監獄の誕生』『知の考古学』を読む。
7．ホセ・オルテガ・イ・ガセトの大衆社会論--------『大衆の反逆』を読む。
8．アルチュセールのマルクス主義的構造主義-------『資本論を読む』『マルクスのため』を読む。
9．トーマス・クーンの科学のパラダイム論------『科学革命の構造』を読む。
10．ジャック・デリダの「脱構築」------『エクリチユールと差異』を読む。
11．ホルクハイマーとアドルノの現代理性批判-----『啓蒙の弁証法』『道具的理性批判へ向けて』を読む。
12．ユンゲン・ハーバーマスの近代理念の再評価------『公共性の構造転換』『イデオロギーとしての技術と科学』を読む。
13．オスヴァルト・シュペングラーの西洋中心史観批判------『西洋の没落』を読む。
14．イヴァン・イリイチの現代学校批判------『脱学校の社会』を読む。
15．パウロ・フレイレの批判的教育学-------『被抑圧者の教育学』を読む。

●履修上の注意（参考文献・資料等）

授業は受講生各自が基本文献を読んで、レジュメを作成して授業中に報告してもらう形で進める。まず基本文献を読むことから始めたい。文献は追って授業中に指示する。

●成績評価の方法と基準等

評価は試験（50 点）とレポート（50 点）によって決定する。

科目名	教育学基礎研究Ⅰ①			英字表記	Pedagogy Fundamental Study　Ⅰ　①				
担当教員名	三羽　光彦	開講年次	1	期間	前期	単位数	2	学習方法	講義及び演習

●授業の概要（目的）

概要：教育と教育学の基本文献や教育学事典などを参照しながら、教育の基礎概念を多角的に考察し、教育学的な基礎認識を鋭く豊かなものにすることを目指したい。
目的：講義と演習を交互（隔週）に実施し、主体的に考える力を養いたい。

●授業計画

1．人間とは何か（講義）
2．同（演習）
3．さまざまな発達観（講義）
4．同（演習）
5．学力とは何か（講義）
6．同（演習）
7．教育とは何か（講義）
8．同（演習）
9．教養の内容と性格（講義）
10．同（演習）
11．公教育と学校‘（講義）
12．同（演習）
13．義務教育の法的構造（講義）
14．同（演習）
15．まとめと考察

●履修上の注意（参考文献・資料等）

事典･辞書類、教育学関係の事典、哲学・心理学・社会学・歴史事典、百科事典などの文献を手がかりに、教育関係の基礎概念を深く考察する。辞典類に掲げられた参考文献にも目をとおしてレポートを作成して、受講者相互がゼミ形式で討論する。

●成績評価の方法と基準等

評価は試験（50 点）とレポート（50 点）によって決定する。

科目名	教育学基礎研究Ⅰ②			英字表記	Pedagogy Fundamental Study　Ⅰ　②				
担当教員	三羽　光彦	開講年次	1	期間	後期	単位数	2	学習方法	講義及び演習

●授業の概要（目的）
概要：教育と教育学の基本文献や教育学事典などを参照しながら、教育の基礎概念を多角的に考察し、教育学的な基礎認識を鋭く豊かなものにすることを目指したい。
目的：講義と演習を交互（隔週）に実施し、主体的に考える力を養いたい。

●授業計画
１．家庭教育と幼児教育（講義）
２．同（演習）
３．初等教育の内容と性格（講義）
４．同（演習）
５．中等教育の性格と概念（講義）
６．同（演習）
７．大学教育の歴史とあり方（講義）
８．同（演習）
９．社会教育の意義（講義）
１０．同（演習）
１１．言語・民族と教育‘（講義）
１２．同（演習）
１３．宗教と公教育（講義）
１４．同（演習）
１５．まとめと考察

●履修上の注意（参考文献・資料等）
事典･辞書類、教育学関係の事典、哲学・心理学・社会学・歴史事典、百科事典などの文献を手がかりに、教育関係の基礎概念を深く考察する。辞典類に掲げられた参考文献にも目をとおしてレポートを作成して、受講者相互がゼミ形式で討論する。

●成績評価の方法と基準等
評価は試験（50 点）とレポート（50 点）によって決定する。

科目名	教育行政学Ⅰ			英字表記	Educational　Administration　Ⅰ				
担当教員	三羽　光彦	開講年次	1	期間	前期	単位数	2	学習方法	講義及び演習

●授業の概要（目的）
テーマ：近現代日本の教育制度と教育行政
概要：近現代日本の教育改革・教育制度・教育行政の歩みとその特徴を概説する。歴史的なステップとしては、明治維新期（1860～70 年代）、天皇制公教育確立期（1880～90 年代）、産業革命期（1900～1910 年代）、新教育期（1910～1920 年代）、戦時体制期（1935～1945 年）、戦後改革期（1945～1955）、高度成長期（1955～1975）、低成長期（1975～1985）、構造改革期（1985～2000）と区分して。それぞれの時期の教育制度・行政の特質を検討する。特に、天皇制公教育確立期と戦後改革期、高度成長期を重視し、それぞれの時期の教育行政構造を明らかにしたい。そのことを通して、教育と国家あるいは社会との関係を批判的に考察する力を養いたい。

●授業計画
1．はじめに――国家と教育（教育行政の二面性）
2．江戸時代の教育――身分制教育、寺子屋・藩校・私塾
3．明治維新と教育――洋学・国学・漢学、学制・教育令
4．天皇制公教育の形成----自由民権運動と教育、森文政期の教育
5．天皇制公教育の確立----教育勅語の成立、帝国憲法体制と教育
6．産業革命と教育---複線型学校制度の形成と発展
7．さまざまな新教育の開花----労作教育、自由教育、綴方教育
8．戦時体制と教育----青年学校と国民学校令
9．敗戦と教育----悲惨な戦争とその結果、天皇制教育の否定
10．戦後教育改革----憲法・教育基本法の成立
11．戦後 6.3.3 の成立と教育委員会制度----教育地方自治と学校自治
12．高度経済成長と教育----能力主義教育の展開
13．中央集権的教育行政の復活----教育委員会制度の改正、学習指導要領の改訂、教科書裁判
14．低成長期の教育改革----教員管理の強化と教育問題
15．構造改革期の教育----日本の社会経済的変容と格差社会の進展

●履修上の注意（参考文献・資料等）
文部省『学制百年史』1972（文部科学省ホームページ http://www.mext.go.jp/b_menu/hakusho/html/others/detail/1317552.htm）をテキストとする。参考文献は木村元『学校の戦後史』岩波新書。沖田行司『日本人をつくった教育―寺子屋・私塾・藩校（日本を知る）』大巧社、『岐阜県史』（2003 年）、『彦根市史』（2015 年）の現代編、など。次回の授業のテーマが毎回の課題です。教科書・プリントなどをあらかじめ読んで、それに関する資料を図書館などで調べて出席してください。それに基づいて授業をします。

●成績評価の方法と基準等
評価は日常点（50%）とレポート（50%）によって決定する。

科目名	教育行政学 II			英字表記	Educational Administration II				
担当教員名	三羽　光彦	開講年次	1	期間	後期	単位数	2	学習方法	講義及び演習

●授業の概要（目的）

テーマ：現代日本の教育行政の諸問題

現代公教育における教育行政の意義と役割について考察し、教育行政の基本的事項を理解するとともに、現代日本の教育と教育行政の諸現象を教育学的に分析し、教育改革の諸課題を検討する。学校教育を中心とする教育行政学の基本知識を修得するとともに、近年の教育行政学の研究成果や論争点を理解し、今日の日本の教育と教育行政の諸課題を学問的に整理・検討することができることを到達目標とする。

●授業計画

1．教育行政の意義とその機能–その二面性・国家と教育
2．教育行政と一般行政–教育行政の一般行政からの独立
3．少子化・都市化と教育の諸課題–行政的課題の増大
4．日本国憲法と子どもの学習権–憲法教育条項の国際性
5．教育基本法と教育目的–「人格の完成」をどう見るか
6．教育を受ける権利と義務教育–義務教育観の転換
7．子どもの貧困と教育格差–格差の再生産構造
8．公教育の無償性と教育財政–公費による教育保障
9．教育委員会制度の理念と改革動向
10．教育課程行政の制度と課題
11．学校制度の原理と課題
12．高等学校制度をめぐる問題
13．現代の学校制度改革の動向
14．学校と地域教育自治
15．本講義のまとめ

●履修上の注意（参考文献・資料等）

教科書：井深・大橋・中嶋・川口編著『教育と教育行政』勁草書房、2015 年。参考書：大田堯『教育とは何か』岩波新書。河合隼雄『子どもと自然』岩波新書。福地誠『教育格差が日本を没落させる』洋泉社新書、など。その他は授業中に指示します。次回の授業のテーマが毎回の課題です。教科書・プリントなどをあらかじめ読んで、それに関する資料を図書館などで調べて出席してください。それに基づいて授業をします。

●成績評価の方法と基準等

評価は平常点（50 点）とレポート（50 点）によって決定する。

科目名	教育社会学 I			英字表記	Educational Sociology I				
担当教員名	吉田　隆夫	開講年次	1	期間	前期	単位数	2	学習方法	講　義

●授業の概要（目的）

本講義においては、教育の営みの基本的枠組・制度・構造・機能について理解を深めることを目的とする。

●授業計画

1．教育社会学とはなにか。
2．教育社会学の対象と方法
3．自我の形成と教育
4．自己と社会化
5．社会的自我の形成
6．家族と社会化
7．家族関係と家族のアイデンティティ
8．現代青少年の就労観・職業観
9．学校教育の意味
10．学校教育への疑問と懐疑
11．学校と隠れたカリキュラム
12．中等教育の意義
13．中等教育の起源
14．分化・選別としての中等教育
15．現在の中等教育の課題

●履修上の注意（参考文献・資料等）

教育関係の知識を得ておくこと。
基本的な教育関係の文献を読んでおくこと。

●成績評価の方法と基準等

筆記試験またはレポート

科目名	教育社会学Ⅱ			英字表記	Educational Sociology Ⅱ				
担当教員名	吉田　隆夫	開講年次	1	期間	後期	単位数	2	学習方法	講　義

●授業の概要（目的）

教育社会学のⅡにおいては主に教育現場の諸問題(いじめ・学級崩壊・不登校)などの病理現象，教育とジェンダー(伝統的性別役割分退)，学校教育における分化・選別の機能，学歴と学校社会，高等教育の実情と諸問題，学校から社会への移行の問題などについて学ぶことを目的とする。

●授業計画

１．　教育現場における病理現象
２．　いじめ
３．　学級崩壊
４．　教育とジェンダー
５．　学校教育と選別の機能
６．　競争と試験
７．　学歴社会と学校
８．　高等教育における諸問題
９．　高等教育の量的拡大
１０．　高等教育と入試
１１．　高等教育の制度・機能・組織
１２．　学歴と社会階層
１３．　学校から社会への移行
１４．　学歴と社会移動
１５．　学歴と階層

●履修上の注意（参考文献・資料等）

教育関係の知識を得ておくこと。
基本的な教育関係の文献を読んでおくこと

●成績評価の方法と基準等

筆記試験またはレポート

科目名	教育心理学			英字表記	Educational　Psychology				
担当教員名	三浦　正樹	開講年次	1	期間	前　期	単位数	2	学習方法	講義・討論

●授業の概要（目的）

かつて OECD の PISA 調査で科学的リテラシー、読解力、数学的リテラシーの全てで日本の順位が低下し問題になったことがあった。「学力低下」問題に対しては、文科省も全国学力調査を行ったり授業時数を見直したり対策を立てている。また 2007 年度から従来の特殊教育が特別支援教育に転換し LD、ADHD、高機能自閉症などいわゆる発達障害の児童・生徒が通常学級で学ぶようになった。このように教育をとりまく環境が大きく変化する中、教育心理学はさらなる実践との関わりが求められている。本講義では教育心理学の果たす役割について最新の知見をまとめるとともに、院生諸君にも論文を読み発表してもらい、議論しながら授業を進める。

●授業計画

1．教育心理学とは（教育心理学の歴史と方法、教育心理学の内容、学校心理学）
2．発達領域①（乳幼児期の社会情動的発達研究の動向と今後の展望）
3．発達領域②（児童期・青年期、思春期・青年期を中心とした研究の動向）
4．発達領域③（成人期・老年期、成人期・老年期における発達研究の動向）
5．人格領域（人格心理学領域における研究動向と展望）
6．社会領域（学校教育における社会心理学的視点、動機づけ、対人関係、適応）
7．教授・学習領域（教科密着型研究、学習方略、学習観、知識の適用、文章理解）
8．測定・評価領域（測定・評価における研究動向、統計的データ解析法）
9．臨床領域（教育心理学的視点による学校臨床）
10．障害領域（障害に関する教育心理学的研究の動向と課題）
11．学校心理学領域（学習援助に関する研究の動向と課題）
12．院生による発表①
13．院生による発表②
14．院生による発表③
15．まとめ（前期の授業をふり返り、改めて教育心理学の役割について考える）

●履修上の注意（参考文献・資料等）

教育心理学研究・教育心理学年報
教育心理学会発表論文集
教育心理学ハンドブック、日本教育心理学会編、有斐閣

●成績評価の方法と基準等

授業中の討論、質疑応答（５０％）　課題発表（５０％）

科目名	教育哲学研究			英字表記	Educational Philosophy				
担当教員名	廣岡　義之	開講年次	1	期間	後期	単位数	2	学習方法	講義・輪読

●授業の概要（目的）

概要：　ボルノーの教育思想を軸とした西洋教育哲学の理解

目的：『ボルノーの教育学入門』を教科書として使用し、西洋の教育哲学思想を媒介にして現代教育学の根源的な問題を解明する糸口を見出すことを目的にする。

●授業計画

(1) 本講義のオリエンテーション
(2) カントにおける教育目的論
(3) ボルノー・ハイデッガー・ジャン・パウルの教育思想
(4) ザルツマン、カント、ヤコービの教育思想
(5) シュタイナーとボルノーの「畏敬の念」について
(6) フレーベルの幼児教育思想
(7) ブーバーの教育思想
(8) ボルノーの徳論
(9) ニコライ・ハルトマンの「信念」
(10) ルソー、ペスタロッチ、フレーベルの教育思想
(11) ヘルバルトの教育思想
(12) ボルノーの実存的教育思想
(13) シュプランガーの教育思想
(14) ランゲフェルドの教育思想
(15) カント、ヤスパース、ヘルバルト、フィヒテの平和教育論

●履修上の注意（参考文献・資料等）

①教科書として『ボルノー教育学入門』（風間書房）を熟読しておくこと。

●成績評価の方法と基準等

①『ボルノー教育学入門』の輪読を行うので予習して講義に臨む。②講義中に質疑応答を課する。
以上の３点を考慮して総合的に評価する。

科目名	教育評価			英字表記	Educational　Evaluation				
担当教員名	吉田　隆夫	開講年次	1	期間	後　期	単位数	2	学習方法	講義・演習

●授業の概要（目的）

教育評価の際に表計算ソフトや統計ソフトの普及で教育関係のデータを分析する機会が増えている。データ分析は数式がともない難しいと思われるが、エクセルや汎用の統計ソフトをユーザーとして活用して研究データの分析に活用することを学ぶ。データ分析の基礎および多変量解析についての基本的知識と技術を習得して実際的なデータ処理に習熟することを目標とする。

●授業計画

１．　オリエンテーション　「教育評価の意義」
２．　教育データの分析　「データ分析とは」
３．　データ分析の基礎（基本統計量　１）
４．　データ分析の基礎（基本統計量　２）
５．　推定と検定
６．　平均の差の検定
７．　分散分析
８．　回帰分析
９．　相関係数
１０．　多変量解析「重回帰」
１１．　多変量解析「主成分分析」（１）
１２．　多変量解析「主成分分析」（２）
１３．　多変量解析「因子分析」（１）
１４．　多変量解析「因子分析」（２）
１５．　共分散構造分析の基礎

●履修上の注意（参考文献・資料等）

資料と教材は配布します。受講生はPCの扱いに習熟しておくこと。

●成績評価の方法と基準等

レポート（採点の観点は正確性 客観性 論理性 明瞭性 理解度 表現力 引用文献の明記とします。）

科目名	教育メディア研究			英字表記	Advanced Course in Educational Media				
担当教員	林　徳治	開講年次	1	期間	前期	単位数	2	学習方法	講義・演習

●授業の概要（目的）

概要：様々な教育メディアを活用した教授学習過程において、教授者に求められる学習デザイン、教材開発、教育評価などの資質や能力、メディアによる学習者の活動・能力の拡張について、諸外国の先行事例や学術的理論を通して学ぶ。またメディア活用による諸課題の分析を行い、教育実践上での指針や基準を提案する。

目的：教育メディアを活用した教授学習過程において、以下の項目を到達目標とする。
1. 教育メディア活用の意義と役割について説明できる
2. 教材開発の構想ができる
3. 授業の PDCA サイクルが構想できる
4. 異文化・多文化の学習への活用が構想できる

●授業計画

1. 教授・学習理論の変遷：分類
2. 教授・学習理論の比較
3. 経験主義、行動（認知）主義による教授学習過程の分析
4. 構成主義による教授・学習過程の分析
5. 教授者が主となり学習者の認知を重視した授業設計
6. 学習者が主となり学習者の主体性を重視した授業設計
7. 学習環境を重視した教育：社会相互作用理論
8. 学習環境を重視した教育：行動意図モデル
9. メディアを活用した教材開発と評価１：分類
10. メディアを活用した教材開発と評価２：分析
11. メディアを活用した授業計画と学習指導案
12. マイクロティーチングの理論と実践知とメディア
13. メディアを活用したマイクロティーチングのための授業計画作成
14. マイクロティーチングの実践と評価
15. 今後の教育メディアのコンテンツ開発・蓄積・流通：デジタルアーカイブ

●履修上の注意（参考文献・資料等）

本授業の学習は、個別指導に加え、内外の研究者の参加によるテレビ会議や VOD やｅラーニングにより進める。
授業資料や参考文献は、ｅラーニングで提供する。
留学生など日本語が十分でない場合は、英語で講義を行う。また配布資料についても、英語版を使用するので電子辞書などを携帯のこと。

●成績評価の方法と基準等

教材作成　50%、提出課題　50%

科目名	健康スポーツ教育学研究Ⅰ			英字表記	Study on Health and Sport Educations Ⅰ				
担当教員	中塘　二三生	開講年次	1	期間	前期	単位数	2	学習方法	講義

●授業の概要（目的）

概要：健康スポーツ教育学研究Ⅰでは、特に健康に関する教育研究について講義します。

目的：健康スポーツ教育学研究に関する１）健康に関する研究では健康の意味（定義）、身体組成なかでも体脂肪率とその測定法と評価、肥痩と健康、水分補給、２）栄養調査の面では栄養素、栄養摂取量、食品機能、保健機能食品などの概説を通して、研究法について理解してください。授業の最後には、「本日の授業概要のなかから、あなたが今後研究を行うとすればどのような研究を行いますか」についてのミニプレゼンも予定しています。また、施設や測定機器が用意できた場合には、測定データを用いた講義の追加も考えています。

●授業計画

１．　ガンダンス
２．　論文の作成法
３．　調査･測定法の条件と誤差
４．　超高齢社会と健康寿命
５．　転倒の要因とロコモ・サルコペニア
６．　身体組成
７．　健康と肥満
８．　肥満と肥満度の判定と評価
９．　健康と水分補給
１０．　健康と摂食行動の調節
１１．　健康と栄養障害（るい痩）
１２．　健康と栄養素
１３．　健康と食品の機能
１４．　健康と食事摂取基準とサプリメント
１５．　まとめ

●履修上の注意（参考文献・資料等）

教科書や参考文献・資料等は、特に指定しませんが、必要に応じて紹介します。

●成績評価の方法と基準等

受講意欲と習熟度から総合的に評価します。

科目名	健康スポーツ教育学研究Ⅱ			英字表記	Study on Health and Sport EducationsⅡ				
担当教員	中塘　二三生	開講年次	1	期間	後期	単位数	2	学習方法	講義

●授業の概要（目的）

概要：健康スポーツ教育学研究Ⅱでは、特にスポーツなかでも身体活動に関する教育研究について講義します。

目的：健康スポーツ教育学に関する測定法の条件、体力の意味、エネルギー代謝、筋力や強度、トレーニング法などの生理学的なメカニズムを理解し、研究法について理解してください。授業の最後には、「本日の授業概要のなかから、あなたが今後研究を行うとすればどのような研究を行いますか」についてのミニプレゼンも予定しています。また、施設や測定機器が用意できた場合には、測定データを用いた講義の追加も考えています。

●授業計画

１．　ガイダンス
２．　論文の作成法
３．　測定・調査法の条件と誤差
４．　体力の構成要素と体力測定法
５．　発育発達と体力
６．　加齢と体力
７．　スポーツ活動のエネルギー源
８．　スポーツ活動中の呼吸・循環
９．　スポーツ活動中の筋力発揮と反応時間
１０．スポーツ活動と全身持久性
１１．スポーツ活動中の運動強度の推定
１２．静的・動的トレーニングの原則
１３．トレーニング効果
１４．まとめ

●履修上の注意（参考文献・資料等）

教科書や参考文献・資料等は、特に指定しませんが、必要に応じて紹介します。

●成績評価の方法と基準等

受講意欲と習熟度から総合的に評価します。

科目名	国際開発教育研究			英字表記	Advanced Course in International Development Education				
担当教員	林　徳治	開講年次	1	期間	後期	単位数	2	学習方法	講義・演習

●授業の概要（目的）

概要：様々な地域の開発途上国に対する ODA として、JICA（国際協力機構）による開発教育について考察する。開発途上国の開発目標としての「ミレニアム開発目標（MDGs）」を継承した世界合意の「持続可能な開発目標（SDGs）」の今後の取り組みについて言及したい。そこでは、支援についてはパートナー、研修・訓練は、Knowledge Co-creation Program の考えを基調に進めていきたい。また本授業では、国際的な観点から情報化に対応した ICT 活用による開発教育に主眼をおき、国際理解教育や帰国子女教育、留学生受入れについても考察する。

目的：開発教育において、以下の項目を到達目標とする。
1. 持続可能な開発目標（SDGs）に向けた我が国での ODA について考察できる
2. SDGs における様々な分野のうち、自己の専門に照らし合わせた開発教育に関心をもつことができる
3. 教育分野における開発途上国での JICA 事業を学び、現状と課題を考察できる
4. 異文化・多文化の学習への活用が構想できる

●授業計画

1. 我が国の ODA の変遷
2. 国際協力とは
3. 国際理解教育とは
4. 開発協力とゴール
5. SDGs について
6. 我が国の ODA における地域別取り組み
7. 我が国の ODA における課題別取り組み
8. 我が国の ODA における様々な事業の取り組み
9. JICA における教育協力
10. タイ・ラチャパット大学での FD の支援（事例研究）
11. パプアニューギニアにおける教材開発と評価の支援（事例研究）
12. パキスタン・Allama Iqubal Open Univ.におけるマルチメディア教材開発と評価の支援（事例研究）
13. フィリピンにおける CPSC プロジェクトの支援（事例研究）
14. ホンデュラスにおける看護教員研修の支援（事例研究）
15. 今後の開発教育の課題

●履修上の注意（参考文献・資料等）

本授業の学習は、個別指導に加え、内外の研究者の参加によるテレビ会議や VOD や e ラーニングにより進める。
授業資料や参考文献は、e ラーニングで提供する。
留学生など日本語が十分でない場合は、英語で講義を行う。また配布資料についても、英語版を使用するので電子辞書などを携帯のこと。

●成績評価の方法と基準等

フィールドワーク 50%、提出課題 50%

科目名	国際経営研究			英字表記	INTERNATIONAL BUSINESS ADMINISTARATION				
担当教員名	政岡　勝治	開講年次	1	期間	前　期	単位数	2	学習方法	講　義

●授業の概要（目的）

経済のグローバル化により、日本企業の海外進出や、逆に外国企業の日本進出は益々盛んになっていく。国際経営研究では、経営学の基本・関連事項を復習し、そして国際経営に係る理論的説明に加え、日本の代表的な国際企業である総合商社での海外勤務、海外企業の買収、海外子会社設立などを行った経験をケース・スタディとして織り交ぜ進めていく。英語文献も活用して、幅広い知識の獲得を目指す。

●授業計画

1. 講義の全体説明
2. 経営学と国際経営論
3. 経営戦略論と国際経営
4. 経営組織論と国際経営
5. 企業の進化と国際経営論
6. グローバル競争の新展開と日本企業
7. 戦後の日本の国際経営の軌跡
8. 国際経営と現地化
9. 国際経営と環境経営
10. 国際経営と直接投資
11. 国際経営と世界人材戦略
12. 国際経営と BOP ビジネス
13. 国際経営と経営システム
14. 国際マーケティング
15. 講義のまとめ

●履修上の注意（参考文献・資料等）

・参考文献・資料については適宜紹介、配布する。テキストは特に定めない。

●成績評価の方法と基準等

課題レポート 50%、期末試験 50%

科目名	国際文化研究			英字表記	Special issue in international culture				
担当教員	中田　康行	開講年次	1	期間	前期	単位数	2	学習方法	講義

●授業の概要（目的）

概要：特に欧米文化を中心に、個別文化の諸特徴を理解しながら国際間の文化的関わりや、そこから派生する文化的、経済的、民族的諸問題を歴史的背景を踏まえて把握する。

目的：欧米の国々に焦点を当て、歴史、文化、地名などにふれながら、その文化的特徴を考察し、国際文化研究を観点にして政治、経済、宗教高等教育などの重要な論点を取り上げ考察する。

●授業計画

第1回　授業目標や概要の説明
第2回　現代ヨーロッパの確立と文化史的・歴史的背景
第3回　ローマ帝国の後世への文化的影響
第4回　キリスト教の伝播と拡散（地理・民族）
第5回　キリスト教の歴史的発展と国際文化的役割
第6回　世界宗教サミットとグローバル化
第7回　ゲルマン系 vs ラテン系（融合と対立）
第8回　中世暗黒時代の意味
第9回　中世暗黒時代と大教会建築（大聖堂）
第10回　大聖堂建造と建築様式の変遷（ノルマン、ロマネスク、ゴシック）
第11回　大学の起源と発展
第12回　中世ヨーロッパの大学教育（と現代）
第13回　アメリカ（建国、民族、地名）
第14回　アメリカ（現状と国際的状況）
第15回　アメリカ合衆国における“Rehispanicization”

●履修上の注意（参考文献・資料等）

様々な情報に注意し関心ある国々について、自ら探求して欲しい。

●成績評価の方法と基準等

○授業への積極的な貢献　○レポート　○授業中の発表
以上を基礎に総合評価を行う。

科目名	心の健康教育に関する理論と実践			英字表記	Theory and Practice about Mental Health Education				
担当教員名	林　知代	開講年次	1	期間	後　期	単位数	2	学習方法	講　義

●授業の概要（目的）

概要：心の健康保持を危うくする心の問題への対応を援助するという予防開発的な心理支援について学ぶ。

目的：そのために支援者がすべきことは、心の健康教育について理解すること、心の健康教育に関する実践について理解すること、心の健康教育に関する実践を行うことができること、つまり自己とうまく付き合う事と他者と適切に付き合うことの実践によって自己の内的生活と社会生活とを自分らしく関わっていくことであることを知ることを目的としている。

●授業計画

1．開講に当たって
　授業の目的、授業の予定、評価方法、参考文献・資料の紹介
2．自己との関わりについて　（1）
　自己認知について学ぶ
3．自己との関わりについて　（2）
　自己を受け入れることと自尊感情の維持について学ぶ
4．他者・集団との関わり（1）
　自己を主張するとともに、人間の多様性と多文化性を学ぶ
5．他者・集団との関わり（2）
　自己を抑圧して適応するのではなく、自己を主張し他者と折り合いをつけるとは何かについて学ぶ
6　学習の課題
　自分独自の学ぶスタイルの理解について考える。
7．キャリアの課題
　自己の能力・適性を理解し、キャリアにおける意思決定をする事と、移行時の課題やストレスについて知る
8．心身の健康とのつきあい（1）
　心身の健康状態について考える
9．心身の健康とのつきあい（2）
　心身の障害や疾病について心理的理解をする
10．危機対処・レジリエンス（1）
　問題が生じた状況に対して心理学的視点からどう解決していくかについて考える
11．危機対処・レジリエンス（2）
　失敗・挫折から学ぶこと、そしてそこから回復することについて考える
12．危機対処・レジリエンス（3）
　人生の危機に対処し、回復することについて考える
13．危機対処・レジリエンス（4）
　自他の死に関わることについて考える
14．心の健康教育の様々な方法
15．講義のまとめ
　講義で学んだことを再度振り返る。

●履修上の注意（参考文献・資料等）

適宜資料を配布

●成績評価の方法と基準等

授業中の取り組み、発言及び態度、レポート課題や試験を評価項目とする。

科目名	CG／CAD研究			英字表記	Computer Graphics & Computer Aided Design				
担当教員	林　圭一	開講年次	1	期間	後　期	単位数	2	学習方法	講義・演習

●授業の概要（目的）

概要：コンピュータグラフィックス（CG）は、工業分野における設計支援（CAD）システムを始として、教育、医療、科学、芸術、映画、放送、ゲームなど広い分野で必要不可欠な技術として活用されているが、本講においては主に教育・産業分野での利用を取り上げる。

目的：CG および CAD の基本技術を理解し、利用できるようになることを目的とする。

●授業計画

実際的な利用技術が理解できるように、毎時間講義とコンピュータ演習を並行して進める。

1.CG/CAD 技術の歴史とその応用分野
2.3次元（立体）CG/CAD の技法：座標系と投影法
3.3次元（立体）CG/CAD の技法：立体モデリング
4.3次元（立体）CG/CAD の技法：立体表示のためのレンダリング
5.3次元（立体）CG/CAD の技法：課題の作成
6.2次元（平面）CG/CAD の技法：ペイント系システムとドロー系システム
7.2次元（平面）CG/CAD の技法：立体の投影変換と2次元表示法
8.2次元（平面）CG/CAD の技法：JIS に基づく製図法
9.2次元（平面）CG/CAD の技法：課題の作成
10.コンピュータアニメーションの技法：動画表現の基礎・動きの知覚
11.コンピュータアニメーションの技法：動きの生成・キーフレーム法
12.コンピュータアニメーションの技法：課題の作成
13.シミュレーションと CG
14.工業分野における可視化技術とその応用例
15.教育・産業分野での活用事例と課題

●履修上の注意（参考文献・資料等）

基本的なコンピュータ操作を習得していることを前提として、授業を行う。

●成績評価の方法と基準等

授業において作成する課題、および期末に作成するレポートにて評価する。

科目名	司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開	英字表記	Development of Theory and Support about Judiciary/the Criminal Field				
担当教員名	林　知代	開講年次	1	期間	後　期	単位数	2	学習方法	講　義

●授業の概要（目的）

概要：非行や犯罪が生じるメカニズムを心的発達の脆弱領域・不全領域の視点から探究するなかで、司法、犯罪分野に関わる理論を概観し、臨床心理家としての関与の方法、支援策について学んでいく。人間の成長と犯罪との絡みを提示する。

目的：犯罪にまつわる心理の動きを心理臨床の視点から理解し、支援する側とされる側の両方への助言や処遇プログラムを考えられるようにする。特に加害者の気質や環境と犯罪との関連を心理学的に検討し犯罪に至る前に注意・配慮すべきことを議論する。

●授業計画

1．開講に当たって
　授業の目的、授業の予定、評価方法、参考文献・資料の紹介
2．犯罪の類型
　犯罪を類型的に見る。
3．近年の犯罪傾向
　近年の犯罪の特徴を提示し、論じる。
4．犯罪に絡む特質的問題
　生来的特質と犯罪の関連について考える。
5．犯罪に絡む環境的問題
　環境と犯罪の関連について考える。
6．家庭での関わり合いの留意点
　家庭における愛着対象および他家族メンバーの関わり合いで生じる臨床的問題を犯罪との関係に注目し検討する。
7．少年犯罪と、成人の犯罪の違いについて考える。
　犯罪動機や犯行のメカニズムの違いについて話し合う。そのうえで心理学的支援のあり方を学ぶ。
8．少年犯罪と成人犯罪では、手続き上の違いがあることを理解し、心理家として関わる際どう動き関係機関と連携するかについて学ぶ。
9．虐待、いじめ、発達の課題などが非行や犯罪にどのように関連するのかを理解する。犯罪を未然に防止するための心理学的支援について考える。
10．粗暴犯、薬物犯、性犯罪など累犯の加害者の特徴や犯行のメカニズムについて学ぶ。処遇や再犯防止についてプログラムをどのように立てるかを考える。
11．プロファイリングやポリグラフ検査、犯罪情報について理解し、心理学的知見が犯罪捜査や犯罪予防にどのように活用されうるかを考える。
12．犯罪の精神鑑定について理解し、心神喪失や心神耗弱に当たる事例お検討するとともに、医療観察法が適用された場合のその制度について学ぶ。心理学的視点との関係について論じる。
13．心理学者による犯罪心理鑑定と医者による精神鑑定との違いを学ぶ。鑑定人となった場合、それを法廷でどのように証言するのが望ましいかについて話し合う。
14．性格的な問題をもつパーソナリティ障害やサイコパスなどと非行・犯罪との関係について理解し、心理学的支援について考える。
15．講義のまとめ講義で学んだ事を振り返りまとめる。

●履修上の注意（参考文献・資料等）

「少年A矯正2500日全記録」草薙厚子著 文春文庫、「犯罪精神医学入門－人はなぜ人を殺せるのか」福島章著 中公新書、「現代殺人論」作田明著 PHP新書講義で適宜、資料配布。

●成績評価の方法と基準等

授業での発表姿勢およびその内容。レポート。

科目名	事業開発研究	英字表記	Research of Business Development				
担当教員名	今岡　重男	開講年次	1	期間	後　期	単位数	2	学習方法	講義と演習

●授業の概要（目的）

本講では、ベンチャー企業の起業から、マーケティング戦略や効率的な成長を促す成長戦略までを、理論・実践の両面から学修することを目的にする。

さらに、「起業・開業のための経営知識の習得」をテーマに、実践的な企業経営の原理原則を学んだ上で、最終的には「ビジネスプラン（事業計画書）」を作成することとする。

本講は、ベンチャー企業の起業に関心がある場合はもちろんであるが、一般企業や教育界・公務員としての就業希望者などにも役立つものである。

●授業計画

回数	講義予定	内容と方法
1	オリエンテーション	ベンチャー企業経営概要と授業の進め方を説明する。
2	（講義）ベンチャー企業とは	ベンチャー企業の特徴・歴史・環境・意義やベンチャー企業の類型を学ぶ。
3	（講義）企業家の発想とアイデアの獲得	企業家のパーソナリティや思考プロセス、「アイデアのふくらまし」、オズボーンのチェックリストを学ぶ。
4	（講義）事業の構想化	事業の定義、事業コンセプト（だれに、何を、いかに）を100円ショップ、ダスキンドーナツ等の例で考える。
5	（前回の復習と簡単な演習①）事業コンセプトを考える	前回講義の復習と演習の説明の後、自分で事業を始めることを想定し事業コンセプトをつくってみる。
6	（講義）ビジネスモデルとは	実際のビジネスモデル作成例を見ながら、ビジネスモデル、事業システムや店舗コンセプト等を学ぶ。
7	（講義）成功事例にみる起業ポイント	ユニクロ、花王・ライオン・P＆G、コクヨ・アスクル、様々なインターネットビジネスの事例を学ぶ。
8	（前回の復習と簡単な演習②）ビジネスモデルを考える	前回講義の復習と演習の説明の後、自分で事業を始めることを想定しビジネスモデルをつくってみる。
9	（講義）マーケティング戦略について	マーケティングの管理プロセス（市場機会の分析、標的市場の選定、市場競争環境の分析、自社の強み・弱みの分析、市場におけるポジショニングの決定、マーケティング・ミックス戦略策定等）を学ぶ。
10	（前回の復習と簡単な演習③）マーケティング戦略を考える	前回講義の復習と演習の説明の後、自分で想定した事業に関するマーケティング戦略をつくってみる。
11	（講義）成長戦略（事業展開の方向）について	ビジネスモデルの創造から展開に至る戦略やドメイン（生存領域）の再定義と第2の創業について学ぶ。
12	（前回の復習と簡単な演習④）成長戦略を考える	前回講義の復習と演習の説明の後、自分で想定した事業に関する成長戦略をつくってみる。
13	（演習）事業企画をまとめる	今までの演習成果を基に自分の事業企画をまとめる。
14	まとめ①	全授業の重要点を再整理する。
15	まとめ②	全授業を振り返り質疑応答を通じてまとめをする。

●履修上の注意（参考文献・資料等）

（教科書）『ベンチャー企業経営論』金井一頼・角田隆太郎　（有斐閣、2002）

（参考文献）『MOTアドバンスト　技術ベンチャー』早稲田大学松田修一研究室（日本能率協会マネジメントセンター、2004）『ベンチャー企業論入門』上坂卓郎（中央経済社、2006）

●成績評価の方法と基準等

評価法：講義での質問や討議への参画、課題レポートと期末レポートを総合評価する。

科目名	情報教育特研究			英字表記	Advanced lecture on information education				
担当教員	若杉　祥太	開講年次	1	期間	後期	単位数	2	学習方法	講義

●授業の概要（目的）

概要：情報学教育から情報教育において、意義や役割、機能まで本質的理解を促す深い学びを展開する。

目的：情報学教育から情報教育における深い学びを通して本質的な理解をする。

●授業計画

1. ガイダンス
   情報教育、情報学教育
2. 情報教育
   情報科教育、情報化教育、情報安全教育
3. データと情報の本質と相違性
   定性的考察と定量的考察、エータと情報、2つの情報量、情報概念
4. アナログとディジタルの双対性
   アナログとディジタルの概念と双対性
5. リアルとバーチャルの同義性
   リアルとバーチャルの概念、仮想的現実性、現実的仮想性
6. メディアの多義性と多様性
   メディアの多義性と多様性、メディアの社会決定論
7. 情報セキュリティと知的財産
   情報セキュリティとその対策、知的財産権
8. e-Learning と WBL
   e-Learning と WBL の構築、教育クラウド
9. ディジタル環境論
   クラウドコンピューティング、ディジタル環境が及ぼす影響
10. 問題解決の科学
    問題解決の本質と応用、正しい情報の存在
11. 情報教育の在り方と目標
    情報教育の在り方と目標・体系
12. 情報教育の歴史的経緯―教科「情報」の新設と改定―
    普通教科「情報」、共通教科情報科
13. 小中学校における情報教育と教育の情報化
    状中学校における情報教育、ICT 活用による新しい学び
14. 情報教育の学習評価と授業改善
    学習評価、基準と規準、授業改善
15. 学習の振り返りとまとめ

●履修上の注意（参考文献・資料等）
教科書必須：情報学教育の新しいステージ―情報とメディアの教育論、松原伸一、開隆堂（2300 円＋税）
学部開講の中等教科教育法(情報) Ⅰ・Ⅱを履修していることが望ましい。

●成績評価の方法と基準等
レポート 100％

科目名	情報システム論			英字表記	Information system theory				
担当教員名	中村　宏敏	開講年次	1	期間	前期	単位数	2	学習方法	講　義

●授業の概要（目的）
概要：
目的：パソコンや携帯などのネットワークシステムの現状把握と共に、現代社会における情報システムの方向性を理解し、活用出来る人を育成することを本授業の目的とする

●授業計画

１．現代社会とネットワーク
２．情報とシステム
３．仮想システムの構築（入試システムを考える）
４．仮想システムの構築（入試システムを考えるつづき）
５．仮想システムの構築(顧客管理システムを考える)
６．仮想システムの構築（エントリーシステムを考える）
７．現代社会における情報の氾濫について
８．ネットワークとは
９．小規模ネットワークの構築
１０．　小規模ネットワークの構築とセキュリティ
１１．　携帯電話テザリングによるインターネット接続
１２．　音声認識システムについて
１３．　タッチパネルについてその技術と活用
１４．Web カメラとその活用

授業理解度をみながら、授業内容と進度を変更する場合があります。

●履修上の注意（参考文献・資料等）
必要機材は準備します。配布プリント学習理解プリントを配付します。

参考文献　ネットワークスペシャリスト徹底予想沖電気㈱編著など

●成績評価の方法と基準等
各単元に授業理解度を確認し、学期末には試験をとりおこないます。

科目名	情報数理研究			英字表記	Advanced lecture on Mathematical Sciences				
担当教員	若杉　祥太	開講年次	1	期間	前期	単位数	2	学習方法	講義・演習

●授業の概要（目的）

概要：基礎的な数理的理論の理解に資する数値データの情報操作技法を磨き正確かつ効率的に行うための統計処理演習を行う。

目的：基礎的な数理的理論を理解することにより多様な分野の質的・量的研究の一助とする。

●授業計画

1. ガイダンス、excel 基礎
   統計的検定、統計的推定
2. 基本統計量
   平均値、不偏分散、標準偏差、歪度、尖度、中央値、最頻値等
3. 正規母集団
   正規性の検定、母数の検定・推定
4. 独立した２群の差の検定
   F 検定、スチューデント/ウェルチの t 検定、マン・ホイットニ検定
5. 関連のある２群の差の検定
   対応のある t 検定、ウィルコクソン符号順位和検定
6. 独立した他群の差の検定
   バートレット検定、一元分散分析法、クラスカル・ワーリス検定
7. ２要因で分類される多群の差の検定―繰り返しなし―
   二元配置分散分析法、フリードマン検定
8. ２要因で分類される多群の差の検定―繰り返しあり―
   二元配置分散分析法、重複測定一分散分析法
9. 多重比較
   多重比較の可能性、パラ・ノンパラメトリック多重比較検定
10. 相関関係
    ピアソンの相関係数検定、スピアマンの順位相関係数の検定
11. 回帰分析
    単回帰分析、重回帰分析、変数選択一重回帰分析、
    整次多項式回帰分析
12. 2×2 分割表の検定
    X^2独立性検定、フィッシャー直接確率計算法、マクニマー法、
    マンテル・ヘンツェル法
13. m×n 分割表の検定
    X^2独立性検定、マン・ホイットニ検定、クラスカル・ワーリス検定
    スピアマンの順位相関係数の検定
14. 生存分析
    Kaplan-Meier 法、ロングランク検定
15. 学習の振り返りとまとめ

●履修上の注意（参考文献・資料等）
教科書必須：4Step エクセル統計 第４版、柳井久江、オーエムエス出版 発売星雲社（4000 円＋税）※統計ソフト付
学部開講の情報数理学Ⅰ・Ⅱを履修していること。外部入学者は相談の上、履修を決定する。

●成績評価の方法と基準等
演習成果物 60%、レポート 40%

科目名	情報倫理研究			英字表記					
担当教員	林　泰子	開講年次	1	期間	前期	単位数	2	学習方法	講義

●授業の概要（目的）

概要：情報社会において「情報」が起因となっている問題事象を通し、そこに介在している「人」に着目し、情報倫理を法的・技術的な観点、および道徳的な観点から探求する。

目的：「情報」の特性を理解し、情報社会の一員として必要な倫理観の育成と、情報を適切に判断し実践できる能力を修得する。

●授業計画

イントロダクション
　情報倫理に関する導入課題
1. 情報の本質
   情報の特性、データと情報、情報の価値
2. 情報倫理の概念
   応用倫理、倫理、モラル、道徳
3. 情報社会の多様性
   ネット社会、デジタル社会、情報過多
4. ソーシャルネットワーク
   実名と匿名、乖離する人間像
5. 情報とコミュニケーション
   進化する情報端末機、スマートフォン
6. 日常生活の情報化
   情報媒体の多様化、フェイクニュース、監視社会
7. 知的財産権
   著作権、デジタル社会と著作権侵害

個人情報
　個人情報保護、プライバシー、マイナンバー
8. 情報倫理の重要性
   情報倫理教育、情報モラル教育、人権教育
9. 情報倫理と道徳性Ⅰ
   道徳的判断力、道徳性認知発達段階理論
10. 情報倫理と道徳性Ⅱ
    情報倫理の問題事象を道徳的観点から分析
11. 情報社会で求められる倫理Ⅰ
    ロジックツリーを用いた課題解決方法
12. 情報社会で求められる倫理Ⅱ
    課題解決の糸口・提言
13. 学習の振り返りとまとめ
    これまでの講義の振り返り、受講者の学習のポートフォリオの総括

●履修上の注意（参考文献・資料等）
参考文献：情報倫理学入門、越智貢編、ナカニシヤ出版（2600 円＋税）
本科目では、情報社会の問題事象を随時取り上げ、受講者のディスカッションによる多様な視点からの意見を考察する。日頃から、ニュースや記事などで見聞きする、情報に関する様々な問題事象に興味・関心を持っておくように心がけること。とくに関心を持ったことや気づいたことは、書き止めたり資料としてまとめておくこと。

●成績評価の方法と基準等
課題提出物 60%、レポート 40%

科目名	職業指導学研究			英字表記	Advanced Studies: Vocational Guidance				
担当教員名	中　村　隆　司	開講年次	1	期間	後　期	単位数	2	学習方法	講　義

●授業の概要（目的）

福山重一著「職業指導研究」を基本文献として取り上げ、福山職業指導学理論の構造を解明しながら、その根本理念の意味内容について考察する。授業テーマによって、“S. Fukuyama：A Philosophical Foundation of Vocational Guidance.”“С.Фукуяма：Теоретические основы профессиональной ориентации.”（ロシア語版）も参考し考察を深める。

●授業計画

１．講義概要、評価方法、受講に関する注意事項
２．職業指導の歴史的発展
３．職業指導の諸理論
４．職業指導とキャリアガイダンス
５．キャリア発達理論
６．福山職業指導学の位置づけ
７．福山職業指導学の理念―人間、文化と社会
８．福山職業指導学の理念―教育と職業指導
９．福山職業指導学の理念―労働観
１０．福山職業指導学の理論構造
１１．福山職業指導学の実証的研究方法（１）
１２．福山職業指導学の実証的研究方法（２）
１３．Fukuyama Profile の概要
１４．福山職業指導学とキャリア教育
１５．まとめ

●履修上の注意（参考文献・資料等）

授業中に参考書を適宜指示し、資料等を配付する。

●成績評価の方法と基準等

平常点（学習態度・意欲）と学期末試験（レポート）の成績を総合して評価する。

科目名	職業選択研究Ⅰ			英字表記	Vocational Selection I				
担当教員	湯尾　慎一	開講年次	1	期間	前期	単位数	2	学習方法	講義

●授業の概要（目的）

概要：近年、青少年の職業意識や就業行動において大きな変化が見られ、問題として早期の離職・転職者の増加、進路未決定者の増加、無求職者の増加などがある。これらを背景として青少年の職業選択の問題が指摘され、学校教育における進路指導の重要性が高まっている。本講義においては、学校教育における進路指導の立場から教育学的アプローチで、職業選択の問題と進路指導を中心に講義する。

目的：教育現場における進路指導を職業選択の立場から考える必要性を明らかにする

●授業計画

１．職業選択と学校進路指導
２．社会の変化と進路指導の問題点を考える。
３．教育課程と進路指導の関連について考える。
４．進路指導の諸活動とその問題点（自己理解・生徒理解）
５．進路指導の諸活動とその問題点（進路情報）
６．進路指導の諸活動とその問題点（啓発的経験）
７．進路指導の諸活動とその問題点（進路相談）
８．教育における進路発達の意義を考える。
９．進路発達と職業選択
１０．進路指導の理論
１１．中学生の進路発達と学校進路指導のあり方を考える
１２．高校生の進路指導と学校進路指導のあり方を考える
１３．進路選択におけるジェンダーの問題を理解する
１４．職業選択と進路発達の関係を考える
１５．青少年の職業選択行動

●履修上の注意（参考文献・資料等）

必要な資料は配付する。

●成績評価の方法と基準等

日々の講義における活動と小レポート

科目名	職業選択研究Ⅱ			英字表記	Vocational Selection II				
担当教員	湯尾　愼一	開講年次	1	期間	後期	単位数	2	学習方法	講義

●授業の概要（目的）

概要：青少年の職業意識や就業行動において大きな変化が見られ、問題として早期の離職・転職者の増加、進路未決定者の増加、無業者の増加などがあげられる。これらの背景として青少年の職業選択の問題が指摘され、学校教育における進路指導の重要性が高まっている。本講義においては職業に焦点をあてて、進路指導の立場から職業の意義および職業の意義および職業選択の理論と歴史を中心に論述する

目的：学校教育において自己指導力を高める指導をすることによって、社会人になってから持続的に有為な職業選択ができる自己指導力をもった行動ができることを理解する。

●授業計画

１．職業の意義
２．職業の意義と仕事の世界
３．職業構造の変化
４．適性と適応
５．個性の理解と職業的適性検査
６．職業選択に関する基礎的理論（パーソンズ）
７．職業選択に関する基礎的理論（キンズバーグ）
８．職業選択に関する基礎的理論（スーパー）
９．職業選択に関する基礎的理論（ホランド）
１０．職業選択の指導の歴史
１１．アメリカにおける職業選択の指導の歴史(1)
１２．アメリカにおける職業選択の指導の歴史(2)
１３．日本における職業選択の指導の歴史(1)
１４．日本における職業選択の指導の歴史(2)
１５．職業選択指導のための活動

●履修上の注意（参考文献・資料等）

必要な資料は配付する

●成績評価の方法と基準等

日々の講義における活動と小レポート

科目名	人的資源管理研究			英字表記	Human Resource Management				
担当教員名	今岡　重男	開講年次	1	期間	後　期	単位数	2	学習方法	講義・討論

●授業の概要（目的）

企業は、ヒト・モノ・カネ・情報の４つの経営資源から成り立つと言われている。その中でも、ヒトは、「企業は人なり」と言われるように、特に重要な経営資源である。本講では、そのヒト（組織を構成する人々）をいかにマネジメントすべきかについて、その概要を学修する。

この授業の目的は、オーソドックスで幅広い人的資源管理の課題について理解することである。この授業は、ヒトのマネジメントに関して、なぜそれが重要なのか、これまで学問的にどのように研究されてきたか、現在企業では何が問題や課題になっているかなどについて学修できるようになっている。

●授業計画

１．企業経営と人的資源管理
２．採用
３．評価
４．報酬
５．配置と異動
６．昇進
７．退職・解雇
８．人的資源開発
９．従業員を守る
１０．ケースメソッド授業について
１１．ケース「株式会社ベネッセコーポレーション」
１２．ケース「株式会社富士製薬工業株式会社」
１３．ケース「Ｅ氏の再就職活動」解説
１４．まとめ
１５．レポート作成指導

●履修上の注意（参考文献・資料等）

（教 科 書）『人的資源マネジメント戦略』（有斐閣、2004年）

（参考文献）『入門　人的資源管理』奥林康司（中央経済社、2003）／『人的資源の組織と管理』渡辺峻（中央経済社、2003）

●成績評価の方法と基準等

評価法：講義での質問や討議への参画、課題レポートと期末レポートを総合評価する。

科目名	心理的アセスメントに関する理論と実践	英字表記	Theory and Practice about Psychological Assessment				
担当教員名	林　　知代	開講年次	1	期間	後　期	単位数	2	学習方法	講　義

●授業の概要（目的）

概要：心理アセスメントに関する理論と方法を概観し、心理アセスメント結果を相談、助言、指導に応用するための所見書の書き方、フィードバック方法を身につける。特に、本授業では時代の要請が高い発達支援に用いられる心理アセスメント法を中心に取り上げ、それらの測定内容、実施方法、結果の読み方を具体的に習得する。

目的：臨床上の問題を扱うときのクライアントの心理状態を観察や心理テストなどで正確に把握し理解するアセスメント能力を身に着けること、そしてクライアントにどう介入していくかの方針の仮説を立てることが出来るようになることを目的にする。

●授業計画

1．開講に当たって
　授業の目的、授業の予定、評価方法、参考文献・資料の紹介。授業の進め方に関するオリエンテーションを行う。
2．心理検査によらないアセスメント（行動観察、生育歴聴取など）のあり方と意味について学ぶ。
3．精神症状を測定する質問紙（例：SDS,STAI,GHQ）の内容と集計方法を理解する。
　基本的な精神症状と診断基準を学ぶ。
4．パーソナリティを測定する質問紙の実践。内容と集計方法を理解する。
5．投影法（例：HTP,SCT）の内容と集計方法、解釈を身につける。
6．発達検査の実践と検査が求められる社会的背景、発達特性のアセスメントの重要性、フィードバックのあり方を学ぶ。
7．社会生活技能や適応行動を測定する質問紙（例：Vineland, S-M社会生活能力検査）の内容と集計方法を身につける。
8．WISC-Ⅳの実施、集計、解釈方法を身につける。
9．WAIS-Ⅲの実施、集計、解釈方法を身につける。
10．学んできた心理検査法のテスト・バッテリーのあり方および心理検査結果報告書のまとめ方のポイントについて学ぶ。
11．心理検査質問紙の利用によるアセスメントを学ぶ。面接の基本（1）
12．アセスメントの際のカウンセラー側の姿勢についての検討と状況設定を考える。
13．心理検査の利用（2）
　テストバッテリーの組み方を知る。実際の事例の扱い方。
14．面接の基本（3）
　心理検査投映法の利用によるアセスメントを学ぶ。
　アセスメントと見通しアセスメントと見通しの立て方を総合的に考える。
15．講義のまとめ
　これまで学んだことを要点整理する。

●履修上の注意（参考文献・資料等）

「DSM5精神疾患診断のエッセンス」　アレン・フランセス著　金剛出版
授業中に資料を適宜配布。

●成績評価の方法と基準等

授業での発言、取組み態度。レポートおよび試験

科目名	生徒指導・進路指導特論Ⅰ	英字表記	Pupil and Career Guidance Ⅰ				
担当教員名	吉田　隆夫	開講年次	1	期間	前　期	単位数	2	学習方法	講　義

● **授業の概要（目的）**（Ⅰ）においては、生徒指導について講義をします。〔到達目標〕　生徒指導に関する基礎的な概念を理解し、具体的な指導の場面に即した適切な生徒指導の方法を説明することができる。［テーマ］　生徒指導の意義、原理と課題、目標、領域、組織、方法、および生徒指導上の諸問題についての具体的な事例について学ぶ。［授業の概要］　生徒指導の本質と原理、および領域に言及する。また、生徒指導の進め方および方法について概説する。生徒指導の方法については、集団指導と個別指導の双方からの視点から説明する。生徒指導上の諸問題については，生徒の問題行動や教育病理現象をとりあげ、新聞記事などを教材にして、生徒指導の原理と理論を踏まえた実際的な指導のあり方を論究する。生徒指導のための体制については、学校、地域、家庭との連携を重点的に論述する。キーワード①生きる力　②自己指導力　③生徒理解と自己理解　④集団指導と個別指導

●授業計画

1．　生徒指導の教育的意義（1）
2．　生徒指導の教育的意義（2）
3．　生徒指導の原理と課題（1）
4．　生徒指導の原理と課題（2）
5．　生徒指導の理論（1）
　　発達を支える理論　エリクソンの発達段階
6．　生徒指導の理論（2）
　　相談を支える理論　ウィリアムソン　ロジャース
7．　生徒理解の意義
8．　生徒理解の目的
9．　生徒理解の方法
10．　自己開示とジョハリの窓
11．　学級経営の進め方
12．　生徒指導からみた学級経営の意味
13．　教科指導と生徒指導
14．　生徒指導のアセスメント
15．　生徒指導の組織・計画・運営のアセスメント

●履修上の注意（参考文献・資料等）

高橋　超・石井眞治・熊谷信順　著
「生徒指導・進路指導」ミネルヴァ書房

●　成績評価の方法と基準

レポート（採点の観点は正確性 客観性 論理性 明瞭性 理解度 表現力 引用文献の明記とします。）

科目名	生徒指導・進路指導特論Ⅱ			英字表記	Pupil and Career Guidance Ⅱ				
担当教員名	吉田　隆夫	開講年次	1	期間	後　期	単位数	2	学習方法	講　義

●授業の概要（目的）

（Ⅱ）においては、進路指導について講義を行います。

現在の進路指導を取り巻く課題としては、フリーター、ニートなどの増加の問題を抱えています。これらの課題の解決に学校教育が果たす役割は大きいといえます。とくに学校教育における進路指導のあり方が問われています。生徒指導の一領域とみなされていましたが、新教育課程の趣旨を踏まえて、進路指導は重視されています。とくに、高等学校における勤労体験および啓発的経験などの体験活動に注目し、その教育的意義について教育学的視点からアプローチして考えます。

●授業計画

1．　進路指導の教育的意義と目標
2．　進路指導の課題
3．　進路指導の理論
4．　自己の発見と自我同一性
5．　自己の発達
6．　同一性の確立
7．　自己理解と進路指導
8．　現代青少年の就労観・職業観
9．　就労観・職業観の形成と変容
１０．　就労観・職業観の形成を促す進路指導のあり方
１１．　進路指導実践の学校体制
１２．　学校教育における進路指導の位置づけ
１３．　学校教育における進路指導の実践
１４．　学校の教育活動全体を通じての進路指導
１５．　進路指導の今日的課題

●履修上の注意（参考文献・資料等）

高橋　超・石井眞治・熊谷信順　著「生徒指導・進路指導」ミネルヴァ書房

●成績評価の方法と基準等

レポート　（レポートの採点の観点は正確性 客観性 論理性 明瞭性 理解度 表現力 引用文献の明記とします。）

科目名	西洋教育思想・思想史Ⅰ			英字表記	Western Educational Thoughts and History of Them（Ⅰ）				
担当教員名	廣岡　義之	開講年次	1	期間	前期	単位数	2	学習方法	講義・輪読

●授業の概要（目的）

概要：　西洋教育思想の歴史

目的：『教育の制度と歴史』を教科書として使用し、西洋教育思想を媒介にして現代教育学の根源的な問題を解明する糸口を見出すことを目的にする。

●授業計画

(1) 古代ギリシア･ローマの教育思想
(2) 中世の教育思想
(3) ルネサンス期の教育思想
(4) 宗教改革の教育思想
(5) 17 世紀の教育思想(コメニウス)
(6) 18 世紀の教育思想(ロック、ルソー)
(7) ペスタロッチ等の教育思想
(8) 革命期の教育制度と教育の歴史
(9) 19 世紀の教育制度と教育の歴史（フレーベル、ヘルバルト）
(10) 20 世紀の新教育運動（田園教育舎系の教育者、シュタイナー）
(11) アメリカの教育思想家たち
(12) 世界の教育制度の改革と動向
(13) 現代教育の課題と展望
(14) 現代の学校教育制度①
(15) 現代の学校教育制度②

●履修上の注意（参考文献・資料等）

①教科書として『教育の制度と歴史』広岡義之編著（ミネルヴァ書房）を毎回予習し、担当者は全員の前でその内容を発表する。

●成績評価の方法と基準等

①『教育の制度と歴史』の輪読を行うので予習して講義に臨む。②講義中に質疑応答を課する。以上の点を考慮して総合的に評価する。

科目名	西洋教育思想・思想史Ⅱ			英字表記	Western Educational Thoughts and History of Them（Ⅱ）				
担当教員名	廣岡　義之	開講年次	1	期間	後期	単位数	2	学習方法	講義・輪読

●授業の概要（目的）

概要：　ボルノーの教育思想を軸とした西洋教育思想の理解

目的：『ボルノーの教育学入門』を教科書として使用し、西洋の教育思想を媒介にして現代教育学の根源的な問題を解明する糸口を見出すことを目的にする。

●授業計画

(1) 本講義のオリエンテーション
(2) カントにおける教育目的論
(3) ボルノー・ハイデッガー・ジャン・パウルの教育思想
(4) ザルツマン、カント、ヤコービの教育思想
(5) シュタイナーとボルノーの「畏敬の念」について
(6) フレーベルの幼児教育思想
(7) ブーバーの教育思想
(8) ボルノーの徳論
(9) ニコライ・ハルトマンの「信念」
(10) ルソー、ペスタロッチ、フレーベルの教育思想
(11) ヘルバルトの教育思想
(12) ボルノーの実存的教育思想
(13) シュプランガーの教育思想
(14) ランゲフェルドの教育思想
(15) カント、ヤスパース、ヘルバルト、フィヒテの平和教育論

●履修上の注意（参考文献・資料等）

①教科書として『ボルノー教育学入門』（風間書房）を熟読しておくこと。

●成績評価の方法と基準等

①『ボルノー教育学入門』の輪読を行うので予習して講義に臨む。②講義中に質疑応答を課する。　以上の点を考慮して総合的に評価する。

科目名	特別支援教育研究【コミュニケーションと人間関係】			英字表記	Study for Special Support Education (Communication and Human relationship)				
担当教員	田中　道治	開講年次	1	期間	前期	単位数	2	学習方法	講義

●授業の概要（目的）

概要：発達における「人」の機能を授業テーマにして、以下のような具体的目標を設定し学習する。

(1) コミュニケーション行動と「人」「物（もの）」の役割を理解する。
(2) 五官の働きと対人コミュニケーションの関係を理解する。
(3) ノンバーバルコミュニケーション（主に身振りとしての指さしや表情など）の影響について考察する。
(4) 話し言葉と「三者（三項）関係」の相互作用について考察する。
(5) 文叙述（口頭作文）の発達と神経心理との関係を理解する。
(6) 書き言葉の発達と認識・思考の深まりを理解する。

目的：

子どもにとって、コミュニケーションは言語獲得の基盤のみならず、運動および手指操作【動作】などの発達にとっても欠くことのできない、いわゆる重要な発達的環境と考えられる。コミュニケーションは、言葉の伝達機能にとどまらない対人的交流機能をもち、生理的表出から感情および情緒を含む表情や行動の出現という人間関係そのものである。

障害をもつ子どもは、発達の遅れや発達のアンバランスさを示し、そのため家庭養育、療育、保育、そして教育を通して発達促進の工夫が求められている。彼らの全人的発達にとって、何よりも「三者（三項）関係」の成立とそれ以降の言語発達過程の分析・検討と言語コミュニケーション指導とは重要である。本授業ではこれらの点を踏まえて、障害児の言語発達における特別支援教育の役割を講義する。

●授業計画

1.乳幼児期における発達の質的転換（期）と養育・保育・教育（1）
2.児童期における発達の質的転換（期）と教育（2）
3.思春期青年期における発達の質的転換（期）と教育（3）
4.障害とコミュニケーションの発達
5.「三者（三項）関係」と「注意共有機構」
6.話しことば獲得期における対人関係
7.ふり遊びとコミュニケーション
8.遊び指導とコミュニケーションの発達
9. 障害児の発達と絵本の役割
10.口頭作文における叙述機能と神経心理
11. 文章理解におけるメタ認知
12. 談話の産出・理解とメタ認知
13. HRからみた重症心身障害児のコミュニケーションの発達と教育
14. 発達障害児の「自己」の発達とコミュニケーション
15. ことばが育つ条件（発達環境）

●履修上の注意（参考文献・資料等）

メタ認知　三宮真智子　北大路書房
子どもの遊びと発達　河崎道夫　ひとなる書房
発達障害のある子どもの自己を育てる　田中道治　ナカニシヤ出版
初期言語発達と認知発達の関係　小椋たみ子　風間書房

●成績評価の方法と基準等

テスト（４０％）　授業レポート（２０％）　及び学期末レポート（４０％）

科目名	特別支援教育研究【制度と歴史】			英字表記	Study for Special Support Education(System and History)				
担当教員	田中　道治	開講年次	1	期間	後期	単位数	2	学習方法	講義

●授業の概要（目的）

概要：特殊教育から特別支援教育へと新たな教育システムがスタートして10年経過し、成果とともに課題も指摘されています。
場にとらわれない特別支援教育の実際を整理し、分析しながら概念・目的・制度・行政・教育課程を理解し、併せてこれに至るまでの我が国の特殊教育の歴史を概観します。

目的：特別支援教育の実際を児童・生徒の発達特性及び障害特性に着目しながら把握し、本教育の制度的枠組みを理解する。

●授業計画

1. 特別支援教育概念の成立
2. 特別支援教育の実際（特別支援学校の種類と特徴）
3. 特別支援教育の実際（児童・生徒の実態と行動特性）
4. 特別支援教育の実際（教育課程と指導方法）
5. 義務教育制度の歴史
6. 近代日本の盲・聾教育の成立と展開
7. 養護学校義務化までの障害児教育
8. 障害児教育運動の特徴と意義
9. 戦後改革と障害児教育
10. 教員養成制度の過程と現状
11. 諸外国の特別支援教育の実際（教育制度と教育課程）
12. 諸外国の特別支援教育の実際（障害児及び英才児）
13. 学校、家庭そして専門機関の連携システム
14. 就学前教育と福祉
15. 一人ひとりの子どもの教育・発達ニーズを踏まえた教育制度の充実に向けて

●履修上の注意（参考文献・資料等）

「障害児教育の歴史」　2003　平田勝政著　明石書店

●成績評価の方法と基準等

小テスト：４０％、授業レポート：２０％、学期末レポート：４０％

科目名	都市環境演習			英字表記	Seminar on Urban Environment				
担当教員	大石　徹	開講年次	1	期間	後期	単位数	2	学習方法	講義と討論

●授業の概要（目的）

概要：この講義では、米国やフランスの都市について、その魅力と問題点の両方を学生が理解できるように、さまざまな事例を挙げながら解説する。討論や授業内発表や映像資料も積極的に活用したい。

目的：米国やフランスの都市について、その魅力と問題点の両方を都市社会学および都市人類学の視点から理解することによって、都市のありようが自分自身の生活にも関係していることを知る。そして、自分自身が関わっている職場や地域をよりよくしたいとき、外国の都市についての知識も参考しながら判断・行動できるようになることもめざす。

●授業計画

1. 創造都市とは
2. アトランタ
3. メンフィス
4. ニューヨーク（1）
5. ニューヨーク（2）
6. ニューヨーク（3）
7. ボストン
8. ホノルル（1）
9. ホノルル（2）
10. パリ（1）
11. パリ（2）
12. パリ（3）
13. モンペリエ
14. マルセイユ
15. まとめ（第1回から第14回までの講義の流れを概観後、主要なポイントのまとめ）

●履修上の注意（参考文献・資料等）

参考文献としては、中筋直哉＆五十嵐泰正（編）『よくわかる都市社会学』ミネルヴァ書房、C・ライト・ミルズ『社会学的想像力』（伊奈正人＆中村好孝訳）ちくま学芸文庫、など。

●成績評価の方法と基準等

授業内発表や課題レポート　80%
授業中の討論などへの取り組み　20%

科目名	都市環境研究			英字表記	Special Issues in Urban Environment				
担当教員	大石　徹	開講年次	1	期間	前期	単位数	2	学習方法	講義と討論

●授業の概要（目的）

概要：この講義では、米国の都市について、その魅力と問題点の両方を学生が理解できるように、さまざまな事例を挙げながら解説する。討論や授業内発表や映像資料も積極的に活用したい。

目的：米国の都市について、その魅力と問題点の両方を都市社会学および都市人類学の視点から理解することによって、都市のありようが自分自身の生活にも関係していることを知る。そして、自分自身が関わっている職場や地域をよりよくしたいとき、外国の都市についての知識も参考しながら判断・行動できるようになることもめざす。

●授業計画

1. 都市社会学および都市人類学の研究対象と方法
2. 社会学的想像力とは
3. サンフランシスコ（1）
4. サンフランシスコ（2）
5. ロスアンジェルス（1）
6. ロスアンジェルス（2）
7. ラスヴェガス
8. プレスコット
9. オマハ
10. シカゴ
11. デトロイト
12. アクロン
13. ヤングスタウン
14. ワシントンD.C.
15. まとめ（第1回から第14回までの講義の流れを概観後、主要なポイントのまとめ）

●履修上の注意（参考文献・資料等）

参考文献としては、中筋直哉＆五十嵐泰正（編）『よくわかる都市社会学』ミネルヴァ書房、C・ライト・ミルズ『社会学的想像力』（伊奈正人＆中村好孝訳）ちくま学芸文庫、など。

●成績評価の方法と基準等

授業内発表や課題レポート　80%
授業中の討論などへの取り組み　20%

科目名	日本教育思想史Ⅰ			英字表記	History of Educational Ideas in Japan　Ⅰ				
担当教員名	三羽　光彦	開講年次	1	期間	前期	単位数	2	学習方法	講義

●授業の概要（目的）

テーマ：「空海とその教育思想」

古代日本最大の天才思想家空海の事績をたどり、知を総合化する思想、身（身体）・口（言語）・意（精神）を統合する思想、宇宙と自己を一体化させる思想、生きとし生きるものを尊重し包摂する思想を学び、近現代の人間と教育が忘れ去ろうとしている重要な価値を再認識していきたい。

●授業計画

1．空海の生涯と思想――総論講義
2．古代の大学の制度と教科
3．古代日中交流史と空海
4．「三教指帰」を教育論として読む①――梗概と序（大学から出家へ）
5．「三教指帰」を教育論として読む②――亀毛先生と儒教思想
6．「三教指帰」を教育論として読む③――虚亡隠士と老荘思想
7．「三教指帰」を教育論として読む④――仮名乞児と仏教思想
8．空海と最澄―往復書簡と思想の相違・「理趣釈経」借用問題
9．密教の即身成仏思想と天台本覚論－「即身成仏義」「弁顕密二教論」
10．主著「秘密曼陀羅十住心論」の思想――人間の精神発達の階梯
11．「秘蔵宝鑰」（「十住心論」の要約）を読む――異生薙羝羊心から秘密荘厳心まで
12．空海の綜芸種智院――その謎
13．真言密教とは何か――身・口・意の修練と統合
14．「生」の宗教としての密教の特異性―日本思想史における真言密教・大師信仰・お遍路さん・「真言立川流」
15．「教育論から見た空海の思想の意義」（レポートテーマ）を発表しあって討論する。

●　履修上の注意（参考文献・資料等）

テキストは、①福永光司『中公クラッシックス J16　空海・三教指帰ほか』2003年、中央公論新社。②加藤精一ほか『空海「三教指帰」』（ビギナーズ日本の思想・角川ソフィア文庫）2007年、角川書店。③司馬遼太郎『空海の風景』改訂版上・下、中公文庫、1978年。④三浦俊良『東寺の謎』（祥伝社黄金文庫）2001年、詳伝社。文章を丁寧に読んでいくことは、学問を修めようとする者の基礎的修行である。その点を良く認識して受講すること。小学館『日本国語大辞典』、諸橋『大漢和辞典』、吉川弘文館『国史大事典』などで調べて必ず予習しておくこと。各自、少し大きな漢和辞典を用意しておくこと。欠席した場合は本を一冊以上読んで必ずレポートを提出すること。なお、期間中に一日東寺（京都市）見学を実施する。

●　成績評価の方法と基準等

毎回簡単な小テストを行い。期末にはレポートを課す。出席点と合わせて評価する。

科目名	日本教育思想史Ⅱ			英字表記	History of Educational Ideas in Japan　Ⅱ				
担当教員名	三羽　光彦	開講年次	1	期間	後期	単位数	2	学習方法	講義及び演習

●授業の概要（目的）

テーマ：「和辻哲郎に見る日本の教育」

近代日本において独自の思想を形成した哲学者として、西田幾多郎と並び称されるのが和辻哲郎である。和辻は、日本的風土の中から、独特の倫理思想を生み出した。すなわち、「間柄」（人間関係）を個々人の倫理を規定する土台と位置づけ、「人間の学としての倫理学」をうち立てた。その思想は後に天皇制を擁護する思想として発展させられ、さまざまな批判も受けた。しかし、和辻哲郎の多くの著作は、いまでも汲めども尽きない思想の泉である。初期の作品（『ニーチェ研究』『古寺巡礼』『偶像再興』）から『人間の学としての倫理学』『風土』『倫理学』（上・下）などの主著、『埋もれた日本』などの文学作品を読みながら、豊穣な和辻の思想の再検討を行っていきたい。まず、自伝文学の白眉ともいわれる『自叙伝の試み』を手がかりに、1889（明治22年）兵庫県姫路市の医家に生を受けた和辻哲郎の思想形成にそくして考察していきたい。

●授業計画

1．和辻哲郎の生涯と思想――総論講義
2．『自叙伝の試み』を読む①―明治20年代の播州農村
3．『自叙伝の試み』を読む②―明治30年代の小学校と中学校
4．『自叙伝の試み』を読む③――明治後期の高等学校と大学
5．和辻哲郎と夏目漱石――和辻宛の漱石書簡を読む
6．『ニーチェ研究』『偶像再興』を読む――ニーチェの思想と和辻哲郎の青春時代
7．『古寺巡礼』を読む――古代と近代、東洋と西洋
8．『日本精神史研究』を読む――「沙門道元」
9．『人間の学としての倫理学』を読む①――西田幾多郎の影響・和辻における「空」の理解
10．『人間の学としての倫理学』を読む②―「人間（じんかん）」と「間柄」
11．『風土』を読む――ドイツ留学とハイデッツガーの影響
12．『倫理学』を読む①――古代中世日本の倫理思想
13．『倫理学』を読む②――近世日本の倫理思想
14．近代日本思想史における和辻哲郎――近代日本の文人知識人
15．「教育史上の和辻哲郎」（レポートテーマ）を発表しあって討論する。

●履修上の注意（参考文献・資料等） テキストは、①和辻哲郎『自叙伝の試み』中公文庫。②和辻『人間の学としての倫理学』 岩波文庫。③和辻『古寺巡礼』岩波文庫。④和辻『人間の学として倫理学』岩波文庫。⑤和辻『風土―人間学的考察 』岩波文庫。⑥和辻『日本精神史研究』岩波文庫。文章を、背景を考えながら丁寧に読んでいくことは、学問を修めようとする者の基礎的修行である。その点を良く認識して受講すること。小学館『日本国語大辞典』、諸橋『大漢和辞典』、吉川弘文館『国史大事典』などで調べて必ず予習しておくこと。各自、少し大きな漢和辞典を用意しておくこと。欠席した場合は本を一冊以上読んで必ずレポートを提出すること。なお、期間中に一日姫路文学館（姫路市）の見学を実施する。

●成績評価の方法と基準等

毎回簡単な小テストを行い。期末にはレポートを課す。出席点と合わせて評価する。

科目名	発達心理学			英字表記	Developmental　Psychology				
担当教員名	三浦　正樹	開講年次	1	期間	後　期	単位数	2	学習方法	講義・討論

●授業の概要（目的）

発達とは人の一生における心身の変化であるが、一口に変化と言ってもさまざまな側面の変化がある。身体面、運動能力、知的能力、感情、情緒、意欲、動機づけ、パーソナリティ、言語、社会性、自己意識など変化の側面は多岐にわたっている。しかし留意しなければならないのは、実際の発達の中ではそれらの変化が独立してあるわけではないということである。それらの変化は生涯発達の中で複合的に絡み合っている。本講義では発達を複合的なものととらえ、その心理学的理解を試みる。いわゆる定型発達を中心としつつも非定型発達についてもふれる。院生諸君に論文をまとめて発表してもらい、討論形式で授業を進める予定である。

●授業計画

1．発達とは（発達の理論、発達に影響するもの、子どもをとりまく環境の変化）
2．胎児期・乳児期の発達（卵体期と胎芽期、胎児期、出産と母体、乳児期）
3．知的機能の発達（認識の始まり、表象的思考、具体的操作期、形式的操作期）
4．感情と動機づけの発達（基本的感情の発達と分化、感情と親子のコミュニケーション）
5．言語の発達（言語の獲得、発話の発達、言語発達の諸相、書きことばの習得）
6．パーソナリティの発達（パーソナリティとは、パーソナリティの形成）
7．人間関係の発達（人間関係の重要性、家庭内での人間関係、子どもの仲間関係）
8．社会性の発達（道徳性の初期発達、他律的道徳から自律的道徳へ）
9．自己意識の発達（児童期の自己意識の発達、アイデンティティの形成）
10．脳と発達（中枢神経系の発生、学習の発達と初期経験、神経系の発達）
11．発達心理学の研究法（縦断的方法と横断的方法、コホート分析、研究の技法）
12．院生による発表①
13．院生による発表②
14．院生による発表③
15．まとめ（発達の過程をふり返り、改めて発達について考察する）

●履修上の注意（参考文献・資料等）

発達の諸理論、平井久・高橋たまき編、芸林書房・発達心理学（上・下）、山内光哉編、ナカニシヤ出版
アイデンティティ生涯発達論の展開、岡本裕子、ミネルヴァ書房
生涯発達心理学のすすめ、子安増生、有斐閣選書

●成績評価の方法と基準等

授業中の討論、質疑応答（５０％）　課題発表（５０％）

科目名	マーケティング研究			英字表記	Special Study for Marketing				
担当教員名	政岡　勝治	開講年次	1（隔年）	期間	前期	単位数	2	学習方法	講義、討論

●授業の概要（目的）

概要：日本だけに見られる企業群である総合商社について理解を深めます。総合商社は法律や社会倫理に抵触しなければありとあらゆることをやっている企業です。総合商社の活動を通じ、取引、起業、事業経営、新規取引開拓など多くのことを学べます。

目的：講義を通じ、本を読み解き、内容を要約し発表するプレゼンテーション力も身に付くようにします。

●授業計画

1.教員の自己紹介・使用テキストの説明「マーケティング」を講義
2.総合商社とは　　・課題レポート　「経営学」を講義
3.テキスト第一章「研究の目的と方法」・テキストの要約の発表分担
4.テキスト第二章「先行研究レビューと本書の位置づけ」
5.これまでの講義での質問　特別講義「研究方法」・課題レポート
6.三菱商事のホームページを検索し、同社概要を把握
7.テキスト第三章　第一節「外国間取引」のケース・スタディ
8.テキスト第三章　第一節「外国間取引」について討議
9.テキスト第三章　第二節「輸出取引」のケース・スタディ
10.テキスト第三章　第二節「輸出取引」について討議
11.テキスト第三章　第四節「国内取引ーポリスチレン樹脂取引」のケース・スタディ
12.テキスト第三章　第四節「国内取引ーポリスチレン樹脂取引」について討議
13.テキスト第三章　第七節「事業投資活動」のケース・スタディ
14.テキスト第三章　第七節「事業投資活動」について討議
15.講義のまとめ

●履修上の注意（参考文献・資料等）

テキスト政岡勝治著『総合商社の非総合性研究』晃洋書房 2006 年
参考文献および関連資料は適宜紹介、配布する

●成績評価の方法と基準等

分担発表　30%　課題レポート　30%　期末試験 40%

科目名	マルチメディア研究			英字表記	Multimedia Technology				
担当教員名	中村　宏敏	開講年次	1	期間	後期	単位数	2	学習方法	講　義

●授業の概要（目的）

概要：
目的：情報化時代においてマルチメディアは必要不可欠であり、そのものになる数値、文字、音、静止画像、動画画像のデジタル表現、加工方法や通信を解説し、デジタル技術の理解を深めると共にその応用力向上をめざす。
授業は講義だけでなく各種ソフトウェアを活用してデモンストレーションや実習も併用する。

●授業計画

１．マルチメディア概観
２．数値のデジタル表現(2 進数 16 進数)
３．数値演算
４．文字のデジタル表現(アスキーコード)
５．漢字コード
６．静止画像のデジタル表現
７．画像処理(加工)
８．画像圧縮とは
９．音のデジタル表現
１０．　音の加工
１１．　動画アニメーション
１２．　動画アニメーション編集
１３．　デジタル通信技術
１４．マルチメディア技術の展望
１５．学習のまとめ

（授業理解度により講義内容を変更する場合もある）

●履修上の注意（参考文献・資料等）

講義資料はプリントにて配布
参考文献　伏見正則監修：最新マルチメディア技術とその応用　実教出版　など

●成績評価の方法と基準等

講義理解度を、1 単元毎に確認をし、理解度を測る、また、学期末には試験をおこなう。

科目名	臨床心理学特論			英字表記	Theory and Practice about Psychological Support				
担当教員名	林　知代	開講年次	1	期間	前　期	単位数	2	学習方法	講　義

●授業の概要（目的）

本講義では、幾つかの学派で異なる心理療法の理論と方法について、まず力動論と行動論、そしてその他日本独自で発展したものなどを理解した後、様々な事例について議論を行っていく。

目的：本講義では、精神分析的心理療法をベースにしつつ、どのような心理療法にも通底すると思われる臨床心理面接の基本を学ぶことを目標とする。

●授業計画

１．開講に当たって
　授業の目標、内容、スケジュール、運営方法、注意事項
２．フロイト精神分析の心理療法の理論的枠組みと技法
３．自己心理学的視点からの心理療法の理論的枠組みと技法
４．対人関係学派の心理療法の視点と理論的枠組み
５．ユング心理学の理論と箱庭療法
６．ウィニコットの遊びの概念と移行対象
７．ボウルビーの愛着理論の臨床的視点
８．スターンの自己発達論の臨床的視点
９．認知・行動論に基づく心理療法
１０．認知行動療法の基本的手順と技法
１１．マインドフルネスの概念と心理療法
１２．人間中心アプローチの理論と方法
１３．フォーカシング、家族療法
１４．遊戯療法・芸術療法・音楽療法の理論と方法
１５．日本において想像された心理療法の理論と技法

●履修上の注意（参考文献・資料等）

講義で適宜、資料配布。
参考文献は授業で適宜紹介。

●成績評価の方法と基準等

授業での発表姿勢およびその内容。レポート。

３．英語英文学教育専攻

科目名	英語教育と英語の成り立ち			英字表記	English Language Education and English Development				
担当教員	中田　康行	開講年次	1	期間	前期	単位数	2	学習方法	講義(演習)

●授業の概要（目的）

概要：　将来、英語の教員になる人は、現代英語が形成されるまでに、どのような文化史的背景があったのかについて相当程度の知識を有している必要がある。そのような知識を十分に身につけることで将来の英語教育に携わる人間としての資質を高めることができるし、現代英語をより深く知ることにもなり、英語教育の質の向上を図ることにもなる。

目的：概要にも提示したとおり、英語に関連する文化史的背景の正確な把握、ならびに関心の深化を通して英語教育者としての資質を格段に高めることを可能にする理論の構築ができるようになること。

●授業計画

1) 授業概要。英語のルーツ（PIE）
2) ＰＩＥとゲルマン語派
西ゲルマン語群
3) 英語の時代区分
アングロ=サクソン語(古英語、Viking の影響)
4) 早期中英語とフランス語の流入
5) （Norman French）
後期中英語と Geoffrey Chaucer
（Ile de france のフランス語）
6) The Great Vowel Shift と綴字の固定化、
発音(母音)の変化
7) W. Shakespeare 時代の英語
8) (近代英語の始まり)
9) 大英帝国と英語の世界への拡散・浸透
10) 近代から現代へ――メディアの発達と印刷技術の飛躍的進歩
11) 現代英語の世界への広がり
12) 英語の多様性(World Englishes)
13) グローバル化する世界情勢の中での英語
14) 日本における EFL としての英語教育
15) EFL と ESP および EAP

●履修上の注意（参考文献・資料等）

英語を取り巻く世界情勢に関連するメディアや書物などの情報に注意し、観察力や分析能力を高めて欲しい。

参考文献：中田　康行著『応用英語学の研究』晃洋書房
中田　康行著『英語上達法』大学教育出版
中田　康行訳『アングロ=サクソン人』晃洋書房、その他

●成績評価の方法と基準等

授業への積極的な参加・貢献(発表など)(30%)
学期中の二回のレポート(各 35%)
以上を総合的に評価

科目名	英語圏文化と異文化理解			英字表記	Culture　of English-Speaking Nations And Understanding Different Vultures				
担当教員	中田　康行	開講年次	1	期間	後期	単位数	2	学習方法	講義(演習)

●授業の概要（目的）

概要：グローバル化する世界事情の中で、とりわけ経済、政治など、あらゆる文化の側面で、英語が使われている。英語圏の国々の多様な文化の側面を考察し、様々な地域性の強い異文化を深く理解する。

目的：　英語圏について認識を深化させ、異文化を多様な角度から理解できること。

●授業計画

1) イギリスによる世界の植民地化開始
2) イギリスの文化史的背景と現代英語
3) アメリカの文化史的背景と現代米語
4) 英語と米語
5) 世界の多様な英語(インドの英語、一つの具体例)
6) 英語に入った日本語の語彙
7) 国際教養としての Japanology と英語
8) イングランドとケルト系文化
9) Rehispanicization と California およびアメリカ南部
10) Tourism と英語
11) 英語圏を含むヨーロッパの大学の起源
12) ヨーロッパの大学の発展と日本の大学
13) キリスト教の発展とヨーロッパの大学
14) 古代、中世からの遺産と技術の進歩
15) 過去から現代人は何を学ぶか

●履修上の注意（参考文献・資料等）

テキスト
参考文献　Ｄ．　ウィルソン（中田　康行訳）『アングロ＝サクソン人』(晃洋書房)
中田　康行『応用英語学の研究』晃洋書房

●成績評価の方法と基準等

授業への積極的な参加・貢献(発表など)(30%)
学期中の弐回のレポート(各 35%)
以上を総合的に評価

科目名	言語学と英語教育			英字表記	Linguistics and English Language Education				
担当教員	中田　康行	開講年次	1	期間	後期	単位数	2	学習方法	講義(演習)

●授業の概要（目的）

概要：本講義では主に英語(場合によってはフランス語や日本語)を中心に授業を行う。言語について十分なかつ正確な知識無くして、その言語を他人に教えることなどとうてい出来るものではない。様々な文法規則がどのように英語の構造に適用されて実際の発話や文が作られるのかといった問題を様々な例を検討しながら考察する。このような理解を深めることにより、英語学習者に何をいかに教えるのが良いかを研究するという問題にも関連することになる。

目的：現実の発話や文がどのような規則を経て現れるのかについて正確に理解し、言語学的観点から分析・理論化できるようになること。

●授業計画

1) 言語とは何か
2) 音韻・文法規則体系としての言語
3) 母国語の干渉とその回避
4) 同形異品詞の語彙
(英語および日本語)
5) 同文型と異解釈
6) 文法規則の検討
再帰代名詞の構造記述と適用
7) 英語の再帰代名詞と
日本語の「自分」
8) 名詞化とは何か
(必然的必要性)
9) 多様な名詞化(1)
“that”節と不定詞
10) 多様な名詞化(2)
gerund と名詞句
11) 話法(日本語と英語の比較・対照)
12) 人称代名詞（日本語と英語の比較・対照）
Context-sensitive vs context-dependent
13) 言語規則適用の柔軟性
14) 言語学者と英語教師
15) 言語学的知識に根差した英語教育論

●履修上の注意（参考文献・資料等）

テキスト：中田　康行　『英語上達法』大学教育出版
参考文献：中田　康行　『英語実践力獲得への道』大学教育出版
その他。ハンドアウト

●成績評価の方法と基準等

授業への積極的な参加と貢献（発表など）(30%)
学期中二回のレポート(各35%)
以上を総合的に判断し、評価を行う。

科目名	国際文化論			英字表記	International culture theory				
担当教員	中田　康行	開講年次	1	期間	前期	単位数	2	学習方法	講義

●授業の概要（目的）

概要：特に欧米文化を中心に、個別文化の諸特徴を理解しながら国際間の文化的関わりや、そこから派生する文化的、経済的、民族的諸問題を歴史的背景を踏まえて把握する。

目的：欧米の国々に焦点を当て、歴史、文化、地名などにふれながら、その文化的特徴を考察し、国際文化研究を観点にして政治、経済、宗教高等教育などの重要な論点を取り上げ考察する。

●授業計画

第1回　授業目標や概要の説明
第2回　現代ヨーロッパの確立と文化史的・歴史的背景
第3回　ローマ帝国の後世への文化的影響
第4回　キリスト教の伝播と拡散(地理・民族)
第5回　キリスト教の歴史的発展と国際文化的役割
第6回　世界宗教サミットとグローバル化
第7回　ゲルマン系 vs ラテン系(融合と対立)
第8回　中世暗黒時代の意味
第9回　中世暗黒時代と大教会建築(大聖堂)
第10回　大聖堂建造と建築様式の変遷(ノルマン、ロマネスク、ゴシック)
第11回　大学の起源と発展
第12回　中世ヨーロッパの大学教育(と現代)
第13回　アメリカ(建国、民族、地名)
第14回　アメリカ(現状と国際的状況)
第15回　アメリカ合衆国における“Rehispanicization”

●履修上の注意（参考文献・資料等）

様々な情報に注意し関心ある国々について、自ら探求して欲しい。

●成績評価の方法と基準等

○授業への積極的な貢献　○レポート　○授業中の発表
以上を基礎に総合評価を行う。

科目名	世界語としての英語			英字表記	English as a World Language				
担当教員	中田　康行	開講年次	1	期間	後期	単位数	2	学習方法	講義(演習)

●授業の概要（目的）

概要：グローバル化する世界事情の中で、とりわけ経済、政治など、あらゆる文化の側面で、英語が使われている。17 世紀以後、英語が世界に広がった結果、地域性の強い多様な英語が定着することになり、World Englishes が発達することになった。このような現状を正確に理解し「世界語としての英語」の特性や意味を考察する。

目的：「世界語としての英語」について深く理解し、言語学的観点から自分の見解を構築できること。

●授業計画

1) イギリスによる世界の植民地化開始
2) イギリスの文化史的背景と現代英語
3) アメリカの文化史的背景と現代米語
4) 英語と米語
5) 世界の多様な英語(インドの英語、一つの具体例)
6) 英語に入った日本語の語彙
7) 国際語として英語が使われる主な分野
8) British English と Celtic languages
9) Rehispanicization と California および アメリカ南部
10) Tourism と英語
11) business 界における 英語の使用
12) EFL の国での日常生活における英語使用
13) 誤用の問題と、その回避および コミュニケーション
14) 対照言語学的発想の効用
15) EFL 学習者による英語が 通用する要件

●履修上の注意（参考文献・資料等）

テキスト　中田　康行『英語上達法』大学教育出版
参考文献　中田　康行『応用英語学の研究』晃洋書房
その他、授業時に指示

●成績評価の方法と基準等

授業への積極的な参加・貢献(発表など)(30%)
学期中の二回のレポート(各 35%)
以上を総合的に評価

科目名	日本における英語教育の実際			英字表記	Actual State of English Language Education in Japan				
担当教員	中田　康行	開講年次	1	期間	前期	単位数	2	学習方法	講義(演習)

●授業の概要（目的）

概要：グローバル化する世界情勢にあって、英語を使いこなせる人材が以前にもまして多種多様な業種・分野で求められている。このような世界情勢の中で日本における英語教育がどの程度に成果を上げているかを、現在の状況を踏まえながら分析し、問題点を考察する。

目的：現在の日本の英語教育事情を妥当に評価し、自ら問題提起を行う事が出来て、解決策に関する考えを理論化できること。

●授業計画

1) ESL と EFL
2) 母国語習得と ESL/EFL
3) 多様な EFL
4) EFL と様々な教授法 (優れた点と問題点)
5) 言語環境と母国語干渉
6) 日本の英語教育における EFL の 問題点
7) 英語学習者の目的・目標
8) 英語学習者の動機付け
9) 英語学習者の意識・心理
10) 英語教師の資質向上策
11) 英語教師に求められる言語（学的）知識 および教養
12) 授業管理・クラスサイズ etc.
13) 教材とは何か
14) Authentic vs genuine
15) 日本の英語教育（EFL） 理念

●履修上の注意（参考文献・資料等）

参考文献：中田　康行『学校文法から始める英語学』晃洋書房
中田　康行『英語実践力獲得への道』　大学教育出版

●成績評価の方法と基準等

授業への積極的な参加・貢献(発表など)(30%)
学期中の二回のレポート(各 35%)
以上を総合的に判断し、評価する。

特別研究概要

科目名	特別研究〔環境生物学〕			英字表記	Special Study〔Environmental Biology〕				
担当教員名	渡　康彦	開講年次	1.2	期間	通年	単位数	4	学習方法	演習

●授業の概要（目的）

生物は、いろんな環境要因にたいする適応様式を獲得しながら進化してきた。体内時計もそのひとつで、生物が生存するために重要な役割を担っている。しかしながら、自然環境を視野においた体内時計の研究は意外にも少ない。本研究において、光周期、温度周期あるいはそれらの組合せ条件に昆虫をおくことによって、体内時計によってコントロールされている歩行活動や羽化などが、どのような変化をするのかを調べることによって、体内徒計の基本的な性質を理解し、実際に自然条件では体内時計がどのように環境に適応するために役立っているのかを考察する。

●授業計画

1年次
1 関連する論文を講読、その1
2 関連する論文を講読、その2
3 関連する論文を講読、その3
4 関連する論文を講読、その4
5 関連する論文を講読、その5
6 パソコンの利用方法、その1
7 パソコンの利用方法、その2
8 パソコンの利用方法、その3
9 パソコンの利用方法、その4
10 パソコンの利用方法、その5
11 個々のテーマに向けた実験、その1
12 個々のテーマに向けた実験、その2
13 個々のテーマに向けた実験、その3
14 個々のテーマに向けた実験、その4
15 個々のテーマに向けた実験、その5

2年次
1 個々のテーマに向けた実験、その1
2 個々のテーマに向けた実験、その2
3 個々のテーマに向けた実験、その3
4 個々のテーマに向けた実験、その4
5 個々のテーマに向けた実験、その5
6 個々のテーマに向けた実験、その6
7 個々のテーマに向けた実験、その7
8 個々のテーマに向けた実験、その8
9 個々のテーマに向けた実験、その9
10 個々のテーマに向けた実験、その10
11 個々のテーマに向けた実験、その11
12 個々のテーマに向けた実験、その12
13 個々のテーマに向けた実験、その13
14 個々のテーマに向けた実験、その14
15 個々のテーマに向けた実験、その15

●履修上の注意（参考文献・資料等）適宜紹介する。

●成績評価の方法と基準等：修士論文中間発表会 20 点，修士論文発表会 20 点，修士論文 60 点として評価し，60 点以上を合格とする。

科目名	特別研究〔教育学演習〕			英字表記	Special Study〔Pedagogy Exercises〕				
担当教員名	三羽　光彦	開講年次	1・2	期間	通年	単位数	4	学習方法	演　習

●授業の概要（目的）

修士論文作成を目指して、各自の研究テーマに関連した基礎学習・基礎調査を指導する。
１年次は、広く専門に関する文献調査を行い、研究テーマを絞る。
２年次は研究テーマを深く追求し、具体的な論文作成を指導する。

●授業計画

1年次
研究テーマを決定し、その周辺を含む資料調査、先行研究の考察等を行なう。そのうえで、研究テーマを絞る。
1．研究テーマの吟味①
2．研究テーマの吟味②
3．研究テーマの仮決定①
4．研究テーマの仮決定②
5．先行研究の検討①
6．先行研究の検討②
7．論文構成の大枠について検討①
8．論文構成の大枠について検討②
9．先行研究のまとめ①
10．先行研究のまとめ②
11．調査の実施①
12．調査の実施②
13．問題点の洗い出し①
14．問題点の洗い出し②
15．研究の修正

2年次
修士論文の研究テーマを具体的に決定し、仮説、論証、発展課題などを検討し、論文作成指導を具体的に行なう。
1．研究課題の叙述①
2．研究課題の叙述②
3．研究方法の叙述①
4．研究方法の叙述②
5．先行研究の検討の叙述①
6．先行研究の検討の叙述②
7．論文の調査内容の叙述①
9．論文の結論の叙述①
10．論文の結論の叙述②
11．論文の今後の課題①
12．論文の今後の課題②
13．論文の完成と発表
14．プレゼンテーションの方法
15．論文の総括と今後の方向性

●履修上の注意（参考文献・資料等）

資料調査のためのフィールドワーク、インタビューなどに積極的に参加すること。

●成績評価の方法と基準等

修士論文の①研究テーマの独自性（25％）、②調査の妥当性・信頼性（30％）、③結論の独創性（25％）、および④プレゼンテーション力（20％）で評価する。

科目名	特別研究〔教育心理学演習〕			英字表記	Special Study〔Educational Psychology Seminar〕				
担当教員名	三浦　正樹	開講年次	1・2	期間	通　年	単位数	4	学習方法	演　習

●授業の概要（目的）

最近の社会環境および教育環境の変化に伴い教育心理学という学問の進展も著しい。従来の実験を重視した量的研究も情報処理技術の進歩に伴い発展しているが、質的研究・臨床研究などより実践的な研究が増え、また内容の面においても学校心理学・特別支援教育などの分野が盛んになってきている。本演習ではこうした学問としての教育心理学の修士論文を書くための指導を行う。論文は『心理学研究』『教育心理学研究』『発達心理学研究』などの専門誌に掲載されるようなレベルを目指す。

●授業計画

1年次

専門雑誌、学会発表を中心に文献にあたり、各自の研究テーマを絞る。実験あるいは調査の仮説・計画を立て、簡単な予備実験（調査）をなるべく早い時期に行う。

2年次

引き続き関連文献を調べまとめる。夏休み前に第1実験あるいは調査を行い分析する。第1実験を受けて第2実験（本実験）の計画をたて、実験を行い分析し論文としてまとめる。

●履修上の注意（参考文献・資料等）

各自のテーマに応じて適宜指示する

●成績評価の方法と基準等

授業中の発表、発表資料、討論内容による。

科目名	特別研究〔教育方法学〕			英字表記	Special Study〔Educational Methods〕				
担当教員	藤本　光司	開講年次	1・2	期間	通年	単位数	4	学習方法	演習

●授業の概要（目的）

現代は知識基盤社会の時代と呼ばれ、変化の激しい社会に対応できる人材やその能力育成が求められている。そんな背景から大学や学校教育では、これまでの講義形式の受動的な学びから、能動的な学び（Active Learning）への質的変換に期待が寄せられている。本特別研究では、教育方法論の側面から、教育をマネジメントする能力、ICT を活用した教材作成や授業技術を専門的に研究する。一方、専修免許取得（技術科教育など）を希望する学生については、現代的な課題を熟考し教育方法学研究の視座を深める。具体的には、筆者担当の学部授業への参画、学校現場との連携活動などを通して、課題解決の方法を探り、専修免許保持者としての教育力・教師力を育成したい。他方、これらの実践的な取り組みを学会等で報告し、学外からの客観的評価に基づいて学術論文を完成する。

●授業計画

1年次

＜前期＞

・学部科目「教育方法学（中等教育の教職履修者および臨床教育学部の必修科目）」に TA（Teaching Assist）として参画し、授業のサポートや学生が記述したレポートを一緒に評価しながら、指導と評価のあり方、指導技術について考える。また、大教室の授業における効果的なアクティブラーニングの方法論を熟考する。

＜後期＞

・技術科教育など中等教育の専修免許取得にあたり、教員としての指導力や資質を高める。具体的には、小中高等学校の教育現場に赴き、事前調査や自ら作成した教材を提供して実践力を培う。

・日本教育情報学会、情報コミュニケーション学会などの研究大会や全国大会に参加し、中間報告として論文誌への執筆、プレゼンテーション資料を作成し学生セッションで発表する。

2年次

＜前期＞

・修士論文のテーマを決定し、章・節を具現化する。

・研究テーマに関する先行研究を調査し、参考文献などを整理する。

・昨年度の作成した教材を PDCA サイクルマネジメントに基づき改良して、さらに教育現場で実践するとともに事前・事後調査の結果を整理する。

＜後期＞

・昨年度に引き続き、学会で2回目の紙上発表を行う。

・査読論文を作成し学会に提出する。

・修士論文を完成し、学内のプレゼンテーション大会で報告する。

●履修上の注意（参考文献・資料等）

学校現場や学会、研究会などに参画し、教育者としての実践力を高めます。また、学会の学生セッションへの発表も必修とします。

藤本光司、林徳治、編著、『主体的に学び意欲を育てる　教学改善のすすめ』、ぎょうせい、2016

藤本光司、沖裕貴、他共著、『相互理解を深める　コミュニケーション実践学（改訂版）』、ぎょうせい、2010

藤本光司、安東茂樹、他共著、『中学校技術・家庭科　技術分野』、開隆堂、2015

●成績評価の方法と基準等

修士論文作成という観点から、フィールドワークや論文のサーベイ、学会発表などを形成的かつ総合的に評価する。

科目名	特別研究〔技術科教材開発〕			英字表記	Special Study〔Teaching Materials Development in Industrial Arts〕				
担当教員	盛谷　亨	開講年次	1・2	期間	通　年	単位数	4	学習方法	演習

●授業の概要（目的）

中学校技術・家庭科技術分野各領域における既存教材の特徴や有用性を評価・研究し、教材製作・活用上の問題点や学習指導上の留意点を踏まえた独自の教材を考案する。併せて、各自の研究テーマに沿って開発した教材について修士論文を完成させる。

●授業計画

1年次

・各領域の既存教材を調査する 。
・先行研究や文献を調査し、その内容について考察する。
・研究テーマとする領域を絞り込む。
・テーマとする領域の市販教材を製作し、その特徴を考察する。
・教科書に沿った視点で具体的な教材化の検討を行う。
・教材開発のための資料や材料を収集する。
・教材の設計・製作を行う。

2年次

・開発教材を利用した学習内容について考察する。
・本教材の授業計画を立案する。
・可能であれば教育現場での実践・評価を行う。
・以上の内容を修士論文としてまとめる。

●履修上の注意（参考文献・資料等）

・学校現場や研究会、学会の学生セッションなどに積極的に参加すること。
・参考文献や資料は、研究テーマに応じて適宜紹介する。

●成績評価の方法と基準等

・修士論文作成という観点から評価する。

科目名	特別研究〔事業開発〕			英字表記	Special Study〔Seminars in Human Resource Management〕				
担当教員名	今岡　重男	開講年次	1・2	期間	通年	単位数	4	学習方法	演習

●授業の概要（目的）

この科目の目的は、起業や事業開発に関する各自の研究テーマについて、基礎学習や基礎調査の方法をはじめとして、下記授業計画に沿って修士論文の作成を具体的に指導することである。

●授業計画

1年次

1．起業や事業開発に関する基礎学習を行う。
2．各自関心のある研究テーマを出し合い議論する。
3．研究テーマを絞り込む。
4．先行研究や関連する文献を読み込み、考察する。
5．研究の方法を考えて、研究方法を組み立てる。
6．各自で研究のための資料を調査し収集する。

2年次

1．研究テーマを確定する。
2．研究の方法とストーリーを具体的・論理的に組立てる。
3．修士論文を執筆し、提出する。

●履修上の注意（参考文献・資料等）

各自のテーマに応じて、都度紹介する。

●成績評価の方法と基準等

1年次：授業での発言（５０％）と研究内容のプレゼンテーション（５０％）で評価する。
2年次：前期は、授業での発言（５０％）と研究内容のプレゼンテーション（５０％）で、後期は、授業での発言（１５％）と研究内容のプレゼンテーション（１５％）、修士論文の内容（７０％）で評価する。

科目名	特別研究〔心理臨床演習〕			英字表記	Special Study〔Psychological Clinic Exercise〕			
担当教員	林　知代	開講年次	1・2	期間	通　年	単位数	4	学習方法	演　習

●授業の概要（目的）
本演習では心理臨床に関する自分の研究テーマを明確にし、修士論文を仕上げていくことを目的としています。研究領域は、人の心理発達、心理に関するさまざまな療法、今さまざまなところで起きている臨床上の問題、カウンセリング理論や実践などに関連する事柄です。心理臨床の立場から独自性とより深い視点から論文を仕上げていきたく思います。研究を通して、人が内的に豊かに生きるとはどのようなことかにも触れ、力動的に研究の意味をも明らかにしていくように授業進行をしていきます。

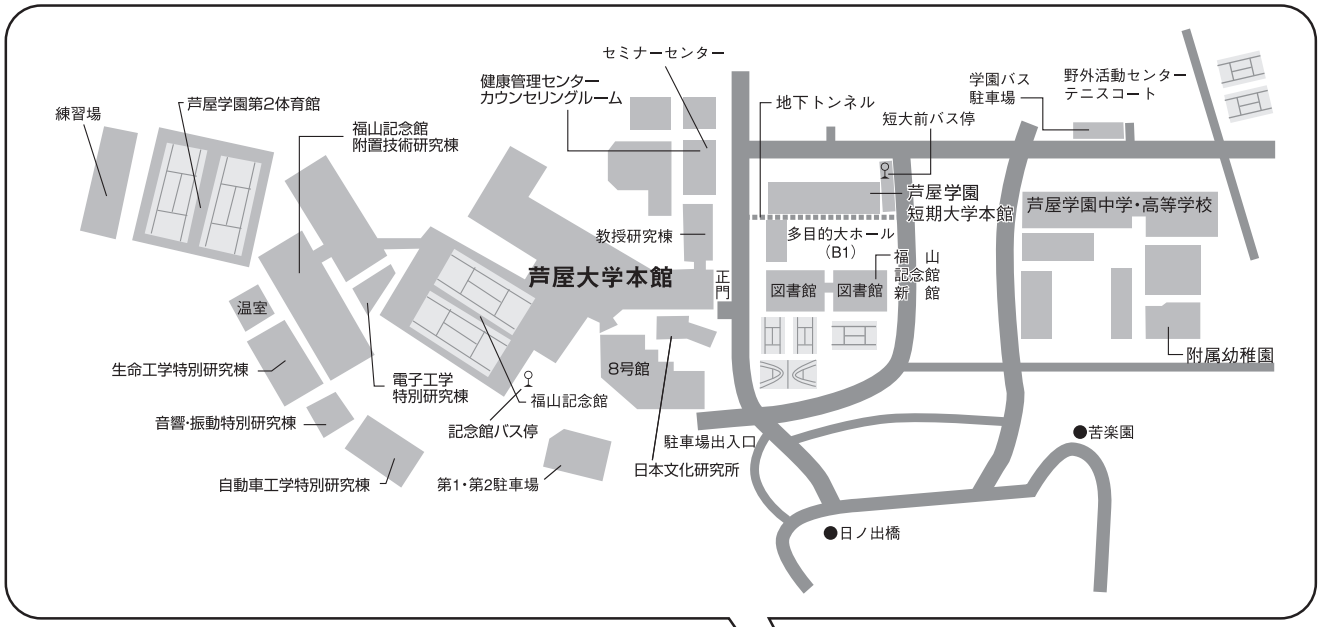
●授業計画

初年度は、各自の専門的に研究したい領域の学術論文を参考にして、論文の基本的な書き方や約束事、先行研究者への質問の仕方などを演習としてしっかりと身につけます。 また、関心のある文献を選び、読破していきます。授業では読んだ文献について提示、自分の研究領域を明確にしていきます。前後して章立てを作成し、自分の研究の流れを明確にします。 次年度は章立てに沿って、論文を仕上げていきます。授業では、毎回やったことを発表してもらい、流れを再確認し、見通しを立てたり、細かな修正点を検討していきます。発表は毎回の検討にあてるものと、中間時点で機材など使用しながら自分の研究を示し、質問を受ける練習をするためのものとを行います。	二年目の夏休み明けくらいには全体を仕上げ、引き続き、随時授業で発表をしていきます。後は修正箇所や追加箇所を細かに検討し仕上げていきます。授業で実際の療法に触れるために、専門機関を訪問することも考えています。

●履修上の注意（参考文献・資料等）
随時、授業で配布。

●成績評価の方法と基準等
研究内容と研究への取り組み、また授業での発表。

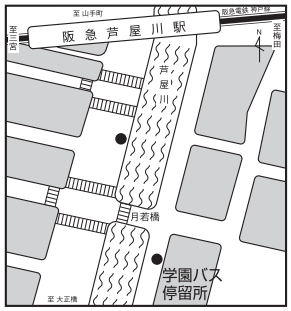
キャンパスマップ



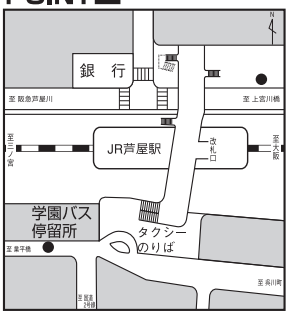
本学までのアクセス

学園バス（無料）停留所

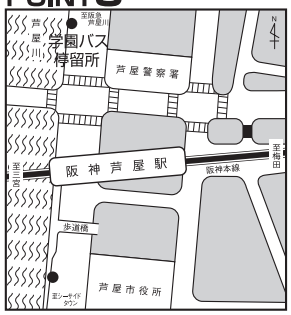
POINT 1



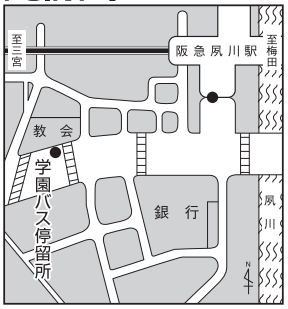
POINT 2



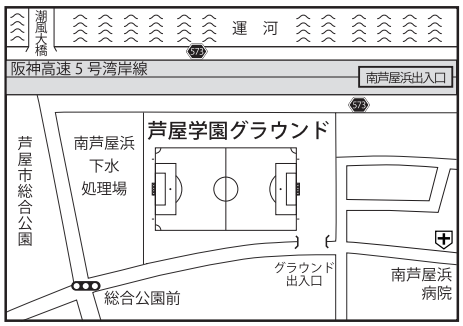
POINT 3



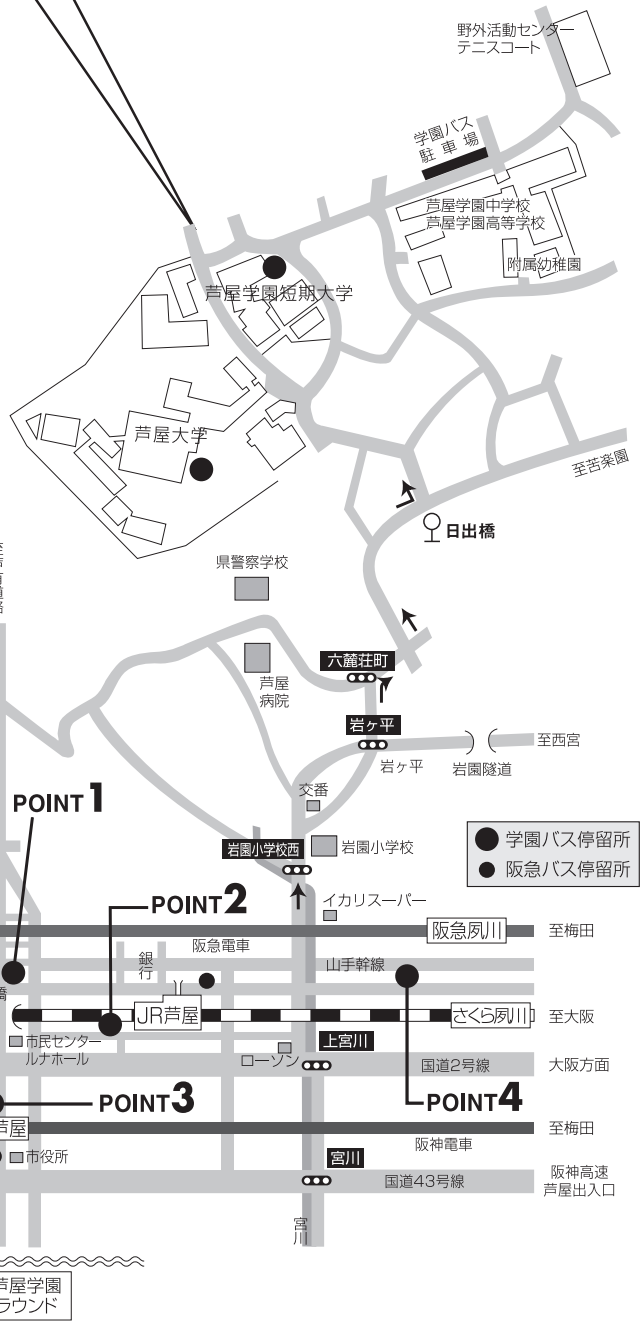
POINT 4

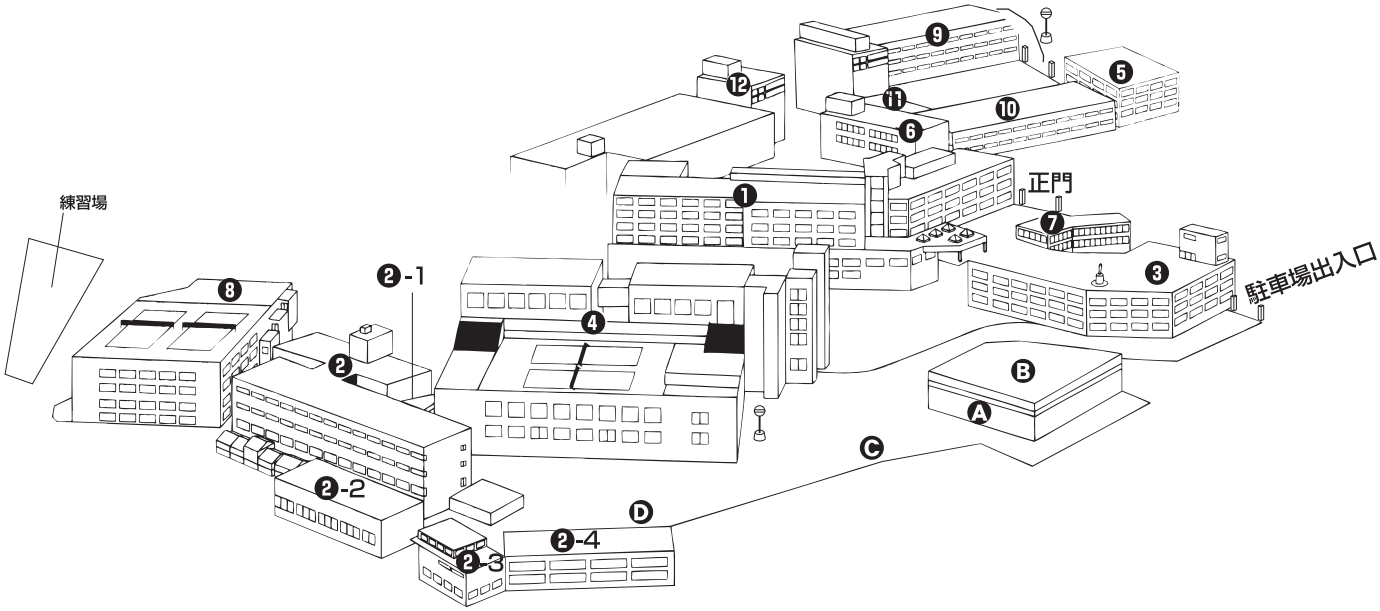


★芦屋学園グラウンド（近隣図）



〒659-0034 兵庫県芦屋市陽光町2-2





①芦屋大学本館（5号館）

4F　·法人事務局　·学園総務部　·入試広報部
　　·教育相談所　·国際会議場　·大学総務部
3F　·コンピュータ教室　·合併講義室　·講義室
2F　·合併講義室　·講義室
1F　·玄関ホール　·学生ホール
　　·学部事務室
　　（学生課·教務課·教職支援課·国際交流課·大学院事務室）
　　·COMMUNICATION SPACE
　　·CONCENTRATION SPACE　·就職部
B1F ·食堂
B2F ·ピアノレッスン室

②福山記念館附置技術研究棟

3F　· 講義室　· 技術科演習室
　　· 写真実習室　· 無線研究室　· クラブ室
2F　· 電気工学実習室　· 製図実習室
　　· 事務室　· 研究室　· CAD 実習室
　　· コンピュータ実習室　· 美術実習室　· 会議室
1F　· 自動車工学実習室　· 金属加工実習室　· 工作機械研究室
　　· 栽培学実習室　· 材料実験室
　　· 木材加工実習室
②－1　電子工学特別研究棟
2F　· 研究室
1F　· 自動車工学研究室
②－2　生命工学特別研究棟
2F　· 環境生理学実験室
1F　· クラブ室
　　· 自動車工学実習室 · 自動車準備室
②－3　音響 · 振動特別研究棟
1F　· 振動 · 音響実験室
B1　· クラブ室
②－4　自動車工学特別研究棟
1F　· クラブ室　· 自動車工学講義室　· 自動車工学実験室

③8号館

3F　· 大学院講義室　·ダンススタジオ
　　· スポーツ科学実習室　·芸術文化センター

④福山記念館

6F　·会議室
5F　·購買部　·カフェ
4F　·Aホール　·Bホール
3F　·スポーツルーム2·3　·柔道場　·屋上テニスコート
2F　·スポーツルーム1　·トレーニングルーム　·音楽ホール
1F　·球技場
B1F ·クラブ室

⑤図書館・福山記念館新館

4F　·ボクシングクラブ　·Bホール
3F　·短大コンピュータセンター
2F　·図書館資料室　·大学院生研究室
1F　·図書館

⑥教授研究棟（1号館）

B1F ·ピアノレッスン室（短大用）

⑦日本文化研究所

⑧芦屋学園第2体育館

3F　·スポーツルーム2
2F　·球技場　·スポーツルーム1
1F　·地域連携推進·スポーツ振興室　·トレーニングルーム

⑨芦屋学園短期大学本館（2号館）

⑩図書館（4号館）

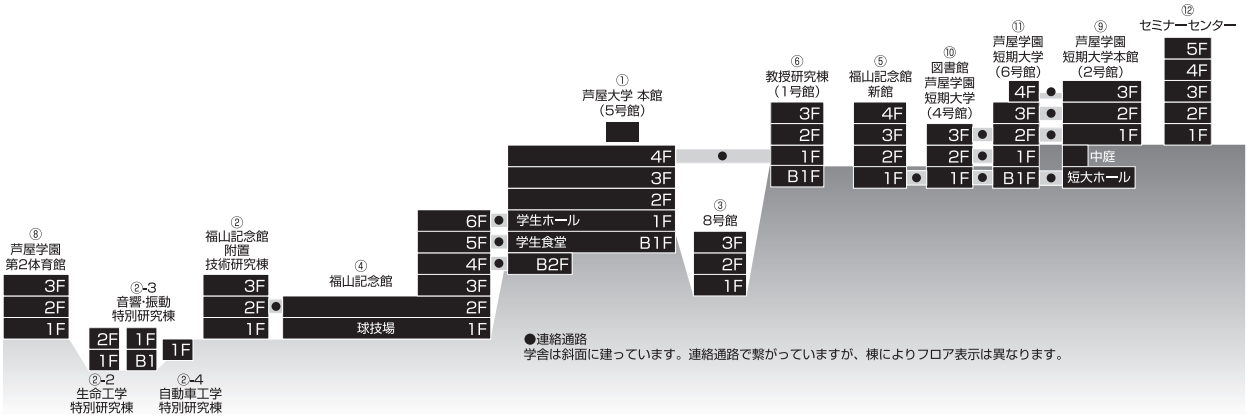
1F　·図書館事務室　·書庫

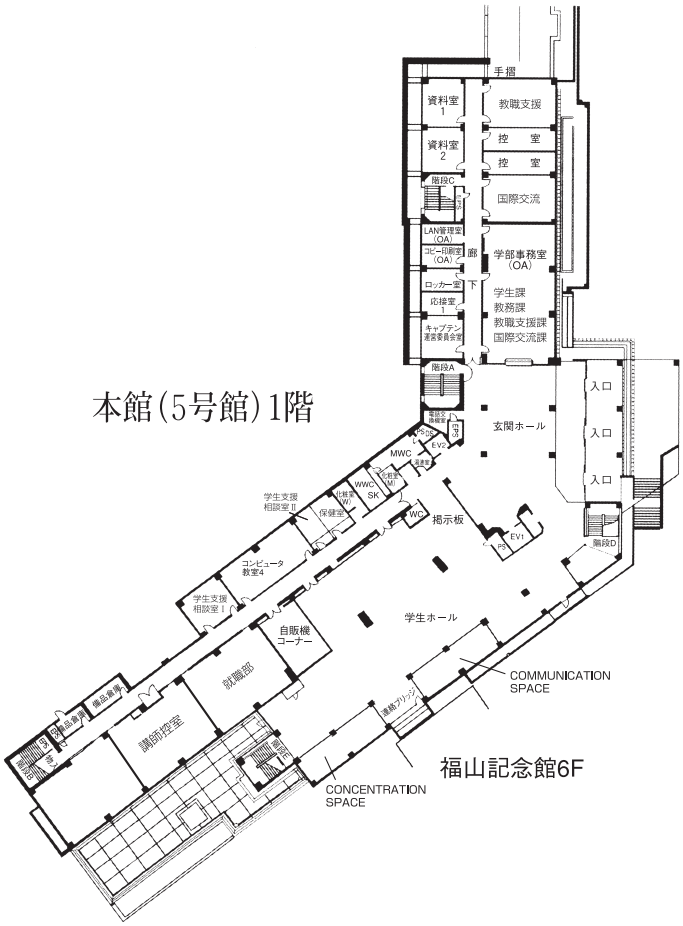
⑪芦屋学園短期大学（6号館）

⑫セミナーセンター

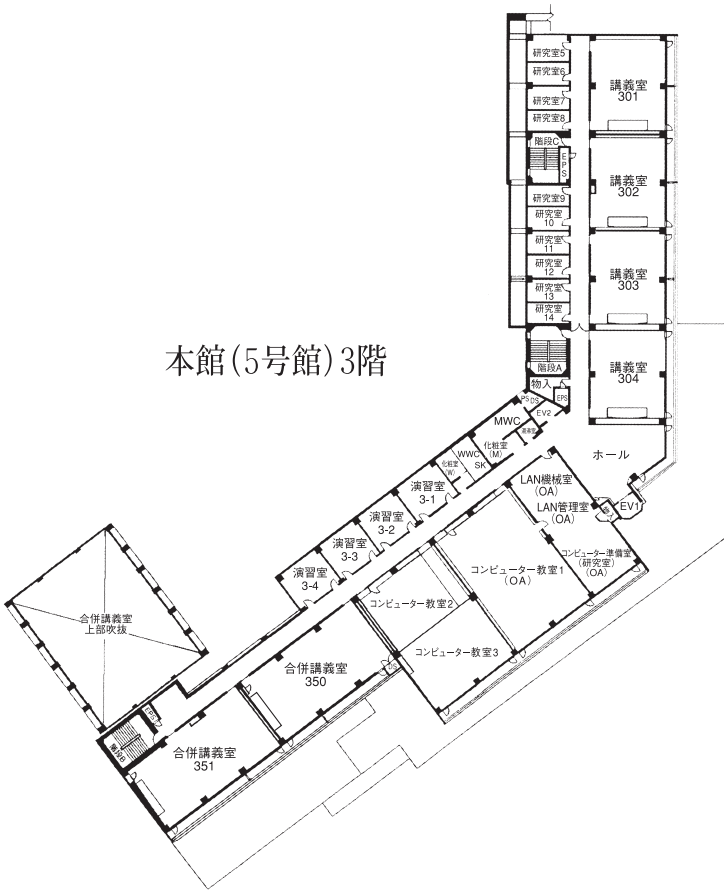
4F　·保育実習室
3F　·修学支援室
2F　·健康管理センター
1F　·カウンセリングルーム

Ⓐ第一 Ⓑ第二駐車場　Ⓒ第三駐車場　Ⓓ第四駐車場

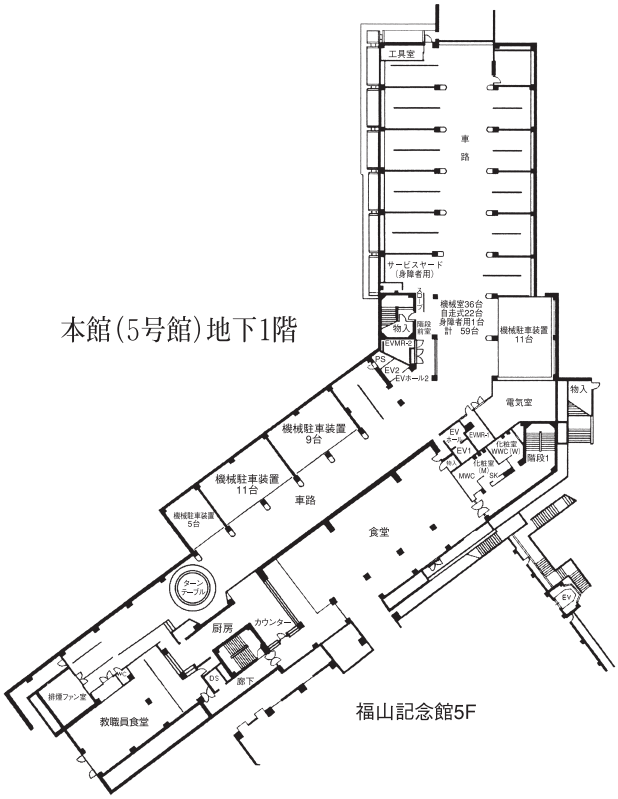


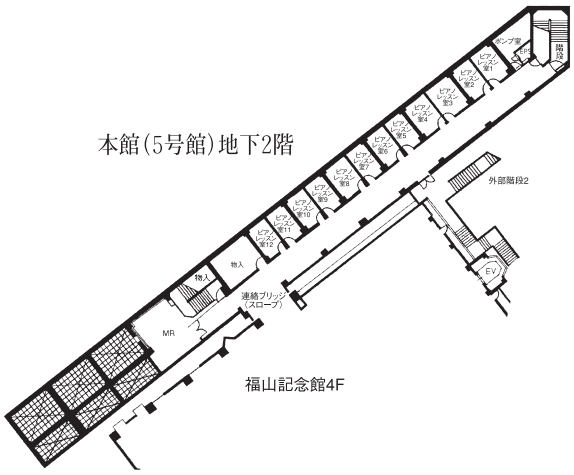

本館(5号館)1階
手摺
資料室1
資料室2
教職支援
控室
控室
国際交流
学部事務室(OA)
学生課
教務課
教職支援課
国際交流課
LAN管理室(OA)
コピー印刷室(OA)
廊下
ロッカー室
応接室1
キャプテン運営委員会室
階段C
階段A
階段D
玄関ホール
入口
入口
入口
掲示板
学生ホール
学生支援相談室Ⅱ
保健室
学生支援相談室Ⅰ
コンピュータ教室4
自販機コーナー
就職部
講師控室
COMMUNICATION SPACE
CONCENTRATION SPACE
福山記念館6F
MWC
WWC
SK
WC
EV1
EV2

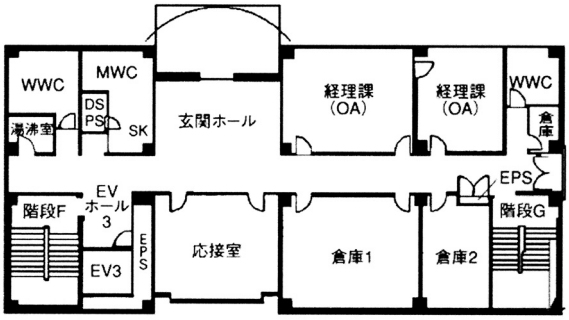
本館(5号館)2階
研究室1
研究室2
研究室3
研究室4
講義室201
講義室202
講義室203
講義室204
心理学研究室
演習室2-2
演習室2-3
演習室2-4
演習室2-5
演習室2-6
ホール
合併講義室250
合併講義室251
合併講義室252
講義室205
講義室206
講義室207
屋上1
MWC
WWC
SK
EV1
EV2


本館(5号館)3階
研究室5
研究室6
研究室7
研究室8
研究室9
研究室10
研究室11
研究室12
研究室13
研究室14
講義室301
講義室302
講義室303
講義室304
ホール
LAN機械室(OA)
LAN管理室(OA)
コンピューター準備室(研究室)(OA)
コンピューター教室1(OA)
コンピューター教室2
コンピューター教室3
演習室3-1
演習室3-2
演習室3-3
演習室3-4
合併講義室350
合併講義室351
合併講義室上部吹抜
MWC
WWC
SK
EV1
EV2

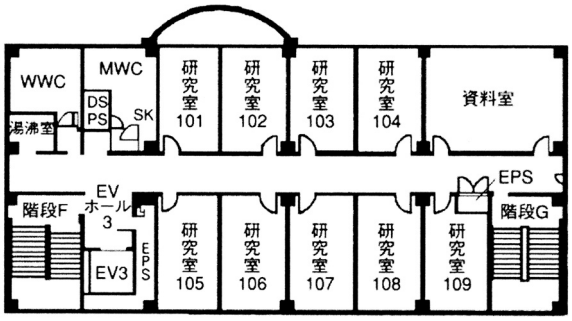
本館(5号館)4階
理事長応接室
理事長前室
理事長室
法人事務局
学園総務部
監事室
学長前室
学長応接室
事務局長室
学長室
会議室1
ホール
入試広報部
会議室
面接室
会議室3
学長室2
研究室17
研究室16
法人応接室
職員応接室
大学総務部
教育相談所
福山重一博士記念室
国際会議場
倉庫
研究室22
研究室20
MWC
WWC
SK
EV1
EV2



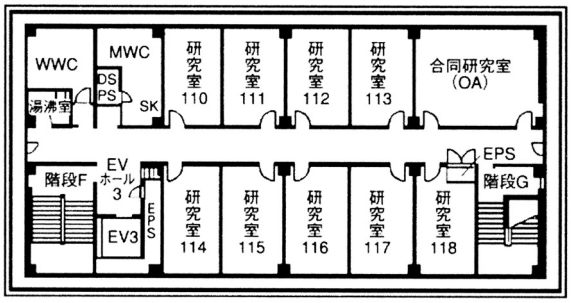




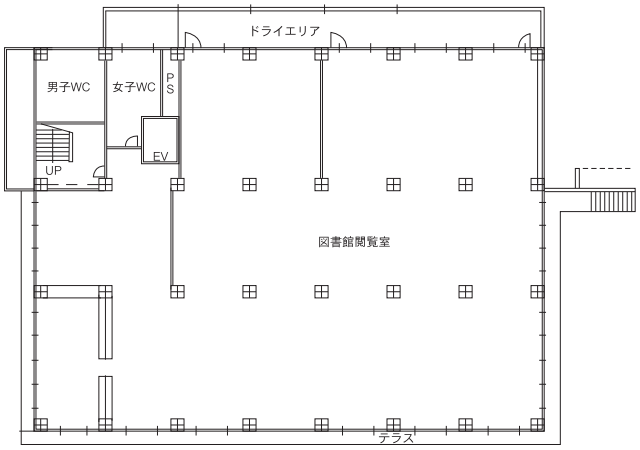
1号館　1階



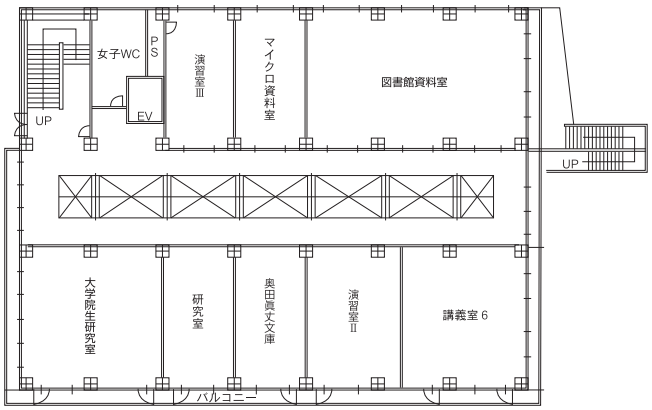
1号館　2階



1号館　3階

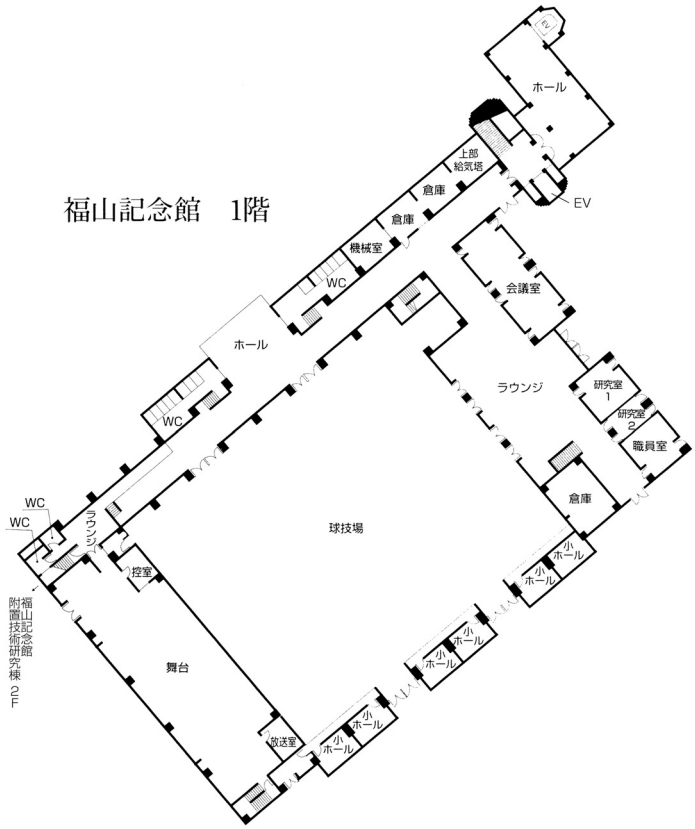


福山記念館新館1階図書館

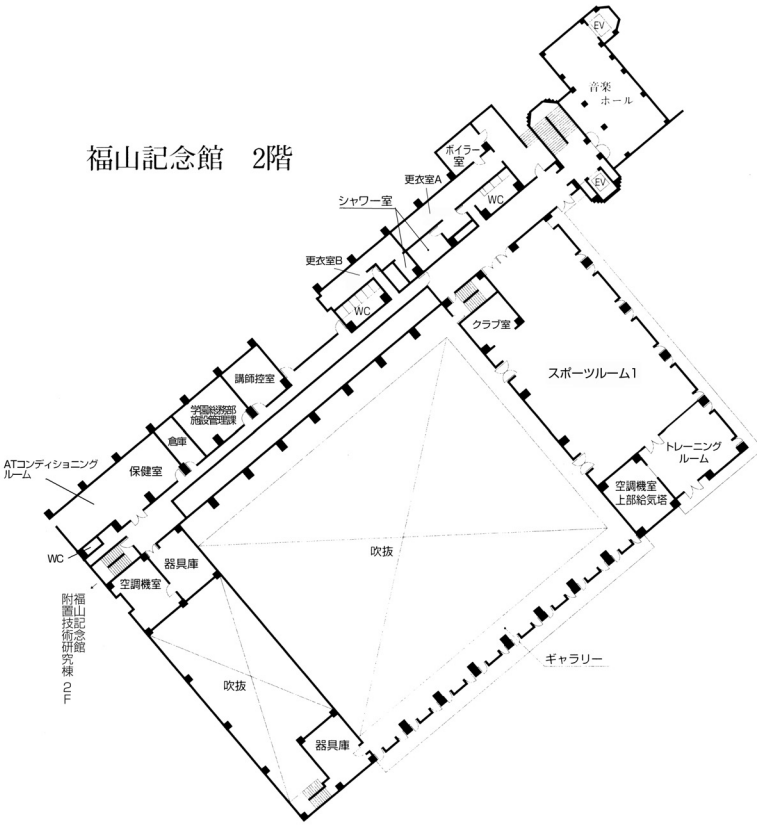


福山記念館新館2階

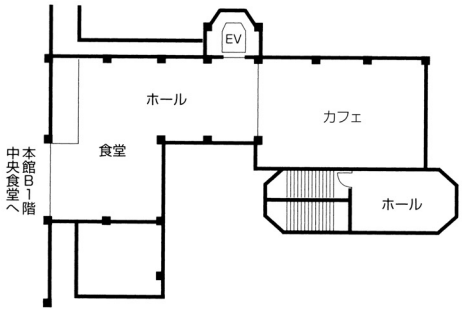
福山記念館　1階



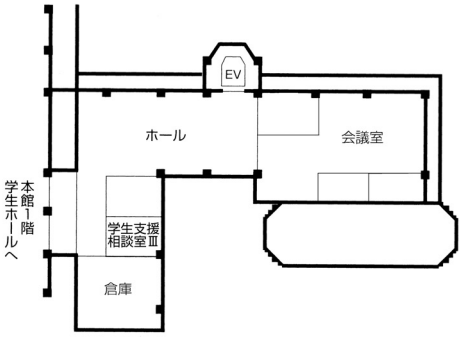
福山記念館　2階



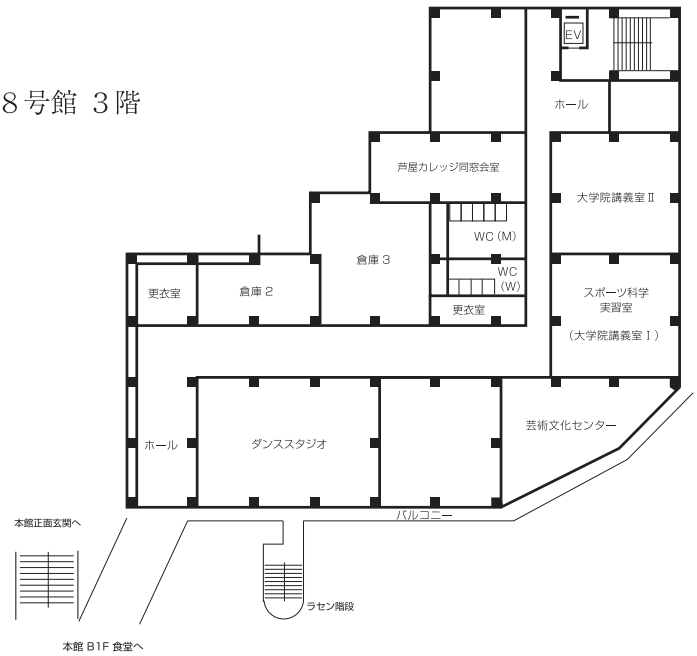
福山記念館　5階



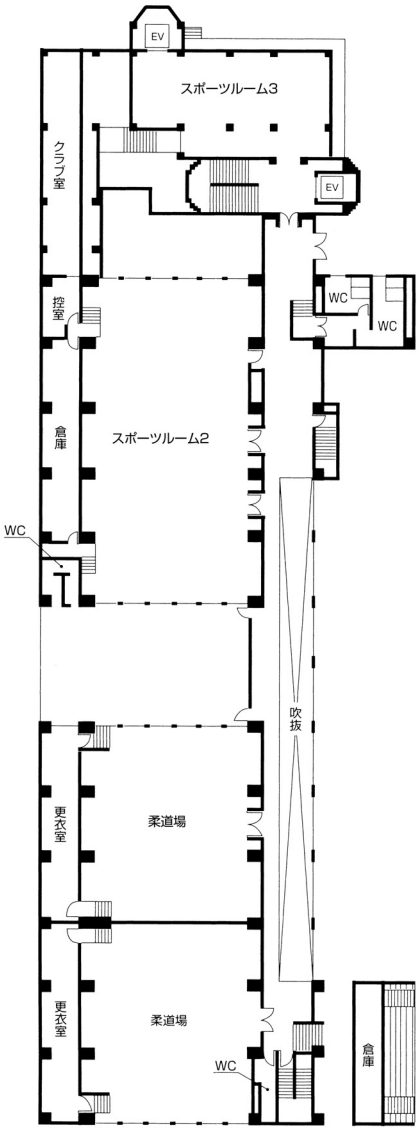
福山記念館　6階



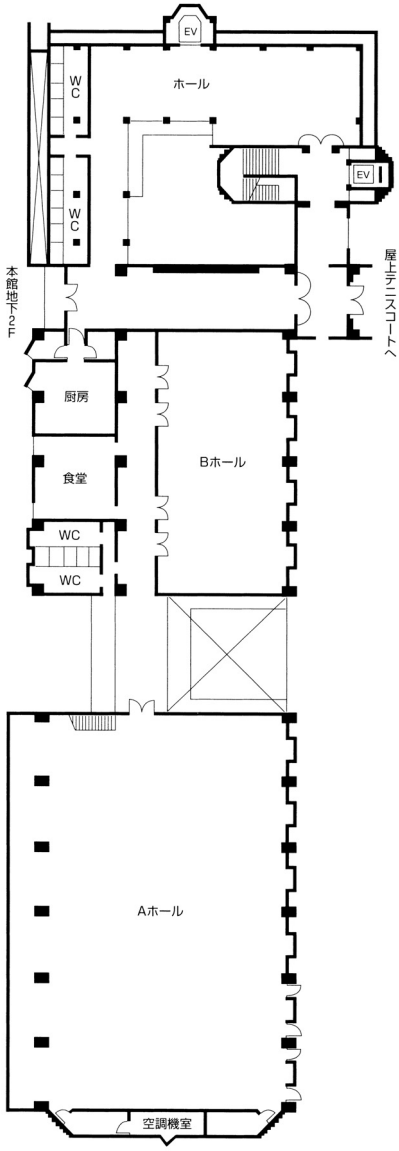
8号館 3階



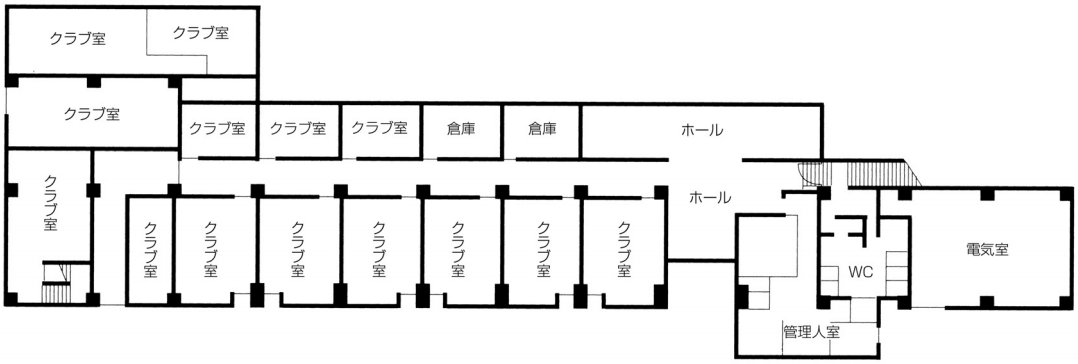
福山記念館　3階



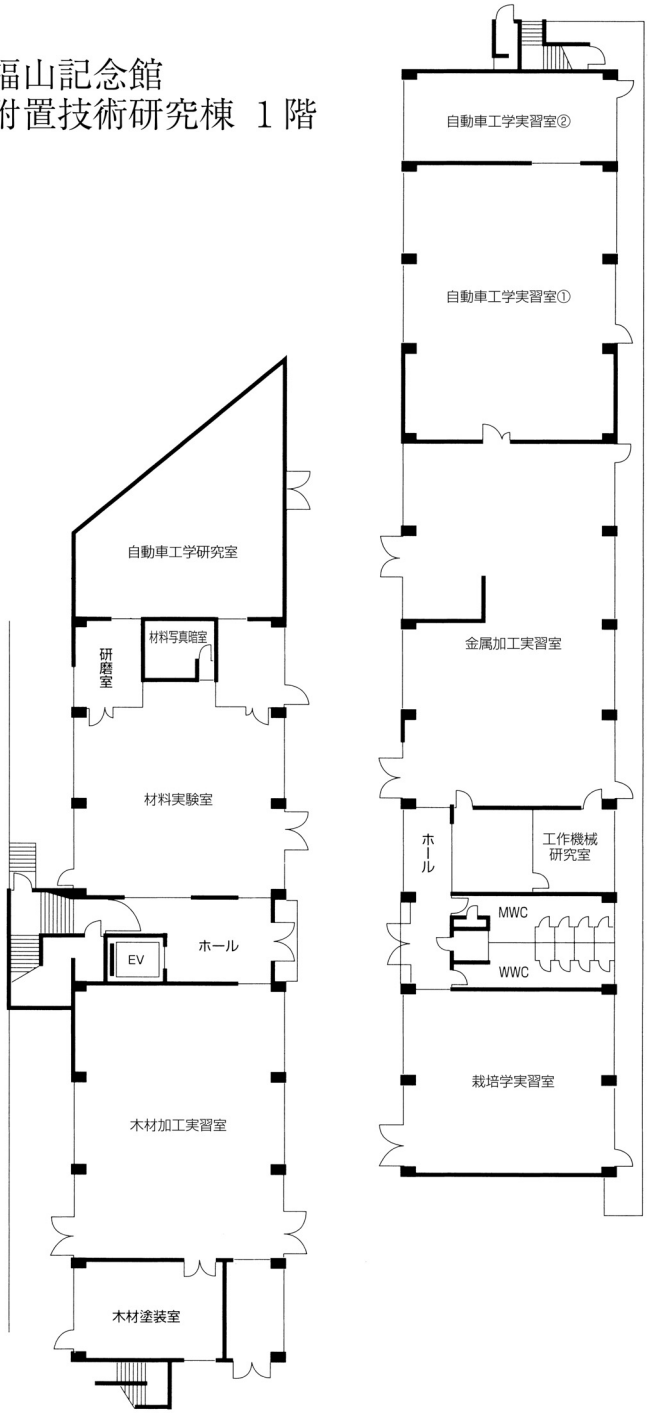
福山記念館　4階



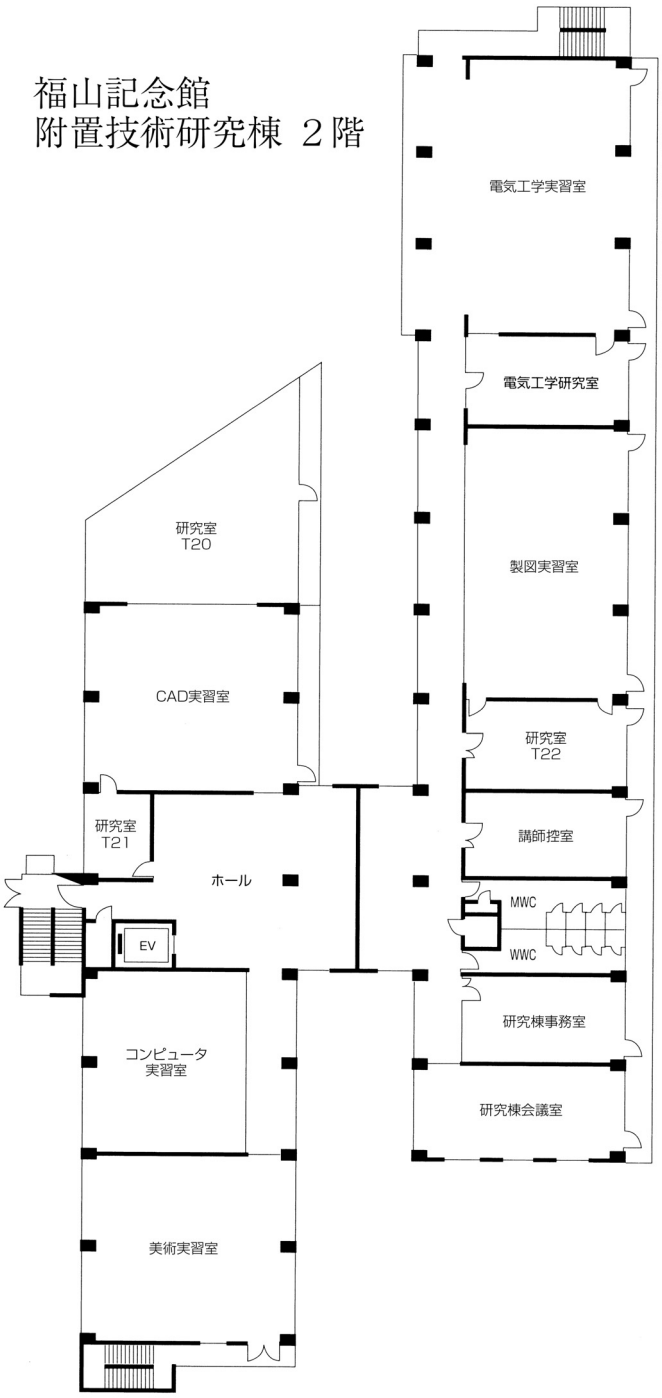
福山記念館　地下1階



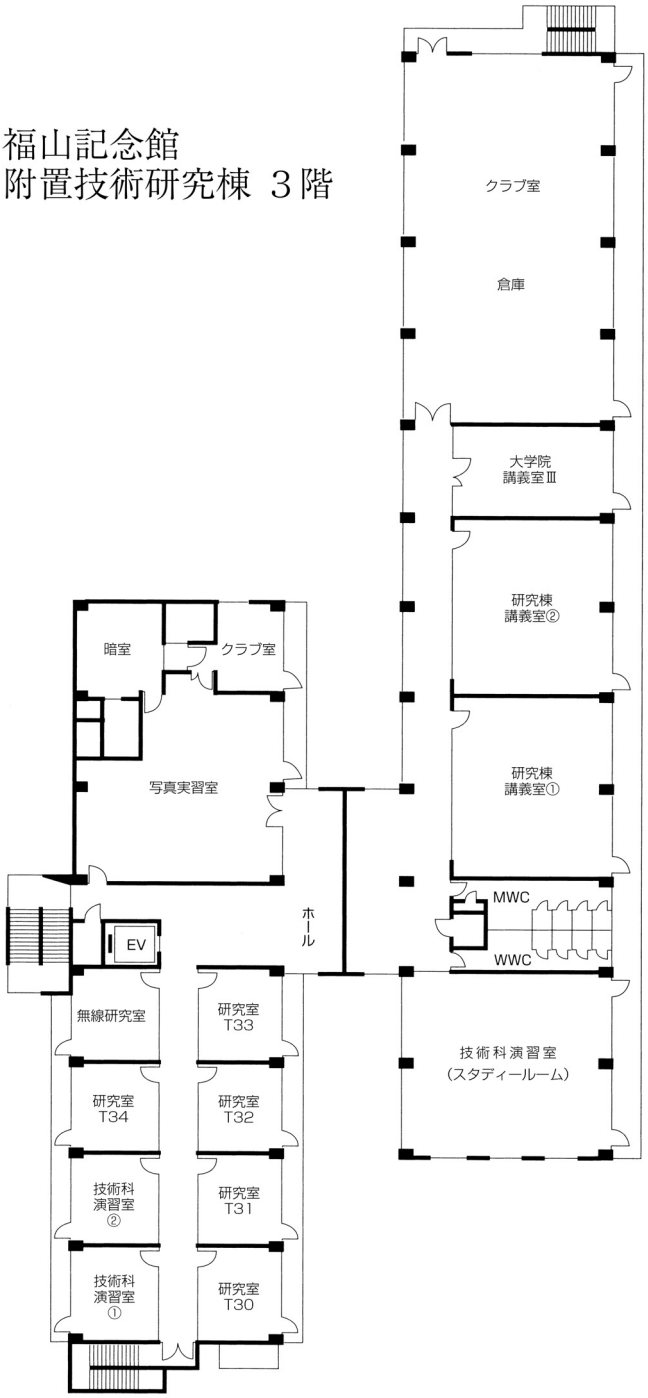
福山記念館
附置技術研究棟 1階



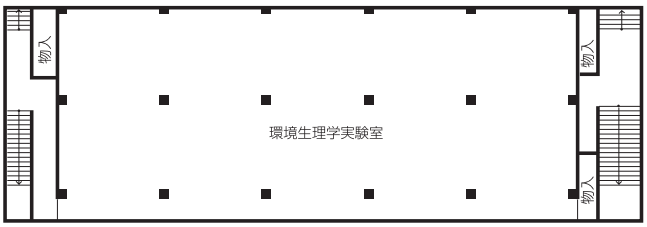
福山記念館
附置技術研究棟 2階



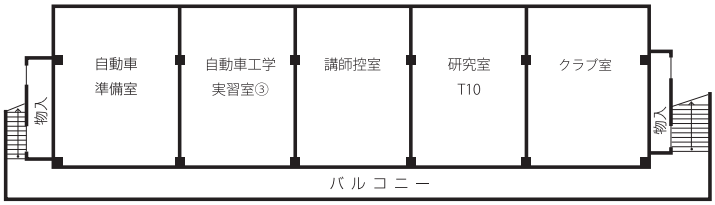
福山記念館
附置技術研究棟 ３階



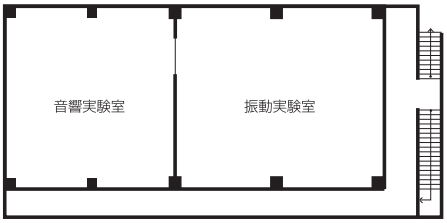
生命工学特別研究棟　２階



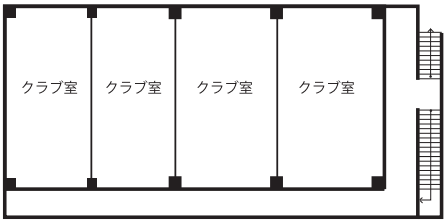
生命工学特別研究棟　１階



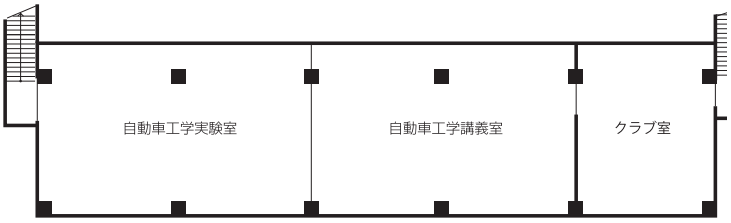
音響・振動特別研究棟　１階

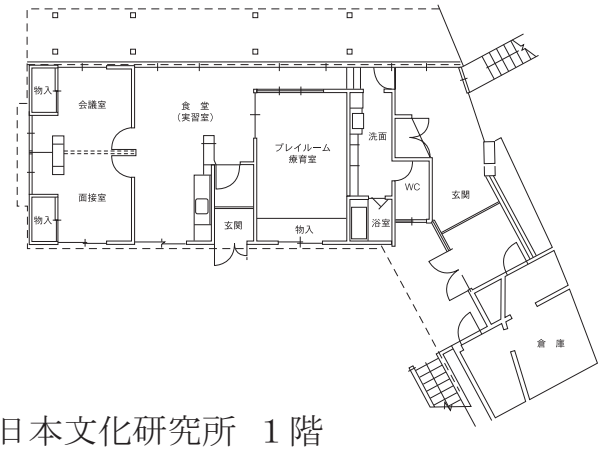


音響・振動特別研究棟 Ｂ１階

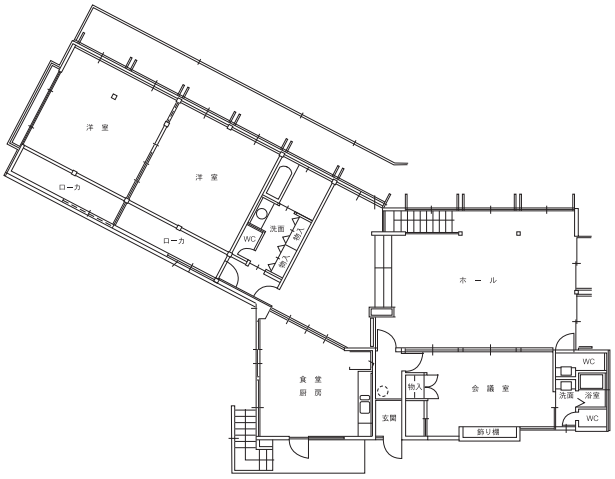


自動車工学特別研究棟　１階

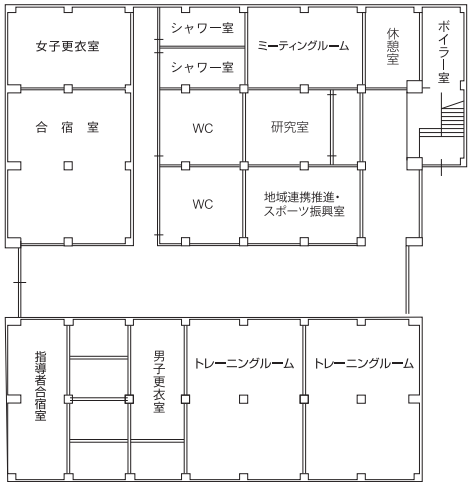




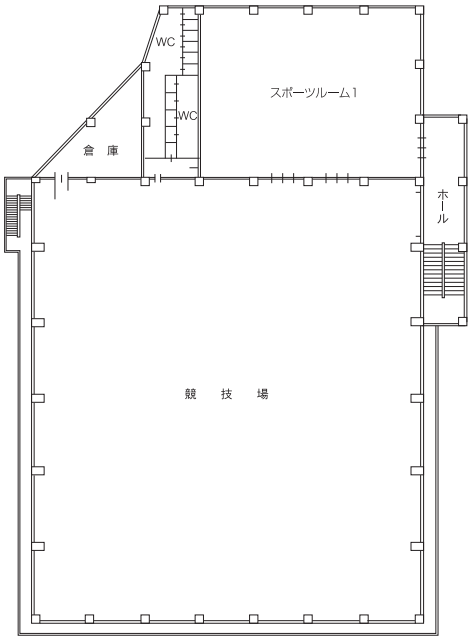
日本文化研究所　１階



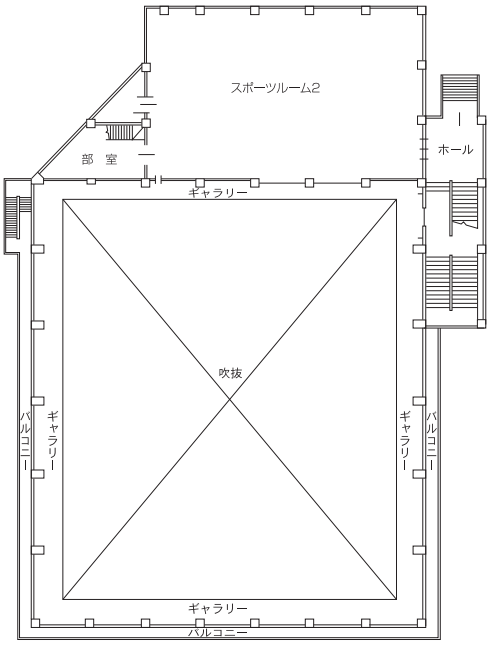
日本文化研究所　２階



芦屋学園第２体育館　１階



芦屋学園第２体育館　２階



芦屋学園第２体育館　３階

索　引

教育学専攻

	科目名	前	後	教員名	頁
教育学	教育学基礎研究Ⅰ①	○		三羽　光彦	48
	教育学基礎研究Ⅰ②		○	三羽　光彦	49
	西洋教育思想・思想史Ⅰ	○		廣岡　義之	63
	西洋教育思想・思想史Ⅱ		○	廣岡　義之	64
	生徒指導・進路指導特論Ⅰ	○		吉田　隆夫	62
	生徒指導・進路指導特論Ⅱ		○	吉田　隆夫	63
	教育哲学研究		○	廣岡　義之	52
	人間関係論研究				
	日本教育思想史Ⅰ	○		三羽　光彦	66
	日本教育思想史Ⅱ		○	三羽　光彦	67
	教育学演習Ⅰ	○		三羽　光彦	47
	教育学演習Ⅱ		○	三羽　光彦	48
	健康スポーツ教育学研究Ⅰ	○		中塘二三生	53
	健康スポーツ教育学研究Ⅱ		○	中塘二三生	54
教育文化学	教育経営論				
	教育行政学Ⅰ	○		三羽　光彦	49
	教育行政学Ⅱ		○	三羽　光彦	50
	比較教育学研究				
	教育社会学Ⅰ	○		吉田　隆夫	50
	教育社会学Ⅱ		○	吉田　隆夫	51
	生涯教育学Ⅰ				
	生涯教育学Ⅱ				
	教育文化学演習				
教育心理学	教育心理学	○		三浦　正樹	51
	発達心理学		○	三浦　正樹	67
	教育評価		○	吉田　隆夫	52
	臨床心理学				
	心理検査法				
	学校カウンセリングⅠ	○		林　知代	40
	学校カウンセリングⅡ				
	臨床心理学特論	○		林　知代	69
	社会心理学研究				
	教育心理学演習				
人間環境	人間環境研究				
	環境教育研究		○	林　圭一	40
	健康教育研究				
	環境保健学研究				
	産業衛生学演習				
	健康学研究				
	環境生物学研究		○	渡　康彦	41
	都市環境研究	○		大石　徹	66
	都市環境演習		○	大石　徹	65
	環境技術研究				
	国際文化研究	○		中田　康行	55
	地域文化研究				
	環境政策研究				
	NPO 研究				
	福祉行政研究				
	国際開発教育研究		○	林　徳治	54

	科目名	前	後	教員名	頁
産業技術	科学技術特論				
	技術と人間形成		○	藤本　光司	46
	計算科学研究				
	現代産業技術				
	情報システム論	○		中村　宏敏	58
	情報数理研究	○		若杉　祥太	59
	マルチメディア研究		○	中村　宏敏	68
	機械工学特論	○		林　圭一	41
	情報教育研究		○	若杉　祥太	58
	CG／CAD 研究		○	林　圭一	56
	自動車技術研究				
	都市環境研究	○		大石　徹	66
	都市環境演習		○	大石　徹	65
	環境技術研究				
特別支援教育（その他）	授業の臨床研究				
	精神医学研究				
	家庭教育研究				
	脳科学研究				
	司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開		○	林　知代	57
	心理アセスメントに関する理論と実践	○		林　知代	62
	心の健康教育に関する理論と実践		○	林　知代	56
	精神医学演習				
	臨床心理学特論	○		林　知代	69
	障害児福祉論				
	特別支援教育研究（制度と歴史）		○	田中　道治	65
	特別支援教育研究(コミュニケーションと人間関係)	○		田中　道治	64
	障害心理学研究				
	障害心理学演習				
	障害生理学研究				
	障害生理学演習				
	障害病理学研究				
	障害病理学演習				
	障害教育課程論				
	障害教育指導法				
	特別支援教育演習				
	特別支援カウンセリング				

技術教育専攻

	科目名	前	後	教員名	頁
技術教育	技術科教育課程論Ⅰ	○		藤本　光司	42
	技術科教育課程論Ⅱ		○	藤本　光司	43
	技術科教育研究	○		安東　茂樹	43
	技術科教育研究演習		○	安東　茂樹	44
	技術科教材研究Ⅰ	○		藤本　光司	44
	技術科教材研究Ⅱ		○	盛谷　亨	45
	技術と人間形成		○	藤本　光司	46
	技術科と情報教育	○		盛谷　亨	45
	技術科と情報教育演習		○	盛谷　亨	46
	環境教育研究		○	林　圭一	40
	自動車技術研究				
	諸外国における技術教育の現状				
	情報倫理研究	○		林　泰子	59
	教育メディア研究	○		林　徳治	53
産業技術	科学技術研究				
	計算科学研究				
	現代産業技術				
	情報システム論	○		中村　宏敏	58
	情報数理研究	○		若杉　祥太	59
	マルチメディア研究		○	中村　宏敏	68
	機械工学特論	○		林　圭一	41
	情報教育研究		○	若杉　祥太	58
	CG／CAD 研究		○	林　圭一	56
	都市環境研究	○		大石　徹	66
	都市環境演習		○	大石　徹	65
	環境技術研究				
キャリア開発	職業指導学研究		○	中村　隆司	60
	キャリア教育研究	○		中村　隆司	47
	職業選択研究Ⅰ	○		湯尾　愼一	60
	職業選択研究Ⅱ		○	湯尾　愼一	61
	産業心理学研究				
	組織心理学研究				
	キャリア・カウンセリング研究				
	キャリア・マネジメント研究				
	人材育成研究				
	経営組織研究				
	経営戦略研究				
	事業開発研究		○	今岡　重男	57
	商品開発研究				
	経営研究				
	経営管理研究				
	企業診断研究		○	政岡　勝治	42
	経営情報処理研究				
	マーケティング研究	○		政岡　勝治	68
	企業財務研究				
	企業金融研究				
	非営利組織研究				
	人的資源管理研究		○	今岡　重男	61
	技術戦略研究				
	国際経営研究		○	政岡　勝治	55

	科目名	前	後	教員名	頁
人間環境	人間環境研究				
	健康教育研究				
	環境保健学研究				
	産業衛生学演習				
	健康学研究				
	環境生物学研究		○	渡　康彦	41
	都市環境研究				
	都市環境研究				
	環境教育研究		○	林　圭一	40
	国際文化研究	○		中田　康行	55
	地域文化研究				
	環境政策研究				
	NPO 研究				
	福祉行政研究				
	国際開発教育研究		○	林　徳治	54

英語・英文学教育専攻

	科目名	前	後	教員名	頁
英語学・英語教育	外国語としての英語教材研究				
	英語科教授法の実践的研究				
	英米における言語教育の実際				
	英語教育と英語の成り立ち	○		中田　康行	72
	新しい英語科教授法				
	日本における英語教育の実際	○		中田　康行	74
	各種英語検定試験と英語教育				
	マスメディアと英語教育				
	言語学の成り立ち				
	世界語としての英語		○	中田　康行	74
	言語学と英語教育		○	中田　康行	73
国際文化	国際福祉論				
	国際文化論	○		中田　康行	73
	西欧文化論				
	国際関係論				
	アジア文化論				
	ロシア・東欧文化論				
英米文学・文化	英文学とリーディング教育				
	文学教材を活かす英語教育				
	米文学とリーディング教育				
	英米文学と映像教育				
	英文化研究				
	英語圏文学と異文化理解		○	中田　康行	72
	英会話実践研究				

特別研究

	科目名	前	後	教員名	頁
特別研究	特別研究〔環境生物学〕	●	●	渡　康彦	76
	特別研究〔教育学演習〕	●	●	三羽　光彦	76
	特別研究〔教育心理学演習〕	●	●	三浦　正樹	77
	特別研究〔教育方法学〕	●	●	藤本　光司	77
	特別研究〔技術科教材開発〕	●	●	盛谷　亨	78
	特別研究〔事業開発〕	●	●	今岡　重男	78
	特別研究〔心理臨床演習〕	●	●	林　知代	79

掲載科目 50 音順索引

	科目名	前	後	教員名	頁
あ	アジア文化論				
え	英語科教授法の実践的研究				
	英語教育と英語の成り立ち	○		中田　康行	72
	英語圏文学と異文化理解		○	中田　康行	72
	英文学とリーディング教育				
	英文化研究				
	英米における言語教育の実際				
	英米文学と映像教育				
	NPO 研究				
か	外国語としての英語教材研究				
	各種英語検定試験と英語教育				
	学校カウンセリング Ⅰ	○		林　知代	40
	家庭教育研究				
	環境技術研究				
	環境教育研究		○	林　圭一	40
	環境政策特論				
	環境生物学研究		○	渡　康彦	41
	環境保健学研究				
き	機械工学特論	○		林　圭一	41
	企業金融研究				
	企業財務研究				
	企業診断研究		○	政岡　勝治	42
	技術科教育課程論 Ⅰ	○		藤本　光司	42
	技術科教育課程論 Ⅱ		○	藤本　光司	43
	技術科教育研究	○		安東　茂樹	43
	技術科教育研究演習		○	安東　茂樹	44
	技術科教材研究 Ⅰ	○		藤本　光司	44
	技術科教材研究 Ⅱ		○	盛谷　亨	45
	技術科と情報教育	○		盛谷　亨	45
	技術科と情報教育演習		○	盛谷　亨	46
	技術戦略研究論				
	技術と人間形成		○	藤本　光司	46
	キャリア教育研究	○		中村　隆司	47
	教育学演習 Ⅰ	○		三羽　光彦	47
	教育学演習 Ⅱ		○	三羽　光彦	48
	教育学基礎研究 Ⅰ①	○		三羽　光彦	48
	教育学基礎研究 Ⅰ②		○	三羽　光彦	49
	教育行政学 Ⅰ	○		三羽　光彦	49
	教育行政学 Ⅱ		○	三羽　光彦	50
	教育経営論研究				
	教育社会学 Ⅰ	○		吉田　隆夫	50
	教育社会学 Ⅱ		○	吉田　隆夫	51
	教育心理学	○		三浦　正樹	51
	教育哲学研究		○	廣岡　義之	52
	教育評価		○	吉田　隆夫	52
	教育メディア研究	○		林　徳治	53
け	経営管理研究				
	経営情報処理研究				
	経営戦略研究				
	経営組織研究				
	経営研究				
	計算科学研究				
	健康教育研究				
	健康スポーツ教育学研究 Ⅰ	○		中塘二三生	53
	健康スポーツ教育学研究 Ⅱ		○	中塘二三生	54

	科目名	前	後	教員名	頁
け	言語学と英語教育		○	中田　康行	73
	言語学の成り立ち				
	現代産業技術 Ⅰ				
こ	国際開発教育研究		○	林　徳治	54
	国際関係論				
	国際経営研究		○	政岡　勝治	55
	国際文化研究	○		中田　康行	55
	国際文化論	○		中田　康行	73
	心の健康教育に関する理論と実践		○	林　知代	56
さ	産業衛生学演習				
し	CG／CAD 研究		○	林　圭一	56
	事業開発研究		○	今岡　重男	57
	授業の臨床研究				
	司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開		○	林　知代	57
	障害児福祉論				
	情報教育研究		○	若杉　祥太	58
	情報システム論	○		中村　宏敏	58
	情報数理研究	○		若杉　祥太	59
	情報倫理研究	○		林　泰子	59
	諸外国における技術教育の現状				
	職業指導学研究		○	中村　隆司	60
	職業選択研究 Ⅰ	○		湯尾　愼一	60
	職業選択研究 Ⅱ		○	湯尾　愼一	61
	人材育成特論				
	人的資源管理特論		○	今岡　重男	61
	心理アセスメントに関する理論と実践	○		林　知代	62
せ	西欧文化論				
	生徒指導・進路指導特論 Ⅰ	○		吉田　隆夫	62
	生徒指導・進路指導特論 Ⅱ		○	吉田　隆夫	63
	西洋教育思想・思想史 Ⅰ	○		廣岡　義之	63
	西洋教育思想・思想史 Ⅱ		○	廣岡　義之	64
	世界語としての英語		○	中田　康行	74
ち	地域文化研究				
と	特別研究〔環境生物学〕	●	●	渡　康彦	76
	特別研究〔教育学演習〕	●	●	三羽　光彦	76
	特別研究〔教育心理学演習〕	●	●	三浦　正樹	77
	特別研究〔教育方法学〕	●	●	藤本　光司	77
	特別研究〔技術科教材開発〕	●	●	盛谷　亨	78
	特別研究〔事業開発〕	●	●	今岡　重男	78
	特別研究〔心理臨床演習〕	●	●	林　知代	79
	特別支援教育研究（コミュニケーションと人間関係）	○		田中　道治	64
	特別支援教育研究（制度と歴史）		○	田中　道治	65
	都市環境演習		○	大石　徹	65
	都市環境研究	○		大石　徹	66
に	日本教育思想史 Ⅰ	○		三羽　光彦	66
	日本教育思想史 Ⅱ		○	三羽　光彦	67
	日本における英語教育の実際	○		中田　康行	74
	人間環境研究				
	人間関係研究				
は	発達心理学		○	三浦　正樹	67
ひ	非営利組織研究				
ふ	福祉行政研究				
	文学教材を活かす英語教育				
へ	米文学とリーディング教育				
ま	マーケティング研究	○		政岡　勝治	68
	マスメディアと英語教育				
	マルチメディア特論		○	中村　宏敏	68
り	臨床心理学研究				
	臨床心理学特論	○		林　知代	69

担当教員 50 音順索引

	教員名	科目名	前	後	頁
あ	安東　茂樹	技術科教育研究	○		43
		技術科教育研究演習		○	44
い	今岡　重男	事業開発研究		○	57
		人的資源管理研究		○	61
		特別研究〔事業開発〕	●	●	78
お	大石　徹	都市環境研究	○		66
		都市環境演習		○	65
さ	三羽　光彦	教育学演習Ⅰ	○		47
		教育学演習Ⅱ		○	48
		教育学基礎研究Ⅰ①	○		48
		教育学基礎研究Ⅰ②		○	49
		教育行政学Ⅰ	○		49
		教育行政学Ⅱ		○	50
		特別研究〔教育学演習〕	●	●	76
		日本教育思想史Ⅰ	○		66
		日本教育思想史Ⅱ		○	67
た	田中　道治	特別支援教育研究（コミュニケーションと人間関係）	○		64
		特別支援教育研究（制度と歴史）		○	65
な	中田　康行	英語教育と英語の成り立ち	○		72
		英語圏文学と異文化理解		○	72
		言語学と英語教育		○	73
		国際文化研究	○		55
		国際文化論	○		73
		世界語としての英語		○	74
		日本における英語教育の実際	○		74
	中塘二三生	健康スポーツ教育学研究Ⅰ	○		53
		健康スポーツ教育学研究Ⅱ		○	54
	中村　隆司	キャリア教育研究	○		47
		職業指導学研究		○	60
	中村　宏敏	情報システム論	○		58
		マルチメディア研究		○	68
は	林　圭一	環境教育研究		○	40
		機械工学特論	○		41
		CG／CAD 研究		○	56
	林　徳治	教育メディア研究	○		53
		国際開発教育研究		○	54
	林　知代	学校カウンセリングⅠ	○		40
		心の健康教育に関する理論と実践		○	56
		司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開		○	57
		心理アセスメントに関する理論と実践	○		62
		特別研究〔心理臨床演習〕	●	●	79
		臨床心理学特論	○		69
	林　泰子	情報倫理研究	○		59
ひ	廣岡　義之	教育哲学研究		○	52
		西洋教育思想・思想史Ⅰ	○		63
		西洋教育思想・思想史Ⅱ		○	64
ふ	藤本　光司	技術科教材研究Ⅰ	○		44
		技術科教育課程論Ⅰ	○		42
		技術科教育課程論Ⅱ		○	43
		技術と人間形成		○	46
		特別研究〔教育方法学〕	●	●	77
ま	政岡　勝治	企業診断研究		○	42
		国際経営研究		○	55
		マーケティング研究	○		68
み	三浦　正樹	教育心理学	○		51
		特別研究〔教育心理学演習〕	●	●	77
		発達心理学		○	67
も	盛谷　亨	技術科教材研究Ⅱ		○	45
		技術科と情報教育	○		45
		技術科と情報教育演習		○	46
		特別研究〔技術科教材開発〕	●	●	78
ゆ	湯尾　愼一	職業選択研究Ⅰ	○		60
		職業選択研究Ⅱ		○	61
よ	吉田　隆夫	教育社会学Ⅰ	○		50
		教育社会学Ⅱ		○	51
		教育評価		○	52
		生徒指導・進路指導特論Ⅰ	○		62
		生徒指導・進路指導特論Ⅱ		○	63
わ	若杉　祥太	情報教育研究		○	58
		情報数理研究	○		59
	渡　康彦	環境生物学研究		○	41
		特別研究〔環境生物学〕	●	●	76

学内問い合わせ先

大学学部事務室　　学生課・教務課	TEL	0797－23－0662	FAX	0797－38－6721
教職支援課	TEL	0797－38－6711	FAX	0797－38－6712
国際交流課	TEL	0797－38－6710	FAX	0797－38－6712
就職部	TEL	0797－38－6713	FAX	0797－38－6712
地域連携推進・スポーツ振興室	TEL	0797－38－6730	FAX	0797－38－6731
図書館	TEL	0797－23－0664	FAX	0797－38－6704
附置技術研究棟	TEL	0797－22－9201	FAX	0797－38－6724

大学院便覧（2019 年度版）　平成31年4月1日発行

発 行 所　芦屋大学大学院
芦屋市六麓荘町13番22号　〒659-8511
TEL（0797）２３－０６６２（学部事務室直通）
FAX（0797）３８－６７２１（学部事務室）
http://www.ashiya-u.ac.jp
印 刷 所　中村企画印刷社
神戸市灘区高尾通 3-1-15-205 〒657-0813
TEL（078）８８１－０６５４